

モ知レス 桓武天皇紀念祭ニモ五萬圓位ノ支出ヲ要シ猶其他圓山ノ公園等ニモ數萬圓ノ金ヲ要スルナリ之ノ如ク悉皆ヲ成就セシメントスレハ少クモ五拾萬圓以上ノ金額ヲ要ス去レハ此莫大ノ金額ヲ支出セントスレハ必ス新稅源ヲ見出サ、ルヘカラス假令新稅源ヲ發見シ之ヲ果ストスルモ其緩急ヲ計ルハ尤モ必要ノコト、思フ其緩急ヲ考フルトキハ鴨川ハ至急ト謂ハ、急ト云ヘルモ強チ本年ニ遂グル程ノ急ニモアラサルヘケレハ延期シタルチ幸ヒ今少シ先ニ延スモ敢テ差支フルコト無シ又奈良鐵道ハ目下ノ問題ナリ若シ之レヲ敷設スルコト、ナレハ運河ニハ非常ノ關係チ有ス是等ノコトモ能ク調査シテ工事ニ着手スルモ決シテ遲カラス故ニ本員ハ此事業ニハ賛成ナルニモ拘ラス今日ノ場合賛成スルコト能ハスト理由ヲ辯セリ

二十八番堀田康人曰十四番ノ演說ハ實ニ奇麗ナル演說ナリ五拾萬圓ノ金カ我々ノ頭上ニ落來ルト云ヘハ成程止メニスル方宜シカラントハ誰レモ云フナルヘシ之ノ如キ無責任ノ言ヲ吐カントスレハ誰ニテモ云ヘルモ我々ハ無責任ノ言ハ吐カス第四回内國勸業博覽會ノ如キハ愈々京都ニ開設スルコト、ナレハ夫レニ就テハ相當ノ利益アルヲ以テ之ニ對シテノ支出ハ決シテ差支ナシ然ルチ博覽會及御祭アルカラトテ運河ヲ廢スルトハ抑々何タル言ソヤ又堀川ヲ改修スルニハ五萬圓ノ金額ヲ要スト或ハ然ランモ未ダ今日ニテハ拾萬圓入ルトモ貳萬圓ヲ濟ト

モ技師ノ測量後ニアラサレハ之ヲ知ルコト能ハサルヘシ然ルニ今ニ於テ豫言ヲ反對スルハ不可ナリ諸君看ヨ疏水ハ帝國ノ美觀ナリ是ヲ以テ博覽會ニ出品スルモノトスレハ拾萬ヤ貳拾萬ノ金ハ何ソ安キモノナランヤト論辯ス

十五番中野忠八曰本員ハ斷行熱心者ナリ三十二番ハ本年三月ニ否決シテ未ダ三四箇月ヲ經サルニ再ヒ起サントスルハ不可ナリト云ヘルモ本年ノ三月ニ否決シタル理由ハ正當ノ理由ニハアラス當時ハ種々ノ感情的ヨリ起リテ廢案シヨリ即チ新稅源ヲ求メタルト撰舉等ノコト大ニ與リテ力アリ此等ノ爲メ議員ハ本心ニ違フテ起立セシニ由ル斯ル不條理ノ議決ナレハ此建議ハ賛成スト逆フ

四十二番原田與七ハ昨日來種々諸說ヲ聞クニ此建議ハ分子二個アリ一ハ堀川一ハ鴨川ナリ而シテ本員等ハ堀川ハ賛成ナルモ鴨川ハ反對ナリ故ニ此際起立ヲ表スルニ苦シメハ何レニモ起立セサレハ豫メ斷リ置グト述ヘ議長ハ起立ハ各員ノ適宜ナレハ敢テ勸ムルニアラサレトモ項目ニ就テ意見チ異ニスルトノコトナレハ之ヲ採用シテ後二次會ノ節ニ修正ノ意見ヲ提出セラルレハ可ナリト注意シニ

十三番石田喜兵衛ハ建議採用スヘカラストスル說ニ賛成ヲ表ス
二十七番穴戸龜三郎曰本員ハ建議採用スルコトニ賛成ス就テハ最早討論モ盡キタリト思フ併シナカラ此問題ニ對シテハ本員ハ議員ノ本分トシテ一言スルノ義務アリ何トナレハ諸君モ御承知ノ如ク本員ハ今日迄新運河ニ對シテハ充分反對

ノ意見ヲ有セシニ今日ニ至リ斷行ニ賛成シナカラ其理由ヲ述ヘサレハ各員ノ笑ヲ免レサルヘシ依テ之ヲ述ヘン蓋シ單獨ニ今日賛成スルノ理由ヲ見出セリ此事ニ就キ其利害得失ノコトハ數年以來ヨリ我々カ議場ニ於テ種々討論セリ依テ是ハ利アリヤト云ヘハ收支相償ハスト云ハサルヲ得ス時機ハ如何ト云ヘハ尙早シト答ヘサルヲ得ス夫レニモ拘ハラズ賛成シタルモノハ市民ノ意向輿論如何ト云フコト、市民ハ新運河ノ爲メ腦殺セラレントスルコト是ナリ此事ハ實ニ涙ヲ流シテ歎息セサルヲ得ス何トナレハ昨年以來撰擧ノ問題起ルトキハ毎々運河問題ニ利用セラレ議員ノ東奔西走スルコト實ニ氣ノ毒千萬ナリ此事タル結局運河問題ノアル限リハ此害ヲ除クコト能ハサルヘシ是本員カ市民ノ此問題ノ爲メニ使
用セラレ、チ歎スルノ餘リ是非共之カ竣功ヲ速カニシテ市民全体ノ幸福ヲ祈ラント欲スルナリト辯ス議長ハ論旨盡キタリト認メ二十八番ノ建議ヲ採用スヘカラストスル五番ノ反對說ニ起立セシメタルニ十三名ノ少數ニテ消滅セシヲ以テ更ニ二十八番ノ建議採用スヘシトスル說ニ起立セシメタルニ二十三名ノ過半數ニテ可決シ休憩ス

同日午後開會議長ハ前議ヲ繼續シ建議案ノ二次會ヲ開ク

二十五番雨森菊太郎ハ此建議ハ一旦採用スルコトニ決シタル以上ハ此意ヲ以テ市參事會ニ議案發付方ヲ請求センコトヲ望ム蓋シ歳入出ノ豫算ハ市參事會ニ於

テ編製セサレハ不可ナラント述ヘ三十三番玉水新太郎之ヲ賛成シ四十番堤彌兵衛ハ二十五番ノ希望通ニテ差支ナキモ然ルトキハ議長ヨリ市參事會ニ向テ訂正ノ箇所ヲ望ミテ貰ヒタシ其レハ新運河ハ七條以北ノ堤防ハ六尺ナレト以南ハ三尺ナリ唯今ノ建議ハ通常會ノ議案ニ據ルト云フニ在レハ其儘ナリ是ハ三尺ニテハ不可ナレハ平均六尺トシテ根敷ハ芝張ノ設計ナレトモ切メテ木皮張ニセラレヌシト望ミ十四番富田半兵衛ハ此建議ハ堀川ト鴨川ト平衡シテ工事ヲ起スト云ヘルモ堀川ハ測量費ノミナリ故ニ之ハ設計費モ併セテ議案ヲ出サレヌシト望ミタルニ三番鈴鹿辨三郎之ヲ賛成セリ議長ハ唯今御述ノ如キコトハ問題トシテ議スルニアラス各々ノ希望ナリ而シテ二十五番說ニハ別段反對ナキヲ以テ其ノ通トシ二十八番ノ建議ハ確定シタルモノトナシ市參事會ヘ議案ノ發付方ヲ請求スヘシト告ク

三十番野原新造ハ各員カ希望ヲ述ヘラレタルハ本員モ希望ヲ述ヘ置カンはハ唯今十四番ヨリノ希望中ニ合メルカモ知ラサレトモ大体堀川改修ノ目的タル水力ノ利用舟楫ノ便モ肝要ナランモ衛生上ハ主眼ナリ然ルニ元誓願寺一條ノ如キ溝ハ流通セサルカ爲メ衛生ニハ非常ノ害アリ故ニ小川ノ水ヲ元誓願寺一條等ニ落セハ衛生上ニハ大ニ都合宜キコト、思ヘハ出來得ル丈充分上ヨリ水ヲ取ヌシ尤モ水ノ流レ丈ニテ可ナリト希望シ議長ハ結局筆記ノ要点ヲ以テ市參事會ニ望ム

ヘシト答へ三十五番東枝吉兵衛ハ二十五番ノ議案發付ヲ請求スルト云フハ議會ノ模様ヲ斟酌シテ議案ヲ編製セシムルト云フニアルカ或ハ市參事會ハ唯儀式丈ノ議案ヲ出サシムルニアルカ若クハ市參事會ノ意見ノミニヨラシムルカ之ヲ定メテ望マサレハ市參事會カ了解ニ苦ムヘシ議長ノ見込ハ如何ト問ヒ議長ハ二十五番ノ意ハ此建議ヲ精神トシテ之ニ障リアルモノハ正シテ議案ヲ發セヨト云フニ在リ各員ハ其上ノ希望ヲ述ヘラル、ナリト答へ三十五番ハ各自希望ノアル所チ一々取レトナレハ大ニ苦シムト思フカ如何ト再問シ議長ハ其レハ無論ナリ然レトモ議長ハ各員ヨリ聞タルコトヲ傳フ迄ニテ之ヲ採ルト採ラサルトハ市參事會ノ權内ニ屬スト答フ

十四番富田半兵衛曰曩ニ本員カ述ヘシハ議長ハ問題トハナラスト云ヘリ依テ更ニ今回市參事會ニ發付ヲ請求スル議案ニハ堀川ノ設計書モ併記セシメントトチ建議スト述ヘタルニ二十三番石田喜兵衛之ヲ贊成シ議題トナリ又三十三番玉水新太郎ハ二十五番ノ通ニテ可ナリ十四番ハ未タ測量モ出來サルモノヲ設計書ニ併セ下付セヨトハ酷ナリ故ニ本員ハ十四番ノ建議ハ採用スヘカラスト反對シ九番伊藤喜三郎之ヲ贊成シテ又議題トナル議長ハ十四番ノ建議ニ反對スル三十三番ノ說ニ起立セシメタルニ十七名半數ナレハ次ニ十四番ノ建議採用スヘシトスル說ニ起立セシメタルニ十七名何レモ正半數ナレハ條例ニヨリ再議セサルヲ得

第二十五年
回市會

サレハ追テ日ヲ期シ報告スル迄休會スヘシト告ケ散會セリ

市會 第二十三回

同年八月五日開會出席議員三十九名缺席議員三名議長ハ前會ニ於テ十四番ノ提出ニ係ル堀川改修ノ設計ヲ請求スルノ可否ハ何レモ正半數ナリシヲ以テ再議ヲ開カシメタルニ三十三番玉水新太郎ハ建議採用スヘカラスト述ヘタルニ過半數ノ贊成者アリテ十四番ノ建議ハ消滅シマレハ議長ハ即日左ノ通市參事會ヘ報告セリ

議決報告

一新運河起工ノ建議

右ハ別紙(建議案ノ通ナレハ要ス)ノ通議決致候間相當ノ手續ヲ經テ議案發布相成度此段決議報告ト共ニ併セテ議案發付請求候也

明治二十五年八月五日

市會議長中村榮助

京都府知事會

京都府知事千田貞曉殿

同月同日京都市上京區猪熊通御池上ル最上町十二番戸湯口安治郎外五十二名ヨリ鴨川新運河工事ニ付建議書ヲ市會ニ提出ス今其概要ヲ摘載セハ鴨川新運河工事ハ一旦全廢シタルニモ拘ラス今又建議ニヨリ採用セラル、事トナル元ヨリ必

要工事ト雖モ曩ニ第四回内國勸業博覽會及 桓武天皇遷都紀念祭並ニ公園擴張
及水力電動力分局設置等アリ又調査中ニアリテハ北野公園及舞鶴鐵道布設等ニ
少カラサル費用ノ支出モアルニ其上又此工事ヲ起スモ實際市民ハ其費用負擔ニ
堪ヘサルヘシ況ンヤ各商工業不振ノ結果目下納税ニスラ生計上困難ノ際ナレハ
特別市制モ撤去セラレ前述ノ緊急事業ノ結果ヲ見ルニ至ル迄延期セラレンコト
ヲ希望スト云フニ在リシ

市會 第二十四回

同月六日開會出席議員三十七名缺席議員五名議長中村榮助ハ曩ニ市參事會へ請
求セシ議案發布セラレタレハ是ヨリ一次會ヲ開ク旨ヲ告ケ且鴨川新運河工事延
期ノ建議書ヲ提出シタルモノアル旨ヲ併セテ陳ス議案ハ左ノ如シ

第四十九號議案

京都府京都市明治二十五年年度歲出入豫算

歲入

一金拾貳萬千參百貳拾八圓拾六錢參厘

歲出

一金拾貳萬千參百貳拾八圓拾六錢參厘

內

金八萬圓
金四萬千參百貳拾八圓拾六錢參厘

二十五年歲支出
二十六年歲支出

京都府京都市明治二十五年年度歲出入豫算

歲入

科	目	豫算	付	記
第一款	市公債	一三、三〇〇、〇〇〇	八萬圓二十五年歲募集高四萬千參百圓二 十六年度募集高	
第二款	雜收入	二八、一三三	市公債募集益金ノ内	
計		一三、三二八、一三三		

歲出

科	目	豫算	付	記
第一款	鴨川新運河工費	一三、三三六、一六三		
一	工事費	八六、七八八、六五九		
二	土地建築買收費	二七、五九七、三三〇		
三	測量費	八五四、三二四		
四	雇給	一、九〇〇、〇〇〇		

鴨川筋新運河築造費參考書

計	七	六	五
	井泉手當	雜費	旅費
	1,000,000	1,250,100	1,350,270
計	2,250,370		

種	類	金	額	付	記
開	門		1,504,516	仁王門 孫橋 三條下 四條上 松原上 五條上 正面上 七條上	
堤	堀防		7,624,032	堤防延長九百九十八間五步 川床堀延長千二百七十間	
空	上		1,310,595	宮川町裏東側長百間 五條音羽川間船溜長百四十三間	
堤	防		388,290	七條下新築長五十間	
石	堤防		2,276,190	延長百五十六間	
土	抱		200,165	松原五條間東側長七十九間	
算			936,010	全六十四間	
改	築		7,863,500	全二百六十間	
附	屬		1,463,197	鴨川々中三條橋近傍其他工事	
計			37,007,495		

以上第一區鴨川疏水落合ヨリ七條橋下迄

種	類	金	額	付	記
開	鑿		2,444,390	七條下ヨリ鐵道迄長三百八十間	
橋	梁		123,596	八條通リ	
全	上		79,990	野通ヒ橋三ヶ所	
算			257,728	長十間	
全	上		8,270	長二間	
土	樋		14,500	養惡水路	
計			2,999,854		

以上第二區七條橋下ヨリ鐵道際迄

種	類	金	額	付	記
開	鑿		4,840,260	鐵道際ヨリ宇福稻迄長四百十間	
鐵	道		646,680	船溜	

疏水要誌附錄 ○市會

種	類	金	額	付	記
開	インクライン		一七、二三〇、二九〇	一ヶ所	字福稻ヨリ堀内村小字眞齋迄長千九百七十間
			一三、六二一、五〇〇		
暗	溝		二九〇、五七〇	二ノ橋川	
橋道	梁路		二二六、五五六	全川際	
橋	梁		一三三、三〇〇	野通ヒ橋五ヶ所	
算			四一〇、六三三	三ノ橋川	
全	上		五二、二三四	養悪水路	
水	堰		一五七、八六三	鐵道ノ下モ	
土	樋		八、八〇〇	養悪水路	
潰	地		六三〇、六三三	疏水落合ヨリ字福稻迄ノ分	
立毛損耗	建家買上		二、八九三、六八三	全上	
計			一五、九六八、一九九		

以上第三區鐵道際ヨリ紀伊郡深草村字福稻迄

種	類	金	額	付	記
橋	梁		三一九〇〇七	墨染通り	
全	上		三一九〇〇七	撞木町通り	
橋道	梁路		一、一四三、〇〇七	伏見街道	
橋	梁		一五七、三四六	陶器會社前通り	
全	上		一三三、三六六	寶塔寺前通り二ヶ所	
全	上		一四一、〇七六	下町通り	
全	上		八七九、七八〇	野通ヒ橋三十三ヶ所	
全	上		一一一、六四六	藤森前	
船	溜		六六六、五〇〇	稻荷前	
水	堰		五三、五〇〇	寶塔寺川	
算			三二一、三二八	七瀬川	
全	上		二二〇、八二六	養悪水路	
井	路付換		六三、二六〇	長七十間	
伏	越樋		二五四、九五〇	養悪水路	
潰	地		九〇、八九四		

以上第四區紀伊郡深草村字福稻ヨリ全郡堀内村小字眞齋迄

種	類	金額	付	記
立毛損耗	建家買上	七、三六六、七〇〇		
計		五〇、九八七、九一三		
開	門	二、三二一、七五五	一ヶ所	
開	鑿	二、五八四、七六〇	紀伊郡堀内村小字眞齋ヨリ伏見堀詰迄長三百三十間	
橋	梁	一、四一〇、二六六	土橋通	
全	上	一、四一〇、二六六	上板橋通	
全	上	五、三三〇、三三〇	野通七橋二ヶ所	
暗	溝	二、二一三、三〇〇	養水路	
井	路付換	一、三二六、二〇〇	長百二十間	
土	樋	五、八〇〇	養悪水路	
潰	地	一、三三〇、〇〇〇		
立毛損耗	建家買上	四三〇、八三七		
計		七、四二一、五六八		

以上第五區紀伊郡堀内村小字眞齋ヨリ伏見堀詰迄

種	類	金額	付	記
測	量費	八五四、三一四		
雜	費	一、二五五、一〇〇		
雇	給	一、九六〇、〇〇〇		
旅	費	一、三三三、二一〇		
井	泉手當	一、五〇〇、〇〇〇		
計		六、九四二、一三四		
合	計	一三、三三六、一六三		

三十六番古川吉兵衛ハ七條以南ノ堤防ノ根敷ハ檜皮ナルヤ又ハ杉皮ナルヤ檜ト杉トハ其ノ強弱ニ違アリ如何ト問ヒ番外技手三原範治ハ檜トモ杉トモ掲ケサルモ木皮中其可ナルモノヲ擇ンテ使用スルノ積ナリト答フ九番伊藤喜三郎ハ運河ノ内幅及堤防幅ヲ問ヒ番外三原技手ハ内幅ハ二十尺ニシテ七條以南ノ堤防幅ハ天端ニテ六尺ナリト答フ三十五番東枝吉兵衛ハ小關ヨリ切出セル石材ハ使用ス

ルヤ果シテ然ラハ其坪數ハ何程ナルヤヲ問ヒ番外三原技手ハ御尋ノ通り使用スル積ナリ其坪坪ハ千八十四坪ナレトモ其代價ハ見積ラヌ唯運搬費ノミヲ加ヘダリト答フ三十五番東枝吉兵衛ハ果シテ然ラハ何レノ項ニテ其金額ヲ引去アルヤ詳細ヲ問ヒ番外三原技手ハ即チ第一區鴨川疏水落口ヨリ七條橋ノ下迄ノ内ニテ引去レリ詳細ニ申セハ四十三坪三合ハ第一區中七千八百何圓ト云フ中ヨリ引去レリ九百三十七坪七合ハ石堤防ノ項貳千何圓ト云フ内ヨリ引去レリ次ニ百八坪ハ千參百拾圓餘ノ内ニテ引去リタリト答フ三十五番東枝吉兵衛ハ是迄ノ設計ニヨレハ凡テ小譯ヲ載セルニモ拘ラス本案ニ限リ是ナシ然ルキハ請負者ハ金額ヲ見積ルニ一々説明ヲ聞カサレハ分ラサル等ノ困難アルヘシ如何ト問ヒ番外三原技手ハ御尤ナルヲナルカ何分此設計書ハ隨分款數多クシテ一々之ヲ議案ニ載セルコトハ困難ナレハ省キタルモ請負者ニ向テハ其設計書ヲ渡シテ明瞭ニ知ラシムル積ナリト答フ九番伊藤喜三郎ハ第一區中ニハ放水場ハ何箇所アルヤ又五條下ル所ノ水溜ハ船ヲ繋ク所ナリト聞ケルカ然ラハ大ナル橋ヲ架スルヤ否ヲ問ヒ番外三原技手ハ放水場ハ開門ノアル所ニハ必ス一箇所ツ、アリ猶其他四條ニ一箇所ヲ設クル筈ナリ五條橋下ノ水溜ノ幅ハ平均一間八分六厘ナリ而シテ水溜ノ間ニハ問屋町へ通スル道無ケレハ橋梁ノ必要ナシト答フ議長ハ別ニ異議ナキヲ以テ一次會ハ原案ニ可決シタルモノト認メ引續キ二次會ヲ開キ歳出ノ項第一

款ヲ議サシメタルニ二十四番栗山敬親ハ此場合委員ヲ置テ取調ヲ托スヘシト述ヘタルニ二十三番石田喜兵衛ノ賛成アリテ議題トナリタルニ三十五番東枝吉兵衛ハ本案ハ三箇年ヲ經テ初メテ決シタルモノナレハ最早別段取調ノ必要無ケレハ此建議ハ採用スヘカラスト反對セシニ四十番堤爾兵衛ノ賛成アリテ議題トナリタルハ議長ハ二十四番ノ本案ヲ委員ニ托シテ調査セシメントスル建議ニ反對セル三十五番説ニ起立セシメタルニ過半數ニヨリ二十四番ノ建議ハ消滅シ前議ヲ繼續セシム

四十一番西村彌五郎ハ二十八番ノ建議ト本案トニ五百圓ノ差アル理由ヲ問ヒタルニ三十三番玉水新太郎ヨリ先ノハ全ク間違ヒナルコトヲ辯解シ十五番中野忠八ハ井泉手當ハ何レノ邊迄ノ見込ナルヤヲ問ヒ番外伴屬ハ伏見街道一ノ橋以南ノ分ニテ凡ソ四百戸程手當ヲ要スル見込ニテ即チ一戸ニ付一日三荷ツ、ヲ給シ一荷三錢七厘餘ノ算盤ニテ本項ノ金額ヲ要スト答フ二十三番石田喜兵衛ハ本案ハ一次會ノ儘ニテ一週間程延期セント發議セシニ二十四番栗山敬親三十二番松下新助之ヲ賛成シ議題トナリシニ三十三番玉水新太郎ハ本案ヲ延期スルノ必要ナケレハ二十三番ノ建議採用スヘカラスト反對セシニ九番伊藤喜三郎ノ賛成アリテ是亦議題トナル然ルニ三十六番古川吉兵衛ハ明後日迄ナリトモ延期スヘシト述ヘタルニ九番伊藤喜三郎ハ速ニ採決スヘシト迫

レリ依テ議長ハ二十三番ノ本案ヲ二次會ノ儘一週間延期スヘシトスル説ニ反對セル三十三番説ニ起立セシメタルニ過半数ニヨリ二十三番ノ建議ハ採用セサルコトニ決シ二次會ヲ繼續セシメタルニ十五番中野忠八ハ原案ヲ賛成シ他ニ異議ナキヲ以テ本項ハ原案ニ決シ次ニ歳入ノ項第一款第二款ヲ議サシメタルニ是又異議ナキヲ以テ原案ニ可決セリ

三十五番東枝吉兵衛曰本案ハ二次會ヲ以テ確定議トセラレタシ而シテ之ニ付帶スル建議セン新運河工事ニ着手スルニ當リテハ常設委員ヲ置クコトアリシカ當時市長ノ見込ニテハ市參事會ヨリ三人ヲ出シテ着手セシメント云ヘリ依テ此度モ然ルコトヲ思ヘリ然ルニ本員熟々其利害ヲ考ルニ假令市參事會ヨリ出ルモ市會ヨリ出ルモ實務ノ上ニ於テハ一名ノ責任者ヲ置テ之ニ當ラシムルハ其功蹟顯著ナリト思ヘハ此事モ共ニ建議スヘシト述ヘタルニ三十二番松下新助ハ本案ハ重大事件ナレハ二次會ヲ以テ確定トスルハ不可ナレハ是非共三次會ヲ開クヘシト反對セシニ四十番堤彌兵衛及二十四番栗山敬親ノ賛成アリテ議題トナル又三十番野原新造ハ三十五番ノ分掌市參事會員一人ヲ置クコトハ賛成スヘシト述ヘ是又議題トナル然ルニ三十三番玉水新太郎ハ委員組織ヲ希望スレハ三十五番ノ建議ハ採用スヘカラスト反對セシニ三十六番古川吉兵衛之ヲ賛成シ又議題トナリ次ニ二十五番雨森菊太郎ハ當時議場内外ノ景況ヲ觀察スルニ不都合極レリ抑

モ三次會ヲ開クモノハ議事ヲ鄭重ニスルカ爲メナリ然ルニ本案ニ對シテハ却テ三次會ヲ開クハ不都合ナリ併シ強テ開カントナレハ直ニ開ク猶可ナリ日ヲ經テ開クト云フニ至リテハ彌々不可ナリ何トナレハ既ニ此事タル二十八番カ曩ニ設計ヲ併セテ建議シタレハ設計ヲ取調ントナラハ其節ニ於テスヘキ筈ナリ殊ニ當時ハ二十八番カ建議ノ儘ニ決スル運ヒナリシヲ漸ク本員カ請求ニテ市參事會ヨリ議案ニ編製シテ出スコト、ナリシモノナレハ今日ニ至リテ小言ヲ吐露スルハ不可ナレハ是等ノコトハ却テ三次會ノ順序ヲ踏マヌ二次會ニテ確定スルヲ可ナリト辯シ三十五番ノ三次會省畧說議題トナル

五番中安信三郎曰二次會ヲ以テ確定トスルコトハ本員モ賛成ス併シ此事ニ就テ聊カ述ン此運河工事ハ餘程長ク當議會ニ願ハレ或ハ出テ或ハ退キ漸ク此頃ニ至リ將ニ局ヲ結ントスルモノ、如シ大体本員共カ之ニ反對セシハ時機尙早シト云フニアレトモ其茲ニ至リシハ京都市ニハ二ツノ團體アリテ互ニ相敵視シ或ハ賛シ或ハ反スルハ重ニ此運河ニ關係セリ又此運河ヲ成功セシメンカ爲メ或人ハ車ヲ驅リテ東奔西走シ之カ爲メ議員ノ感情ヲ害ヒタリ第二ノ時ハ市ノ經濟許サストテ延期スル爲メ議員カ運動ヲナセリ第三ノ時ハ議員ノ競争ニ某氏カ干渉セリトテ當初運河ニ賛成セシモノモ翻ツテ反對セシニヨリ遂ニ運河ハ廢滅ニ歸セリ之ノ加シ不都合ナル決議ノミナシテ工事ノ利害如何ハ更ニ省ミサリシ本員ハ

思フ等シク議員ニシテ或時ハ斷行ヲ唱ヘ或時ハ非斷行ヲ唱フ等豹變常ナキ議員ノ議場ニ列席スルトハ實ニ歎スルニ餘リアリ將來ハ之ノ如キ不都合ナカランコトヲ希望シテ止マスト速ヘタリ議長ハ論旨盡キタリト認メ先ツ本案ハ二次會ヲ以テ確定トスル三十五番ノ建議ニ反對セル三十二番説ニ起立セシメタルモ少數ニテ消滅シタルハ次ニ三十五番ノ建議ヲ可トスル者ニ起立セシメタルニ過半數ニヨリ本案ハ二次會ヲ以テ確定スルコトニ決セリ次ニ三十五番ノ建議中工事着手ニ付責任アル人ニ任サントノコトニ付審議セシム

三十番野原新造曰三十三番ノ委員組織モ可ナレトモ一利害ハ數ノ免レサル所ニシテ多人數ノ委員カ集リテ纏リノ惡シキヨリ一人ニテ纏リノ宜シキ方却テ利益アリ甚ニ疏水ノ分掌者ヲ廢シタルハ今日ニ至リテハ我々ハ悔ヒタル位ナリト辯ス二十七番穴戸龜三郎ハ三十三番ニ贊成ナルカ三十五番モ強テ建議トシテ氣張ニアラス唯希望セラレタルニ過キササルヘシト思フカ如何ト問ヒ議長ハ然ラズ分掌者一人ヲ置クノ建議ナリト答フ二十七番穴戸龜三郎ハ然レハ本員ハ反對ナリ其理由ハ水利事務所ノ如ク凡テ仕事ノ出來上リタル後ノ事ナレハ或ハ然ラシモ新運河ハ之ヨリ工事ヲ起シテ種々ノコトヲナスナリ去レハ到底一人ニテ行届クヘキニアラス之ヲ分擔シテ着手スルハ事業上ニ利益ヲ與フヘシト思フト述フ三十五番東枝吉兵衛ハ二十七番ノ御説ハ通常御尤ナリ併シ一人ニテ責任ヲ帶

フルト委員聯帶シテ責任ヲ帶フルトハ何レカ其任重キヤ聯帶ノ責任ノ輕キコトハ云フ迄モナシ請フ看ヨ疏水工事ノ如キ田邊技師カ擔當シタルヲ以テ其名末代迄モ高カラシモ若モ田邊技師一敗地ニ塗レシナランニハ其名譽ヲ毀損スルコト幾干ソヤ故ヲ以テ其任ニ當ルモノ必死ノ力ヲ奮フテ着手スルモノナレハ其事ニ利アル論ヲ俟タサルナリ是今日迄ノ經歷上一人ニ委託スルノ利益ナルコトヲ證スルニ足レリト自説ヲ維持セシニ二十八番堀田康人ハ此事ハ重大ナレトモ強テ土木ニ委シキ者ヲ要スルニアラス市ノ代表者トシテ監督スルカ必要ナリ總体土木工事ニ限リテ種々ノ諍リヲ受クルモノナレハ是等ノ弊害ヲ退クルニハ一人ヨリモ三人交々監督スル方可ナリト思フト三十三番ニ同意ヲ表ス二十五番雨森菊太郎ハ之ハ通常議事ノ取扱ニ爲サズ單ニ本會ヨリ希望セハ可ナリ此議案ニシテ決スルナレハ何レ市參事會ヨリ條例ヲ出スナラン其時ニ審議スヘキコトニシテ今日ニ議スルハ早計ニ過ク市會カ夫レ迄立入ヲ爲サストモ唯是ハ重大事件ニ付特別ノ組織トセラレヨト市參事會ニ望ムコト、セハ各員ニ於テモ反對スルモノモナク滿場一致ナラント述フ三十二番松下新助ハ三十五番ハ唯今ニ於テ是非共建議セント欲セラル、ヤト問ヒ東枝吉兵衛ハ二十五番ノ云フ如クシテ市參事會ニ於テ詮議スルコト、ナレハ可ナリト答フ議長ハ建議者ハ今二十五番ノ見込ノ如クニシテ可ナリト云ヘハ別段議セサルモ可ナレハ其旨市參事會ヘ請求シ置ク

ヘシト陳告シ次ニ四十八號議案ヲ議サシメタルニ一次會二次會トモ原案ニ可決
シ三次會ヲ省略シテ確定シタリ

第四十八號議案

明治二十三年七月市公告第三十五號市公債募集及償還方法第二條ヲ左ノ通更正
スルモノトス

第二條 市公債募集ノ金額ハ四拾貳萬六千參百圓トシ疏水々力使用費鴨川
筋新運河改鑿工費疏水分線路修繕費堀川改修調査費ノ支出ヲ要スルトキ
及二十二年度ニ於テ募集シタル市公債ヲ償還整理スル爲メ漸次募集スル
モノトス

全月六日議長ハ左ノ通市參事會ヘ報告セリ

決議報告

一鴨川新運河工事疏水分線路修繕及ヒ堀川改修調査監督ニ關スル委員組織ノ
議案發布請求ノ建議

一第四十八號議案

一第四十九號議案

右別紙(略)決議候ニ付此段報告候也

明治二十五年八月六日

市會議長中村榮助

京都市參事會

京都府知事千田貞曉殿

市會 第二十五回

第二十五年
回市會

同月十三日開會出席議員三十九名缺席議員三名議長中村榮助ハ前會ニ請求セシ
議案發付ナリタルハ議スヘキ旨ヲ告ク其案ハ左ノ如シ

第五十三號議案

臨時土木委員事務取扱規程

本案ハ否決シタルヲ以テ省略ス

一次會ハ異議ナク原案ニ決シ二次會ニ移リタルニ三十五番東枝吉兵衛ハ市參事
會員ニ分掌セシムルヲ可トスレハ本案ヲ廢棄セント述ヘ十七番河村清七ノ賛成
アリテ議題トナリタルニ二十四番栗山敬親ノ反對説ヲ提出シタルモ賛成者ナク
自然消滅シタルヲ以テ審議ノ末議長ハ三十五番ノ廢案説ニ起立セシメタルニ廿
名ノ過半数ニテ本案ハ消滅ニ決セリ依テ議長ハ同日決議ノ趣市參事會ヘ報告
セリ

同月十五日市參事會ハ市會ノ決議ニ基キテ左ノ通公告ス

京都市公告第四十八號

本市明治二十五年二十六年年度歲入出豫算市會ノ議決ヲ取り左ノ通相定ム

京都市參事會

明治二十五年八月十五日

京都府知事千田貞曉

京都府京都市明治二十五年二十六年度歲出入豫算

歲入

一金拾貳萬千參百貳拾八圓拾六錢參厘

歲出

一金拾貳萬千參百貳拾八圓拾六錢參厘

内

金八萬圓

金四萬千參百貳拾八圓拾六錢參厘

二十五年支出
二十六年支出

同月十六日市參事會ハ市會ノ決議ニ基キ府知事へ左ノ通進達方ヲ稟請シタルニ別項ノ通許可セラル

市庶第四六號

市公債増募稟請書進達方稟請

一市公債募集償還方法訂正方別紙（註）水線路修繕費及堀川改修調査費モ籠リアレハ省署之通市會ニ於テ決議候ニ付進達之義稟請ス

京都市參事會

明治二十五年八月十六日

京都府知事千田貞曉

京都府知事千田貞曉殿

内務省許甲第二一五號

明治二十五年八月十六日稟請市庶第四七號京都府京都市會議決市公債募集及償還方法中改正ノ件

右市制第二百二十二條ニ依リ之ヲ許可ス

明治二十五年十一月四日

内務大臣 伯喬 井上 馨
大藏大臣 渡邊 國武

右ニ付市參事會ハ同月十一日市公告第六十一號ヲ以テ之ヲ公告セリ

同年九月七日以來市參事會ヨリ新運河開鑿線路ノ義ニ付鐵道廳へ往復セシ公文ハ左ノ如シ

市照第五六號

京都ヨリ紀伊郡伏見町ニ通スル水路開鑿可致ノ處線路ヲ孰レニ取ルモ鐵道線ヲ横斷セサレハ不相成義ニシテ到底避クヘカラサル地況ニ有之候ニ付テハ紀伊郡柳原町地内鴨川ニ架設アル鐵道橋下東橋臺ト柱トノ中間ニ現在地盤ノ儘幅二十尺ノ水路取設度候條御差支無之哉御答相成度別紙繪圖面（省）相添へ此段及御照會候也

京都市參事會

明治二十五年九月七日

京都府知事千田貞曉

鐵道廳神戸建築課御中

神建乙第二八四號

市照第五六號ヲ以テ御照會ニ相成候貴府下紀伊郡柳原町鴨川ニ架設アル鐵道橋下へ水路御取設ノ件ニ付現場爲取調來ル十一日京都停車場へ午前十時着ノ列車ニテ鐵道廳技師長江種同出張爲致候ニ付貴方ヨリモ同時ニ主務官御派出現場及設計等御示シ相成候様致度此段及照會候也

鐵道廳

明治二十五年十月八日

神戸建築事務所

京都市參事會

京都府知事千田貞曉殿

市照第七三號

京都ヨリ紀伊郡伏見町ニ通スル水路開鑿ノ内同郡柳原町地内鴨川鐵道橋下通過ニ付御差支無之哉本年九月二十七日付及御照會候末十月十一日御廳長江技師實地御檢査相成候就テハ至急工事着手可致都合ニ付早々御答相成候様致度此段再應及御照會候也

京都市參事會

明治二十五年十二月二日

京都府知事千田貞曉

鐵道廳

神戸建築事務所御中

京都府紀伊郡柳原町地内鴨川ニ架設アル鐵道橋下へ水路取設ノ儀ニ付市照第五六號并ニ第七三號ヲ以テ御照會之趣了承右ハ御取設相成差支無之候此段及御回答候也

明治二十五年十二月九日

鐵道廳

京都市參事會

京都府知事千田貞曉殿

市會 第二十六回

明治二十六年三月四日開會出席議員三十四名缺席議員八名議長中村榮助ハ左ノ議案ヲ議セシム

京都市第二十號議案

一金拾貳萬千參百貳拾八圓拾六錢參厘

内

金參萬參千四百四拾壹圓

二千五年度支出

金八萬七千八百八拾七圓拾六錢參厘

二十六年支出

第二十六年
回市會

明治二十五年八月六日議定セシ鴨川新運河工事ハ土地買收等ノ都合ニ依リ年
度別支出額ヲ前記ノ通變更ス

三十三番玉水新太郎ハ昨年ノ決議額ハ八萬圓ナリシニ之ヲ増額シタルハ如何ナ
ル理由ナルヤヲ問ヒ番外山田枝手ハ昨年ノ議決額ハ八萬圓ナリシモ未ダ充分ノ
事業ニ着手スルコト能ハサリシヲ以テ支出セサリシ然ルニ本年度ニハ深草村ニ
着手スル都合ナルカ此所ニハ地主百何十名モアルヨリ其内總代十名ヲ撰ンテ立
木アル地ヲ買收セントスルニ殆ント三倍高ノ申込ナリシヲ以テ止ムヲ得ス二十
六年度ニ此金額ヲ支出セサルヲ得サル次第ナリト答フ議長ハ異議ナキヲ以テ一
次會及二次會ハ原案ニ可決シ三次會ヲ省略シテ原案ノ通確定セシヲ以テ即日市
參事會ヘ議決ノ趣報告原案ノ通ナ
レハ省署ス

右ニ付市參事會ハ同月十五日左ノ通告ス

京都市公告第十號

鴨川新運河工費年度別支出額變更ノ件市會ノ議決ヲ取り左ノ通相定ム

京都市參事會

京都市府知事千田貞曉

明治二十六年三月十五日

一金拾貳萬千參百貳拾八圓拾六錢參厘

内

金參萬參千四百四拾壹圓

二十五年支出

金八萬七千八百八拾七圓拾六錢參厘

二十六年支出

明治二十五年八月六日議定セシ鴨川新運河工事ハ土地買收等ノ都合ニ依リ年
度別支出額ヲ前記ノ通變更ス

同日午後開會議長中村榮助ハ左ノ議案ヲ議サシム

第十八號議案

臨時土木委員事務取扱規程

- 一 鴨川新運河開鑿工事ノ爲メ制第六十一條ニヨリ臨時土木委員五名ヲ置ク
- 一 臨時土木委員ハ六箇月ヲ以テ任期トシ工事落成マテ之ヲ設クルモノトス
- 一 臨時土木委員ハ市參事會員中ヨリ一名市會議員中ヨリ四名トス
- 一 臨時土木委員ノ報酬ハ一名年額五拾圓トシ其實費辨償ハ各執務一日金壹圓トス

一 臨時土木委員ハ前項ノ工事ニ關與スルモノトシ其概目左ノ如シ

一 市會議決ノ旨趣ニヨリ市參事會ノ諮問ニ係ル工事目論見並ニ經費ヲ調査

答議スル事

一 工事施行ノ場所ヲ巡廻監査スル事

一 凡テ工事ニ付意見アルトキハ之ヲ市參事會ニ提出スル事

一事務取扱ニ關スル諸記録調製ノ事

十七番河村清七ハ本案ハ昨年既ニ否決シタルニモ拘ラス再ヒ發案セラレタル理由ハ如何ト問ヒ番外下間市參事會員ハ當初議會ハ求メテ委員組織ヲ可トシ市參事會モ亦之ヲ可トセシコトハ今日モ異ラス況ンヤ昨年議會カ之ヲ廢案シタル趣旨ハ正當ノ理由トハ認メス諸君ハ必ス胸中ニ悟ル所アラント答ヘ三十六番古川吉兵衛ハ委員ノ任期ヲ六箇月トセラレタルカ僅々六箇月位テハ其事務モ舉ルヘシトハ思ハレサルカ如何ト問ヒ番外下間市參事會員ハ六箇月トセシハ彼ノ疏水常務員ノ例ヲ引用セリト答ヘ二十八番堀田康人ハ市參事會ハ委員組織チ是ナリトスルモ議會之ヲ廢シタルハ非ナリトノ漠然タル答辯ニテハ了解セサレハ工事監督上何故ニ之ヲ必要ナリト認ムルヤ詳細辯明セシコトヲ請求シ番外下間市參事會員ハ此工事ハ二箇年乃至四箇年ト云フカ如キ緩漫ナル工事ニハアラス必スヤ紀念祭及博覽會開設ノ當日迄ニハ竣成セシメ度見込ナリ然ルニ伏見ヨリ夷川迄ハ隨分遠距離ナレハ現今ハ三四箇所ニ區劃シテ工事ヲ急キ居レリ又本月十五日ヨリ來月十五日迄ニハ是非墨染迄ノ工事ヲ爲ス見込ナリ斯ル大工事ナレハ到底現今ノ如ク市參事會員一名ノミニテハ速ニ其土功ヲ奏スルコト能ハス然ラハ吏員ヲ派セン乎費用ノ富チ奈何セン故ニ委員ヲ置ケハ工事モ早ク竣成シ着々工事ノ進捗ヲ期スヘシト認メタル次第ナリト答フ

十七番河村清七曰本案ハ廢棄セン彼ノ疏水工事ノ際ト今日トハ其時代ヲ異ニシ自治制ノ下ニ於テハ宜ク市參事會ニ一任シテ可ナリ殊ニ市參事會員中工事ニ老練ノ人アリ距離幾ニ伏見迄ノ事ニシテ金額上ヨリ云フモ僅々拾萬圓位ナリ且又工事ノ難易上ヨリ云フモ大ニ其趣チ異ニス故ニ旁々以テ信用厚キ市參事會ニ一任スルチ可トスト述フ

三十五番東枝吉兵衛ハ本員ハ最初ヨリ廢案ヲ主張セシ一人ナリシカ先ツ一應質問セン此工事ノ場所付ハ名譽職ヲシテ之ヲ分擔セシメントノ事ナレト市參事會員中ニハ是等ノ工事ニ頗ル老練ノ人アルニモ拘ラス此委員ヲ設ケサレハ監督モ行届カス隨テ工事モ進行スル能ハストノ意ナルヤ鐵道其他ノ事務アリテ繁ハ則繁ナレトモ今日迄爲シツ、アリテ急カサルヘカテサル者ト未ダ着手セサル者トノ事業ヲ比較シ緩急其度ヲ圖テハ蓋シ思ヒ央ニ過キン隨分改進黨ノ演說ニ奔走セラレタル位ノ勞ヲ取ラル、時ハ今又委員ヲ設グルニモ及ハサルヘシ殊ニ僅々一箇年位ニ竣成シ得ヘキ工事ヲシテ大層ラシクモ委員ヲ置キ併カモ六箇月位ニテ交代セシメントハ如何ト問ヒ番外下間市參事會員ハ市參事會ハ怠ラス監督ハ爲スヘシ然レトモ奈何セン少數ノ市參事會員ニシテ此遠距離ノ工事ヲ監督スルハ何程手分チ爲スモ困難ナリ加之獨リ此工事ノミナレハ可ナレトモ他ニ種々ノ公務モアレハ自然手落等アルニ於テハ後日臆ノ悔アラント恐ルト答辯シ

二十八番堀田康人ハ市參事會ハ手カ廻リ兼ルトカ他ニ事務アレハ監督スルコト能ハスト云フモ之ヲ肯セサレハ具ニ監督ノ方法ヲ明示セラレヨト請ヒ番外下間市參事會員ハ別ニ監督方法ハ規定シ居ラスト答フ

三十五番東枝吉兵衛曰曩ニ市參事會ヲ信任シテ廢棄說ヲ唱ヘタレトモ最早今日トナリテハ已ムヲ得ヌ本案ヲ賛成スヘシト述ヘ二十八番堀田康人ハ本員モ廢棄說ナレトモ市參事會カ冷淡ニモ爲シ得ヘキ事ヲ爲サ、ル者ニ向テ強ルハ無理ナル事ナリ否無駄ナル事ナレハ涙ヲ吞テ同意ヲ表スト述ヘタリ十七番河村清七ハ本員ハ飽迄委員ノ必要ヲ認メサレハ廢棄スヘシ何トナレハ總テ技術上ノ事ハ素人タル委員ノ譯ラサルモノナレハ工事上ニ充分經驗アル市參事會ニ一任スルニ如カス況ンヤ經濟ノ点モ者ヘサルヘカラスト論シタルニ三十六番古川吉兵衛ハ之ヲ賛成シ委員組織ノ事ハ先ニ市會ニ於テ否決シタル事ナレハ廢スルヲ可トシ十七番河村清七ハ委員ハ市參事會ヲ監督スルノ權ナク唯意見ヲ提出スルニ止レハ意見ヲ提出シタリトテ市參事會之ヲ採用セサレハ何ノ效能モ無シ斯ル人形の幽靈然タル者ヲ置クハ大反對ナリ而シテ市參事會ハ終始能ク監督シ得ヘキ者ナリトテ反對ノ意ヲ再辯ス二十七番穴戸龜三郎曰本案ハ無駄ナ者ヲ以テ發案シタルニアラス然ルチ之ヲ政略上ヨリ廢セラル、トキハ實ニ遺憾ナリ又市參事會ハ決シテ監督セサルニ非サレトモ昨年末ヨリ餘程繁忙ヲ極メタリ其證據ハ勤惰簿

ヲ檢セラレレハ了解セラレン故ラニ怠ル者ニアラスト斷言ス又十七番ハ人形同様ト云ハレシカ這ハ極端モ甚シキ議論ナリ是等ヲ以テ不必要トセラル、ハ實ニ痛嘆ニ堪ヘスト辯解ス

五番中安信三郎曰此委員ノ事ニ就テハ種々ノ感情アリタレトモ過日集談會ニ於テ略一定シタレハ別ニ賛成ノ理由ヲ述ヘス人形然トシテ其局ヲ結フ方可ナラント述ヘ十七番河村清七ハ先刻人形ト云ヒシハ其人ヲ指スニ非スシテ委員ノ權利カ薄弱ナレハ人形同様ナリト云ヒシナレハ念ノ爲メ一言辯シ置クヘシト四十番堤彌兵衛ハ十七番ハ委員ノ權利カ薄弱ナリ規則カ不完全ナリトシテ廢棄說ヲ唱フレトモ既ニ實例モアリテ大ニ利益アリ故ニ市參事會ニ於テモ我々ノ信スル答議ヲ採用スルニ吝ナラヌト信スルニ付原案ヲ賛成スト陳ス議長ハ論旨盡キタリト認メ十七番ノ本案ヲ廢棄スヘシトスル說ニ起立セシメタルニ二名ノ少數ニテ消滅シタレハ原案ヲ可トスル者ニ起立セシメタルニ過半数ニテ可決ス依テ引續キ第一項及第二項ノ二次會ニ移ル

二十三番石田喜兵衛ハ第二項ノ任期六箇月トアルチ一箇年ト修正スヘシト論シタルニ二十九番中孫三郎及五番中安信三郎之ヲ賛成シ議題トナリタルモ起立ノ際十一名ノ少數ニテ消滅ス又三十五番東枝吉兵衛ハ此工事ハ一箇年位ニ落成スル者ナレハ工事落成迄ト修正說ヲ提出シ三番鈴鹿辨三郎ノ賛成アリテ議題トナ

リシモ起立ノ際七名ノ少數ニテ消滅ス次ニ十七番河村清七ハ矢張六箇月トスル方順次御鉢カ廻リテ好都合ナラント冷評シ二十八番堀田康人ハ第一項ノ五名トアルヲ十名ト修正スヘシ之レ所謂名譽職配當主義ナレハナリト論シタルモ賛成者ナク消滅シ三十番野原新造ハ落成期ノ見込ヲ問ヒ番外下間市參事會員ハ本年中ニ落成スルノ見込ナルモ御承知ノ通此工事ハ季節ニ依リテ爲サ、ルヘカラサルカ梅雨ノ候ニ際セハ少シモ着手スルコト能ハサレハ天候ノ爲メ或ハ一箇年ト斷言スルコト能ハサルヤモ知レスト答ヘタリ結局第一項第二項共原案ハ二十三名ノ過半数ニテ可決ス次ニ第三項及第四項ノ二次會ニ移ル

十七番河村清七曰第四項ノ報酬ハ一名年額五拾圓トシ夫迄ノ十三文字ヲ削除セント論シタルニ三十三番玉水新太郎之ヲ賛成シ議題トナリ十七名ノ過半数ニヨリ之ニ決シ第三項ハ原案ニ可決ス次ニ第五項ノ二次會ニ移ル

二十八番堀田康人曰三項目ニアル市參事會ニ提出スル事トアルヲ提出シ其意見ヲ執行セシムル事ト修正スヘシ斯クスルトキハ必ス市參事會ハ委員ノ意見ニ冠リ振ラスシテ意見通り執行セサルヲ得サレハ此意ニ改ムヘシト論シタルニ二十四番栗山敬親ハ誠ニ名論ナレハ賛成シタキモ少シ差支アル所アルヲ以テ止ムナク原案ニ賛成スト述ヘ他ニ賛成者ナク消滅シ原案ニ可決シ散會ス

市會 第二十七回

同月八日開會出席議員三十六名缺席議員六名議長中村榮助ハ前議ヲ繼カシメ三次會ヲ開ク

十三番山本清助曰本案第四項ハ原案ニ復シテ五拾圓ヲ給スヘシ何トナレハ土木委員ノ如キハ意外ノ所ニ考慮セサルヲ得サレハ此位ノ報酬ハ與ヘテ充分價値アリトノ意見ヲ提出シタルニ六番内貴甚三郎三十八番河北武兵衛三番鈴鹿辨三郎三十九番林長次郎四十番堤彌兵衛五番中安信三郎等之ヲ賛成シテ議題トナリ四十一番西村彌五郎ハ土木委員ハ他ノ委員ト異ナリ僅々一箇年ノ臨時委員ナレハ若シ之ニ報酬ヲ付スルトセハ紀念祭委員ニモ亦報酬ヲ付セサルヘカラスト論シ三十六番野原新造モ畧同一ノ意見ヲ論シテ反對セシモ可否ヲ決スルニ至リ十三番説ハ十七名ノ過半数ヲ以テ原案ニ復活スルニ決ス

二十六番久世通章曰委員ノ任期ハ六箇月トアルモ他ノ仕事ト異ナレハ僅々一箇年位ニ委員カ交代スルハ不可ナレハ落成迄トシ六箇月ノ文字ヲ削除シ文章ハ議長ノ手元ニ於テ然ルヘク訂正セラレヌト述タルニ三十九番中孫三郎二十三番石田喜兵衛四十二番原田與七四十一番西村彌五郎五番中安信三郎三番鈴鹿辨三郎三十番野原新造ノ賛成アリテ議題トナリシモ可否ヲ決スルニ至リ十三名ノ少數ニテ消滅シ原案ニ決ス其他モ總テ原案ニ確定セリ

議長ハ本案可決ニヨリ委員四名ヲ撰擧セシメタルニ當撰者左ノ如シ依テ翌九日

議決ノ趣市參事會へ報告（原案ノ通ナス）

野原新造 木村勝次郎 玉水新太郎 中川長平

右ニ付市參事會ハ同月十五日左ノ通告ス

京都市公告第十五號（原案ノ通ナス）

臨時土木委員事務取扱規程市會ノ議決ヲ取り左ノ通相定ム

京都市參事會

明治二十六年三月十五日

京都府知事千田貞曉

市會 第二十八回

第二十六年
回市會二十八

同月七日開會出席議員三十八名缺席議員四名議長中村榮助ハ左ノ議案ヲ議サシ
メタルニ三十二番松下新助ハ委員ヲ撰ンテ調査セシメ其報告ヲ待テ議スヘシト
ノ建議ヲ提出シ三番鈴鹿辨三郎十五番中野忠八之ヲ賛成シ議題トナリタルニ十
六番中川長平ヨリ質問ヲ了シタル後ニスヘシト論シ同意者アリシヲ以テ先決問
題トシテ十六番説ニ起立セシメタルニ十名ノ少數ニテ消滅シタルハ三十二番ノ
調査委員ニ托スル説ニ同意者ヲ起立セシメタルニ過半数ニヨリ七名ヲ投票スル
ニ決シ開票シタルニ木村勝次郎中安信三郎堤爾兵衛鈴鹿辨三郎河北武兵衛松下
新助中野忠八ノ七名當撰ス議案ハ左ノ如シ

京都市第二十七號議案ノ内 鴨川運河ニ
關スル分

京都府京都市明治二十六年度歳入出豫算

歳入

一金八萬七千八百八拾七圓拾六錢參厘

歳入豫算高

歳出

一金八萬七千八百八拾七圓拾六錢參厘

臨時費豫算高

本案ハ三月十七日調査報告アリ一次會ハ原案ニ可決シ二次會ハ同月二十四日異
議ナク原案ニ可決シ翌二十五日二次會決議ノ通三次會ニテ確定シ同月三十日議
長ヨリ市參事會へ報告（原案ノ通ナス）アリ翌三十一日市公告第二十七號ヲ以テ市參事會
ヨリ公告（原案ノ通ナス）セリ

同月三十一日市參事會府知事ハ第十八號議案可決ニ付市參事會員中ヨリ撰出ス
ヘキ臨時土木委員ヲ穴戸龜三郎ト撰定セラレタリ

市會 第二十九回

第二十六年
回市會二十九

同年五月二十九日開會出席議員三十二名缺席議員九名缺員一名議長中村榮助ハ
左ノ議案ヲ議サシメタルニ異議ナク一次會ヲ以テ確定シ直ニ後任者ヲ撰擧シタ
ルニ中村平右衛門當撰セシヲ以テ即日市參事會へ報告ス

第五十五號議案

臨時土木委員木村勝次郎公務多忙ノ故ヲ以テ臨時土木委員ノ辭任ヲ申出テタ

疏水要略附録 ○市會

右ハ相當ノ理由アルモノトス
同年六月二十一日市參事會ハ市公告第四十一號ヲ以テ臨時土木委員就任ノ件ヲ
公告セリ

市會 第三十回
二十六年

同年八月五日開會出席議員三十七名缺席議員三名缺員二名議長中村榮助ハ左ノ
議案ヲ議サシム

京都市第七十二號議案

一金貳萬七千圓

內

金貳萬四千圓

金貳千九百圓

土地建物等補償費
工 事 費
京都伏見間水路開鑿之内鴨川疏水落合ヨリ五條迄ノ間ニ船溜メ及荷揚ケ場無
之ヲ以テ下京區大和大路三條下ル大橋町外三箇所地内三條ヨリ車道ノ間ニ船
溜メ及荷揚ケ場並五條音羽川間ノ船溜メヨリ通行ノ路線無之ニ付同區西橋町
地内問屋町へ及同區鍵屋町地内正面通へ土地建家ヲ收用シ新道ヲ設置スルモ
ノトス

但本項ニ充ル金額ハ市公債ヲ募集スルモノトス
參考書

大和大路三條下ル

大橋町
五軒町

一金九千五百七拾七圓

土地收用費

一金壹萬參百七拾圓

建家其他收用費

一金貳千四百貳拾四圓

工 事 費

計金貳萬九千九百五拾壹圓

問屋町五條下ル西橋町

一金五百參拾圓

土地收用費

一金九百五拾圓

建家其他收用費

一金八拾六圓

工 事 費

計金千五百六拾六圓

鍵屋町正面問屋町音羽川

一金千九百六拾壹圓

土地收用費

一金千九百參拾貳圓

建家其他收用費

一金參百九拾圓

工 事 費

內 金貳百貳拾七圓
金百六拾參圓

橋道
梁路
費

計金參千四百八拾參圓
總計金貳萬七千圓

内譯

金壹萬八百四拾八圓

金貳千九百圓

内金貳千七百參拾七圓
金百六拾參圓

土地收用費

建家其他收用費

工 事 費

道 路 費
橋 梁 費

二十八番堀田康人ハ大和大路三條下ル所ニハ官地アラン然ラハ之ノミチ使用セ
ハ如何ト問ヒ番外三原技手ハ官有地ノミノ設計ハ未ダ調ヘスト答ヘリ三十六番
古川吉兵衛ハ參考書中大橋町五軒町ノ分ハ金高甚々多シ其地坪及建家ハ何程ア
ルヤヲ問ヒ番外北川屬ハ地所ハ六百十坪四合五勺建家ハ四百九十四坪八合六勺
ナリト答ヘリ三十五番東枝吉兵衛ハ荷揚場ハ必要ニ相違ナキモ場處ニヨリ差異
アラシ夷川ニ廣潤ナル水溜アルモ貨物ノ集散ハ重ニ仁王門ニアリ然ルニ今又大
和大路三條下ル所ニ船溜ヲ設クルノ必要ヲ問ヒ番外三原技手船溜ハ五條ト音羽
川間ニアルモ其距離千二百十八間ニシテ此間一ノ荷揚場ナキハ甚々不便ト考フ
且三條ハ京都ノ咽喉地タルヲ以テ隨テ物貨ノ集散モ多カルヘシト見込ナルニ
據ルト答フ三番鈴鹿辨三郎ハ千二百餘間ノ間ニ荷揚場ナキハ不便ナルモ荷物ノ

多少ニ依リ見込ヲ立ツルモノナリトテ物貨集散ノ見込ヲ聞キ番外三原技手ハ唯
今ハ調査シ居ラスト答ヘタルニ二十七番尖戸龜三郎ハ一昨年運河問題ノ喧シキ
時ニ當リ調査シタルニ松原以南ニ於テ日々高瀬ニ往復スル所ノ荷舟ハ大略五十
艘内外ナリシカ今日ニ於テモ甚シキ相違ナカルヘシ又貨物ノ多寡ハ松原ヲ以テ
南北相央スルナリト答フ九番伊藤喜三郎ハ正面音羽川間及西橋町ニ係ル地坪建
家ハ何程ナルヤヲ問ヒ番外北川屬ハ地坪ハ三百三十一坪四合二勺建家ハ百六十
七坪二合五勺又西橋町ノ地坪ハ百五十一坪四合二勺建家ハ八十六坪二合五勺ナ
リト答フ四十一番西村彌五郎ハ荷揚場ハ完全ナル設計ナルヘシ物貨集散ノ大畧
ヲ聽キタシト望ミ番外三原技手ハ畧ニ三番ニ答ヘタル如ク唯今手許ニ取調タル
モノナケレハ後ヨリ報告スヘシト答ヘリ九番伊藤喜三郎ハ正面音羽川間工事ノ
設計ヲ問ヒ番外三原技手ハ船溜ハ前ノ設計書ノ内ニアリ荷揚場ヨリ道路ニ通ス
ヘキ道路洩レ居リタルハ此ニ算出シタリト答フ卅六番古川吉兵衛ハ荷揚場ニ爲
スヘキ大橋町五軒町ハ運河モ既ニ出來シ居レリ兩度ニストキハ工費ヲ増スカ
如キ感アルカ或ハ一時ニ爲シ能ハサルニ依ルカ又ハ引出シ主義カ知ラサルカ
ニ角今日ノ處ニテハ後年ニ讓ルモ可ナルヘシト問ヒ番外三原技手ハ今日起工ス
ルモ後日ニスルモ工費ニハ關セサレ共收用等ニ差支アルヲ以テ寧ロ此際施行ス
ルヲ可ナリト答フ三十五番東枝吉兵衛ハ參考書中ニ參千四百八拾參圓ハ道路ノ

必要ノミニテ起工スルヤ又他ノ必要ナルヤヲ問ヒ番外三原技手ハ鍵屋町道路ハ重ニ荷揚場ヨリ道路へ通スヘキ新道ヲ作ル費用ニシテ當今アル道路ハ水路ニ爲ス見込ナリ又問屋町ノ道路ハ七間半ニシテ通常道路ト異ナラスト答フ十七番河村清七ハ五條下ル所ニ一箇所ノ荷揚場アリテ新運河出來ノ曉ハ大津ヨリ伏見迄一直線トナルヘシ然ラハ大和大路三條下ル所ハ不適當ノ場所トナラスト然ルニ三條ニ設ケントセラル、理由及其工事ノ設計ヲ聞キ番外三原技手ハ他ニ理由ナク五條夷川間ニ幅濶スル物貨ニ對シ一箇所ノ荷揚場ナキハ不都合ナレハ中央ニ當ル三條ニ設ケントスルニ外ナラスト答フ

三十二番松下新助曰委員ヲ設ケテ調査ヲ托スルコトニシタシト建議セシニ三十八番河北武兵衛之ヲ賛成シ又四十番堤彌兵衛モ之ヲ賛成シテ曰ク元來運河ヲ疏通シタル今日荷揚場ノ設置ハ實ニ必要ナリ然レトモ貳萬餘圓ノ支出ハ甚々多キニ過クレハ三條橋以南ニハ官有地アレハ之ヲ使用スヘシト論シ議題トナル十七番河村清七曰今問敷ヲ定メテ荷揚場ヲ設置スルノ必要ナシ既ニ大阪ノ諸川ニ徴スルモ明ナリ況ンヤ川幅モ狹隘ニシテ東ニ南ニ數箇所ノ「インクライオン」アリ或ハ開門モ多ク舟楫上不便利少ナカラサル運河ニ何ソ大ナル荷揚場ヲ設置スルノ要アラシヤ故ニ全通ノ上適當ノ箇所ニ設置セハ可ナレハ先ツ五條ニ一箇所ヲ置ケハ足レリ故ニ西橋町ノミヲ殘シ他ハ廢棄スヘシト論シ賛成者アリテ是又議

第二十六年
第三十一
回市會

題トナル議長ハ論旨盡キタリト認メ十七番説ニ起立セシメタルニ五名ノ少數ニテ消滅シタルハ次ニ三十二番ノ調査委員ニ托スル説ニ起立セシメタルニ過半數ヲ以テ之ニ決シ委員五名ヲ投票セシメタルニ堤彌兵衛松下新助伊藤喜三郎東枝吉兵衛古川吉兵衛當撰ス

市會 第三十一回

同月十四日開會出席議員三十一名缺席議員九名缺員二名議長中村榮助缺席ニ付代理者東枝吉兵衛之ニ代リ前會ニ於テ委員ニ托シタル調査報告アリタル旨ヲ告ク其報告書ハ左ノ如シ

京都市第七十二號議案調査報告書

一金五千四百四拾五圓

内

金四千五百七拾參圓

金八百七拾貳圓

土地建物等補償費

工事費

京都伏見間水路開鑿ノ内鴨川疏水落合ヨリ五條迄ノ間ニ船溜メ及荷揚ケ場無之ヲ以テ下京區大和大路三條下ル大橋町外一箇町地内三條ヨリ車道ノ間ニ荷揚ケ場並五條音羽川間ノ船溜メヨリ通行ノ路線無之ニ付同區西橋町地内問屋町へ及ヒ同區鍵屋町地内正面通へ土地建家ヲ收用シ新道ヲ設置スルモノトス

但本項ニ充ル金額ハ市公債ヲ募集スルモノトス

參考書

大和大路三條下ル 大橋町 五軒町

一金參百九拾六圓

計金參百九拾六圓

問屋町五條下ル西橋町

一金五百參拾圓

一金九百五拾圓

一金八拾六圓

計金千五百六拾六圓

鍵屋町 正面間 音羽川

一金千百六拾壹圓

一金千九百參拾貳圓

一金參百九拾圓

計金參千四百八拾參圓

總計金五千四百四拾五圓

工 事 費

土地收用費

建家其他收用費

工 事 費

土地收用費

建家其他收用費

工 事 費

道 橋 梁 路 費

内 譯

金千六百九拾壹圓

金貳千八百八拾貳圓

金八百七拾貳圓

内 金七百九圓 金百六拾參圓

土地收用費

建家其他收用費

工 事 費

道 橋 梁 路 費

調査委員

堤 彌兵衛

松下新助

伊藤喜三郎

東枝吉兵衛

古川吉兵衛

十番木村勝次郎ハ私有地ニ係ル分ヲ删除シタルニモ拘ラス猶工事費ヲ存シタル理由ヲ問ヒ三十六番古川吉兵衛ハ大橋町ノ官有地ヲ返地セシメ之ニ延長四十間高一間五分ノ石垣ヲ設ク此費用參百九拾六圓ヲ要スルニアリト答へ而シテ此調査案ヲ以テ直ニ二次會ヲ開クヘシト希望シタルニ二十四番栗山敬親之ヲ賛成シ四十三番山本清助ハ之ニ反シ原案ヲ以テ二次會ヲ開クヘシト論シ十番木村勝次郎ノ賛成アリテ何レモ議題トナル依テ議長代理者ハ先ツ十三番説ニ起立セシメタルニ十一名ノ少數ニテ消滅シタルハ次ニ三十六番ノ説ニ起立セシメタルニ十

四名ノ過半数ニテ調査報告書ヲ以テ二次會ヲ開クニ決シ直ニ議事ニ移ル
 十番木村勝次郎ハ調査案ニハ荷揚場ヲ設ケテ船溜ヲ造ラサルハ如何ナル理由ナ
 ルヤヲ問ヒ四十番堤彌兵衛ハ三條ニハ荷物積卸シノ爲メ一時繋船スルコトアル
 モ數艘ノ船カ輻湊スルカ如キコトナカルヘシ故ニ荷揚場ハ必要ナルモ船溜ハ不
 必要ト認メ刪除シタリト答フ二十七番穴戸龜三郎及十番木村勝次郎ハ原案ヲ贊
 成シ四十番堤彌兵衛ハ現今ノ高瀬川ニテモ三條迄登ルヘキ貨物ハ殆ント稀ニシ
 テ將來此運河ニ對シテモ亦然リ調査案ハ頗ル其當ヲ得タルモノナリト信スト維
 持セリ二十三番石田喜兵衛曰本員ハ四十番ト同一ノ意見ヲ以テ本案ヲ廢棄セン
 ト述ヘタルニ廿二番確井小三郎ノ贊成アリテ議題トナル議長代理者ハ論旨盡キ
 マリト認メ二十三番ノ本案廢棄說ニ起立セシメタルニ四名ノ少數ニテ消滅シ次
 ニ原案ニ起立セシメタルニ十三名ノ少數ニテ又消滅シ終ニ調査案ニ起立セシメ
 タルモ亦十四名ノ少數ニテ何レモ全ク消滅セシニ三十三番玉水新太郎ハ再議セ
 ノコトヲ建議セシニ四十番堤彌兵衛之ヲ贊成シタルニ十四番富田半兵衛ハ建議
 採用スヘカラスト反對シ二十三番石田喜兵衛ノ贊成アリテ何レモ議題トナル議
 長代理者ハ三十三番ノ建議採用スヘカラストニ十四番說ニ起立セシメタルニ
 三名ノ少數ニテ消滅シ次ニ三十三番ノ建議本案ヲ再議スヘシトスル說ニ起立セ
 シメタルニ過半数ニテ再議スルニ決シ直ニ再議ス

四十二番原田與七ハ大和大路ノ三百九拾六圓ヲ削リ其他ハ調査報告案ヲ可トス
 ト述ヘタルモ贊成者ナク消滅シ十五番中野忠八ハ巖ニ二十七番ヨリ提出シタル
 修正說ヲ更ニ提出スヘシト述ヘ十三番山本清助ノ贊成アリテ議題トナル議長代
 理者ハ論旨盡キタリト認メ十五番說ニ起立セシメタルニ七名ノ少數ニテ消滅シ
 次ニ調査案ニ起立セシメタルニ過半数ニテ可決ス依テ直ニ三次會ヲ開ク旨ヲ陳
 告ス四十番堤彌兵衛ハ五千四百四拾五圓ニハ異議ナケレトモ市公債募集方ニ不
 都合アレハ五拾圓ニ詰メント修正說ヲ提出シタルニ三十三番玉水新太郎三十二
 番松下新助二十七番穴戸龜三郎ノ贊成アリシモ制規ノ數ニ至ラス自然消滅ス三
 十五番雨森菊太郎ハ市公債ハ漸次募集額ヲ決シタレトモ未タ市公債發行ノ手續
 ナ設ケス將來大ニ差支ヲ生スルナラン依テ市參事會ニ於テ至急調査ノ上市會ハ
 附議セラレタリト望ミタルニ二十三番石田喜兵衛之ニ同意ヲ表ス議長代理者ハ
 論旨盡キタリト認メ二次會決議ヲ可トスル者ニ起立セシメタルニ大多數ニテ確
 定シタルハ翌十五日決議ノ旨市參事會ヘ報告^{報告案通ナズ}
 九月九日市參事會ハ七十二號議案議決報告ニ基ツキ左ノ通告セリ

京都市公告第六十二號

京都伏見間水路開鑿ノ内船溜及荷揚ケ場設置ノ件市會ノ議決ヲ取り左ノ通告
 案通ナレハ相定ム

明治二十六年九月九日

市會 第三十二回

九月二十九日開會出席議員三十六名缺席議員四名缺員二名議長中村榮助ハ左ノ議案ヲ議サシム

京都市第七十七號議案

本市明治二十六年年度歳入出追加豫算

歳入

一金五千四百四拾五圓

歳出

一金五千四百四拾五圓

京都市參事會

京都市府知事千田貞曉

四十番堤彌兵衛ハ五圓ノ端金ハ公債募集上如何ナル取扱ニ爲スヤチ問ヒ番外三原技手ハ七十二號案決議ニ基キ發案シタルモノニテ公債募集ノ際ハ他ノ費用ト合シテ募集スヘキ見込ナリト答ヘリ議長ハ他ニ異議ナキヲ以テ一次會ハ原案ニ可決シタル旨ヲ告ケ二次會ヲ開ク
四十番堤彌兵衛ハ此市公債募集額ヲ五千四百圓トシ更ニ一欸ヲ加ヘテ四拾五圓雜收入ト修正スヘシト述ヘ三十三番玉水新太郎十番木村勝次郎ノ賛成アリテ議

歳入豫算高

歳出臨時費

題トス十番木村勝次郎ハ問屋町ノ家屋買收ノ上ハ其賣拂代金ハ如何スルヤト問ヒ番外三原技手ハ土地收用費ハ五百參拾圓ニシテ建家其他ノ收用費ハ九百五拾圓ナリト答ヘ又二十七番六戸龜三郎ハ買收建家ノ賣却代金ハ未タ收入ノ分ニ算入セスト答ヘリ議長ハ論旨盡キマリト認メ四十番ノ修正說ニ起立セシメタルニ過半数ニテ可決シ他ニ異議ナキヲ以テ本案ハ二次會ヲ以テ確定シ次ニ臨時土木委員滿期ニ付後任者ヲ撰舉シタルニ伊藤喜三郎堀田康人田中督次郎中川長平當撰シタルハ即日左ノ通報告ス

別紙ノ通決議相成候條此段及報告候也

明治二十六年九月二十九日

市會議長中村榮助

京都市參事會

京都市府知事千田貞曉殿

本市明治二十六年年度歳入出追加豫算

歳入

一金五千四百四拾五圓

歳入豫算高

歳出

一金五千四百四拾五圓

歳出臨時費

臨時土木委員滿期改撰ノ所左ノ諸氏當撰セリ

伊藤喜三郎 堀田康人 田中督次郎 中川長平
同月同日市參事會員中ヨリ撰出スヘキ臨時土木委員ハ市參事會府知事ヨリ前任者穴戸龜三郎ヲ撰任セリ

同年十月五日市參事會ハ右決議報告ニ基キ七十七號議案ハ市公告第六十七號ヲ以テ公告シ臨時土木委員ノ交任ノ件ハ左ノ通告告セリ

京都市公告第六十八號
臨時土木委員左ノ通交任ス

京都市參事會

明治二十六年十月五日

京都府知事千田貞曉

臨時土木委員

臨時土木委員

- | | | | |
|------|--------|----|-------|
| 滿期退職 | 穴戸龜三郎 | 就任 | 穴戸龜三郎 |
| 同 | 野原新造 | 同 | 伊藤喜三郎 |
| 同 | 玉水新太郎 | 同 | 堀田康人 |
| 同 | 中川長平 | 同 | 田中督次郎 |
| 同 | 中村平右衛門 | 同 | 中川長平 |

第二十六年
第三十三
回市會

十月二十四日開會出席議員二十七名缺席議員十三名缺員二名議長中村榮助ハ出

席定數ニ滿タサルモ再招集ノ故ヲ以テ開會スル旨ヲ陳告ス諮問案ハ左ノ如シ

諮問

京都伏見間水路開鑿ノ内伏見インクライン上下水面ノ落差ハ五十尺ニシテ一秒時間ノ流量百二十個ナルカ故ニ之ヲ水力電氣ニ利用スルトキハ其利益少ナカラス依テ水力電氣起業ノ目的ヲ以テ之ニ要スル費用調査セシニ別紙取調書ノ金額ヲ要ス該設計ヲ以テ工事施行セントス此旨諮問ス
伏見インクライン水力電氣二百馬力ニ對スル事業費取調書
一金四萬八千九百七拾貳圓參拾四錢貳厘也

內譯

- 金壹萬九千五百七拾圓六拾五錢六厘
 - 但鐵管代及据付費
 - 金貳萬八百七拾八圓九拾錢
 - 但水車及發電機并一哩以内ニ架設スヘキ架設費
 - 金八千五百貳拾貳圓七拾八錢六厘
 - 但電氣工場及倉庫并放水路費
- 參考
舶來品ヲ用ユルトキハ右ノ豫算ニ増加スルコト左ノ如シ

金壹萬六千四百七拾圓也

是ハ發電機二臺及鐵管并架線費共計金六萬五千四百四拾貳圓參拾四錢貳厘

二百馬力ニ對スル收入
一金八千貳百圓也

但五十馬力未滿即チ四拾壹圓ノモノヲ以テ標準トシ一箇年ノ收入ヲ起算シタルモノ

二百馬力ニ對スル經定費
一金千六百四拾參圓八拾錢也

但一箇年間ノ經定費
差引金六千五百五拾六圓貳拾錢也

右

伏見インクライン水力電氣二百馬力ニ對スル起業費豫算
但和製ノモノヲ用ユ

一金四萬八千九百七拾貳圓參拾四錢貳厘
內譯

全收入高

種目	摘	要	員數	單價	金額
煉瓦	煉瓦受及放水路並ニ周圍煉瓦				八六、六九〇、〇〇〇
同積賃	セメント砂及左官手元手傳目漆喰共				六、二〇〇
コンクリート塊	セメント及栗石砂練手間共打上ケ迄悉皆煉瓦臺及放水路基礎ニ遣フ				八六、六九〇、〇〇〇
松丸太	同上基礎杭ニ遣フ末口六寸長二間				七二、五〇〇
人夫	同上杭打人夫				二八、五〇〇
堀鑿土砂	電氣工場及水路共土砂捨場へ運送共				六九三、〇〇〇
石垣	排水口兩側扣二尺四五寸坪二十積合端玄翁叩キ石代及積手間栗石共一式但梯子土臺木共				五〇〇
張石	同上ノ川底張石石代及張手間共				七〇〇
建家	電氣工場十五間ニ十一間				六三〇、〇〇〇
倉庫	物入及器械小屋五間ニ四間				二五、〇〇〇
小以					二〇、〇〇〇
水車	徑八尺ノイゾル四個百馬力				四、〇〇〇、〇〇〇
發電機	百馬力用				八、五二二、七八六
架線費	一哩以內ニ架設スル柱及銅線並ニ附屬品共				四、〇〇〇、〇〇〇
カラシヤフ	水車ト發電器ノ間ニ裝置スルモノ				六、九二九、四〇〇
トアレー					二、〇〇〇、〇〇〇

水力要誌附錄 ○市會

帶	同上用動力傳導用大小	六〇〇	〇	一、五〇〇、〇〇〇
据	同上据付並ニ取付基礎共	二、〇〇	六、四七五〇	一、三六九、五〇〇
小	以			二、八七九、〇〇〇
鐵	管 内徑三呎長十二尺鑄鐵	六八、〇〇	一、四六、〇〇〇	九、七九二、〇〇〇
同	同上曲管	三、〇〇	一、〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇
運	送 費 神戸ヨリ伏見迄運送費	六八、〇〇	一〇、〇〇〇	六、〇〇〇、〇〇〇
ハ	ル フ 鐵管取付ニ遣フ	三、〇〇	三、〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
鐵	管据付費 徑三尺長十二尺鐵管据付費	〇	〇	二、二六四、一五〇
鐵	管取入口 同上水管入口工費	〇	〇	一、〇五六、八一六
石	垣 ドラムへ達スル水路西側石垣但石代積手間票	七五、〇〇	六、三〇〇	四、七三三、〇〇〇
堀	鑿土砂 同上ノ箇所堀鑿土捨場ニ捨土トモ	二五〇、〇〇	七〇〇	一、七五五、〇〇〇
土	地買上 ドラム工場ノ所及電氣工場	三九五、〇〇	六〇〇	二、三三七、〇〇〇
増	築 ドラム工場増築	一〇、〇〇	一、〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
雜	費 同上小測量用及造形其他	〇	〇	一、五〇〇、〇〇〇
水	中鐵車 インクライン鋼押へ車及滑車並ニ据付トモ	〇	〇	一、三三三、一五〇
合	計			一、三三三、一五〇

石	垣 インクライン南側植木町通据石代及積手間共	三〇、〇〇	五、三〇〇	一、五九九、〇〇〇
堀	鑿土砂 同上南側堀鑿ノ箇所土捨手間トモ	六〇〇、〇〇	七〇〇	四、二〇〇、〇〇〇
豫	備 費 右一切ニ係ル豫備費			一、〇〇〇、〇〇〇
小	以			一九、五七〇、六五六
合	計			四、八九七、三三四

右之通

三番鈴鹿辨三郎曰市外ニ於テ之ノ如キ工事ヲ施行スルハ不可ナレハ伏見町ト約
 東ノ上同地方ノ意向ヲ聽キ契約スルカ或ハ條件ヲ附シテ起工セシムルモ可ナリ
 水利事務所ノ如キ筆法ヲ以テ起工スヘカラスト論シタルニ二十三番石田喜兵衛
 ハ市參事會ヘ調査ヲ托スルノ意ナルヤヲ問ヒ三番ハ然リト答ヘリ
 二十四番栗山敬親曰本案ハ返上スヘシ運輸ノ便ナレハ大阪神戸ヨリ見込ヲ付ク
 ル者モアリ伏見町ノ希望等辯明アレトモ本家本元ノ水利事務所スラ二年ノ歳月
 ヲ經過スルモ未ダ得意増加セサルカ爲メ總馬力使用ノ半ニモ達セサルハ即チ利
 益無キニ據ルヘシ電燈會社ニ放任シテ彼レニ利益ヲ得セシムルノミカ目的ニモ
 非サルヘシ然ルニ今又新規ノ業ヲ起シ五萬圓ノ金額ヲ投セントス其利益ノ如何
 ハ未來ノ事ノミ況ンヤ市部會ニテ八萬圓ノ費用ヲ要ス元ヨリ市會トハ其性質異

ナルモ經濟ハ同一ナリ又例ノ委員屋其人ニ任スヘキ考ナルカモ知ラサレトモ餅
 ハ餅屋ナリ何ソ餅屋カ友仙ヲ染ルカ如キ愚策ヲ取ントスルヤ疏水工事モ未タ其
 効ヲ奏セサルニ今又之ニ類スル出店セントスルハ不可ナリト論セリ
 十七番河村清七曰委員ヲ設ケテ調査セシメントス委員屋ト唱フル者アルヤ否ハ
 知ラサレトモ苟クモ市會議員タル人々ハ何人ニテモ是位ノ調査ハ出來得ルナラ
 ヲ水利事務所ノコトヲ辯セラレタルモ決シテ然ラズ是ハ電動力ノ退歩ニ非スシ
 テ他ニ種々ナル障碍アリテ進歩ヲ妨クルニアリ其原因ハ工業鎮靜ノ場合ニ在リ
 シカ昨年來漸々回復ノ兆アリ遠距離式ノコトモ取調ヲ要ス伏見町ハ運輸ノ便モ
 アリ却テ京都ヨリ先ニ進歩ズルヤモ知ルヘカラストノ辯明ハ或ハ然ラン就テハ
 同町ノ氣運モ調査シ若シ工業ヲ起スヘキ者アレハ可ナルヘキモ本員ハ同町ハ決
 シテ工業地ニ非スト信スルナリト論シタルニ三十五番東枝吉兵衛ハ本案ヲ返上
 スヘシトノ議論アレトモ此内ニハ「ドラム」改造ノ設計モアリ電力ヲ販賣セサレハ
 太キ鐵管モ不必要ナリ三番ノ如キ伏見町ニ引請サセルモ該管敷設迄ノ工事ハ京
 都市ニ於テ負擔セサルヘカテサレハトテ之ヲ賛成シ議題トナル
 二十六番久世通章曰本案ハ何故諮問案トセシヤ不分明ナリ市參事會ニ於テ必要
 トセハ直ニ議案トシテ提出セハ可ナリ何ソ諮問案トスルノ要アラシヤ故ニ反對
 ト云フニアラサルモ手續上反對セサルヲ得サレハ返上スヘシト論ス

三十六番古川吉兵衛曰三十五番「ドラム」工事ノ如キヲ包含シタルヲ以テ廢止ス
 ルヲ得スト雖モ若シ之ヲ必要トセハ更ニ發案アルヘシト論セリ
 三十番野原新造曰十七番及三十五番ノ説ヲ合セテ賛成セン委員屋カ出來委員會
 社カ起ルカ知ラサレトモ秘密ノ調査ヲ遂ケタル後ニ決定スヘシト述フ
 二十七番穴戸龜三郎曰發案ノ主旨ハ強テ諮問金額ノ支出ヲ仰クニ非ラス之ヲ利
 用スレハ大ナル利益アリト信認シタルヲ以テ其得失ヲ査定シ本會ノ意見ヲ諮問
 シタルニ在リト發案ノ理由ヲ辯シ二十六番久世通章ハ本案ハ彼ノ荷揚場ノ例ト
 恰モ相似タリ市參事會カ市會ニ向テ諮問案ヲ發スルハ正當ノ順序ニ非ス故ニ相
 成ヘシハ市制ノ明文ニ據リ發案セラレタシト希望スルニ外ナラスト再辯ス二十
 七番穴戸龜三郎ハ諮問案ノ賛同ヲ得ハ満足ナリト雖モ若シ不可ト決シタル場合
 ハ止テ得スト「ドラム」工事火ケ發案スヘシト辯明ス

十七番河村清七曰「ドラム」石垣堀鑿ノ項ハ三十二番説ノ如クナレハ三時ノ鐵管ヲ
 用非サルヘカラスト是等ノ事ハ市參事會ニ於テ充分調査シ諮問ニ付セシモノナル
 ヘシト雖モ今一層調査スルヲ可トスト自説ヲ維持セリ議長ハ論旨盡キタレハ二
 十四番ノ本案ヲ返上セントスル説ニハ種々ノ分子アルモ歸スル處ハ同一ナルヲ
 以テ此説ニ同意者ヲ起立セシメタルニ少數ニテ消滅シタレハ次ニ十七番ノ委員
 ヲ設ケ調査セントスル説ニ起立セシメタルニ過半数ニヨリ之ニ決シテ休憩ス同日

午後前議ヲ繼キ委員ノ手續ヲ諮リ終ニ五名ヲ投票スルコト、シ開票シタルニ東
枝吉兵衛河村清七古川吉兵衛鈴鹿辨三郎野原新造當撰ス

市會 第三十四回

十一月十四日開會出席議員三十名缺席議員十名缺員二名議長中村榮助ハ伏見、イ
シクラインニ關スル諮問案ニ對シ調査委員ヨリ報告アリタル旨ヲ陳告ス該調査
報告書ハ左ノ如シ

諮問案調査報告書

諮問案中「ドラム」工場ノ變更ハ諮問案ヲ可トシ同工場及ヒ電氣工場ニ要スル地
所ヲ購入シ三フットノ鐵管ヲ据付ケントス其工費豫算別紙ノ如シ
右報告ス

調査委員

- 古川 吉兵衛
- 東枝 吉兵衛
- 鈴鹿 辨三郎
- 河村 清七
- 野原 新造

電氣工場迄内徑三呎ノ鐵管一ト通り布設シテ「ドラム」ノ運轉ヲナシ他日水力電

種目	摘	要員	數	單價	金額
鑄鐵管	内徑三呎長十二尺		六八〇	一、二五〇、〇〇〇	八、五〇〇、〇〇〇
同上	曲管屈曲箇所ニ遣		三〇	一、〇〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇
運送費	大阪ヨリ伏見迄運送		七一〇	八、〇〇〇	五、六八〇、〇〇〇
バルブ	水量ノ加減ニ遣		三〇	三、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
鐵管据付費	右鐵管据付一切		〇	〇	二、一六四、一六〇
鐵管取入口	同上鐵管水取口構造		〇	〇	一、〇六六、六一六
石垣	ドラムニ建スル水路兩側 石垣割石及栗石積手間		七五〇	六、三〇〇	四、七二五、〇〇〇
堀鑿土砂	同上ノ箇所堀鑿土捨共		二五〇、〇	七〇〇	一、七五〇、〇〇〇
土地買上	電氣工場及ドラム工場		三九五、〇	六、〇〇〇	二、一三七、〇〇〇
増築	ドラム工場増築		一〇、〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇
水中鐵車	綱受車及綱寄車并ニ据付 共		〇	〇	一、〇三三、一〇〇

氣ヲ起スヘキ見込ヲ以テ施工スル事業取調書
一金壹萬七千五百壹圓四拾錢六厘也

内譯

石垣	堀鑿土砂	雜費	コンクリート塊	煉瓦	豫備費	計
撞木町南側石垣代及栗石積手間共	インクライン南側堀鑿	同上小測量用並ニ違形	鐵管取付ケ所即曲管ノ箇所長三間三尺幅一間	同上鐵管ノ扣ニ遣四百三十二立方尺		
三〇〇	六〇〇	〇	一五	八,〇〇〇	〇	〇
五,三〇〇	七〇〇	〇	二八,五〇〇	一一,〇〇〇	〇	〇
一五九,〇〇〇	四二〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	四二七,五〇〇	九二,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇	一,七五〇,一〇〇

右之通候也

三十八番河北武兵衛ハ伏見地方ノ意向及模様ヲ問ヒ三十六番古川吉兵衛ハ伏見町民ノ意向ハ電氣工場設置ノ希望アレトモ二百馬力ヲ購買スヘキ實力無キモノ如シ然レトモ他日ニ到レハ或ハ一個人ノ如キハ六七十馬力ヲ一手ニ購入スヘキ見込アレハ是等ノ需用ニ滿シ得ル豫考ヲ以テ三吋ノ鐵管ヲ据付置テ得策ナリト答ヘ又十番木村勝次郎モ諮問案ノ壹萬九千餘圓ハ鐵管据付ノミニ要スル費用ナルヤヲ問ヒ三十六番ハ鐵管ノミニ非ス工場ノ費用ヲモ包含セリト答ヘ又三十三番玉水新太郎ハ雜費ハ「ドラム」工場ヲ増築セサルニモ拘ラス必要ナルヤヲ問ヒ

三十六番然リト答ヘリ十七番河村清七ハ電動力ノ遠距離ニ達スヘキヤ否目下調査中ニシテ器械モ不日購入セラルヘシ元來本事業ハ伏見町地方ノ者ヲシテ電動力ヲ使用セシメントスルニ在リ當市ハ未ダ電動力ノ成蹟ヲ見サル今日ニ於テ收支ノ如何ヲ願ミス徒ラニ營利ノ度合ヲ進行スルハ採ラサル所ナリ故ニ生水ノ儘ニテ賣却セハ地所ノ買收ハ要セサルヤト問ヒ十七番ハ然リ必要アレハ使用者ニ於テ購入セハ足レリト答ヘリ三十六番古川吉兵衛ハ鐵管ヲ敷設シ置クニ於テハ直ニ會社モ起リ水ヲ引クニモ尤モ都合宜シカラシ況ンヤ僅々七千餘圓ヲ増セハ鐵管ヲ敷設シ得ヘキヤト述フ四十二番原田與七ハ諮問案ノ設計中伏見放水ノ爲ニ要スル地所ナキヤト問ヒ三番鈴鹿辨三郎ハ第一第二第三ノ水稅ヲ取ルニハ地所ノ買收ノ必要アリ委員ノ見込ハ目下伏見ニ於テハ電氣工場ヲ建設セサルモ他日之ヲ建設スル際ノ便宜ヲ慮リ今ヨリ鐵管ヲ敷設スルナリト答ヘリ四十二番ハ十七番ニ賛成シ三十番野原新造ハ報告案ヲ可トシ十七番河村清七ハ報告案ハ三吋ノ鐵管丈ニテ電氣工事ハ起工セストノ説ナレトモ收益上不利ナリ殊ニ伏見地方ニハ水ノ使用ヲ希望スルモノアリト述ヘ十番木村勝次郎ハ疏水ノ爲ニハ從來巨額ノ費金ヲ投シタルニモ拘ラス僅々タル費額ヲ減シ不完全ノ工事ヲナサントスルハ不可ナレハ報告案ヲ賛成スヘシト述フ議長ハ論旨盡キタリト認メ十七

番ノ本案ヲ不可トスル説ニ同意者ヲ起立セシメタルニ八名ノ少數ニテ消滅シタ
レハ次ニ報告案ヲ可トスル者ニ起立セシメタルニ過半數ニテ可決シ引繼キ二次
會ヲ開キタルニ異議ナク一次會ノ通可決シ三次會ヲ省略シテ調査委員報告案通
確定シ即日左ノ通答申ス

答申書

諮問案中「下ラム」工場ノ變更ハ諮問案ヲ可トシ同工場及ヒ電氣工場ニ要スル地
所ヲ購入シ「三フート」ノ鐵管ヲ据付ケントス其工費ハ別紙報告案ノ通
ナレハ器ノ通豫算議定
候ニ付此段及答申候也

明治二十六年十一月十四日

市會議長中村榮助

京都市參事會

京都府知事 中井弘殿

市會 第三十五回

第二十六年
第三十五
回市會

同年十二月二十一日開會出席議員三十二名缺席議員八名缺員二名議長中村榮助
ハ第九十五號ノ議案ヲ審議セシメタルニ一次會二次會トモニ異議無ク原案ニ可
決シ三次會ヲ省略シテ確定シ次ニ第九十六號議案モ一次會ハ原案ニ可決シ二次
會ニ移リ三十五番東枝吉兵衛ノ修正説アリ議題トナリタルモ少數ニテ消滅シ原
案ニ可決シ三次會ハ同月二十五日二次會ノ通原案ニ確定シ即日市參事會へ報告

原案ノ通ナ
レハ器

京都市第九十五號議案

紀伊郡深草村字大福稻
小一ノ坪第二十六番地

元田反別一畝十四歩ノ内

一反別十二歩

同郡同村字大福稻
小拔川第十六番地ノ一

元田反別二畝二十二歩ノ内

一反別一畝八歩

計反別一畝二十歩

右地所ハ京都伏見間水路用土砂捨場ノ爲メ收用ノ處紀伊郡東洞院通ヨリ同郡
伏見街道稻荷社北鳥居前ニ達スル道路敷トシテ拂下出願者アルヲ以テ之レヲ
特賣スルモノトス

京都市第九十六號議案

本市明治二十六年年度歳入出追加豫算

歳入

一金壹萬八千九百貳拾九圓四拾錢六厘

歳出

歳入豫算高

一金壹萬八千九百貳拾九圓四拾錢六厘

歲出臨時費

歲入

費目	金額	付	記
第三款 雜收入	二九,四〇六		
第五款 市公債	一八,九〇〇,〇〇〇		

歲出

費目	金額	付	記
第四款 鴨川新運河インクライン工費	一八,九二九,四〇六		

京都市第九十六號議案參考書

電氣工場迄内徑三呎ノ鐵管一ト通り布設シテ「ドラム」ノ運轉ヲナシ他日水力電氣ヲ起スヘキ見込ヲ以テ施工スル事業費取調書

一金壹萬八千九百貳拾九圓四拾錢六厘也

内譯

種目	摘要	員數	單價	金額
----	----	----	----	----

鑄鐵管	内徑三呎長十二尺	六八〇	一四六,〇〇〇	九,九二八,〇〇〇
同上	曲管屈曲ノ箇所ニ遣	三〇	一六〇,〇〇〇	五,四〇〇,〇〇〇
運送費	大阪ヨリ伏見迄運送	七一〇	八,〇〇〇	五,六八〇,〇〇〇
ハルプ	水量ノ加減ニ遣	三〇	三六〇,〇〇〇	一,〇八〇,〇〇〇
鐵管据付費	右鐵管据付一切	〇	〇	二,二六四,一七〇
鐵管取入口	同上鐵管水取口構造	〇	〇	一,〇八六,六一六
石垣	ドラムニ達スル水路兩側石垣割石及栗石積手間	七五〇	六,三〇〇	四,七二五,〇〇〇
掘鑿土砂	同上ノ箇所掘鑿土捨共	二五〇,〇	七〇〇	一七五,〇〇〇
土地買上	電氣工場及ドラム工場	三九五,〇	六〇〇	二二七,〇〇〇
増築	ドラム工場増築	一〇,〇	一六,〇〇〇	一六〇,〇〇〇
水中鐵車	網受車及網寄車并ニ据付共	〇	〇	一,三三四,一七〇
石垣	撞木町南側石垣石代及栗石積手間	三〇〇	五,三〇〇	一,五九〇,〇〇〇
掘鑿土砂	インクライン南側掘鑿	六〇〇,〇	七〇〇	四二〇,〇〇〇
雜費	同上小測量用并ニ違形	〇	〇	一五〇,〇〇〇
コンクリート塊	鐵管取付ヶ所即曲管ノ箇所長三間三尺幅一間	一,五	二八,〇〇〇	四二,七五〇

煉瓦	全上鐵管ノ扣ニ遣四百三十二立方尺	八,000.00	1,750.00	九,750.00
豫備費		0	0	200,000.00
計		0	0	一八,九四九,四〇六

右之通候也

明治二十七年一月二十五日市參事會ハ右議決ニ基キ市公告第二號及第四號ヲ以テ公告セリ

市會 第三十六回

第二十七年
第三十六回
市會

明治二十七年三月六日開會出席議員三十二名缺席議員九名缺員一名議長中村榮助ハ左ノ議案ノ一次會ヲ開ク

京都市第二十六號議案

京都伏見間新運河工事ハ中途設計變更ノ爲メ年度内竣功ニ至ラサルニ付該工事ハ來明治二十七年年度へ繰越シ繼續施行スルモノトス
三十三番玉水新太郎ハ此工事ハ竣功ニ至ラズシテ繰越ニナレハ工費ハ如何ナル都合トナルヤヲ問ヒ番外三原枝手ハ二十七年年度ニ繰越テモ工費ハ動かサルナリト答ヘ三番鈴鹿辨三郎ハ工事變更ノ爲メニ一箇年ヲ延期スルハ少シク緩漫ナルカ如ク實際工事ノ模様ハ如何又本年七八月ノ頃ニ竣功シテモ議案ハ之ノ如クセ

サルヲ得サルヤヲ問ヒ番外三原枝手ハ二十七年年度ニ繰越テモ年度内ハ掛ル積ナリ「インクライン」ノ「ドラム」工事ニ時日ヲ要スルヲ以テナリ其内ニテモ鐵管ノ外國注文物カ後レルニヨリ工事ハ終ヲ告グルモ待サルヲ得ス尤モ運河工事ハ大抵本年中ニ竣功ノ積リナレトモ何分鐵管ハ九月ニ來ル見込ナレハ止ヲ得ス本案ヲ發スルニ至レリト答ヘ三番ハ番外ノ前言ヲ確メ三原枝手ハ前陳ノ通答ヘタルニ二十七番穴戸龜三郎ハ番外ノ答辯中盡サ、ル所アリトテ九月中ニ落成スル如ク云ヘルモ早キ部分ハ九月ニ出來スル處モアレトモ遅キ部分ハ九月中ニハ六ヶ敷カラン其ハ据付等ノコトモアリト補ヘリ議長ハ論旨盡キタリト認メ原案ニ可決シ二次會モ異議ナキヲ以テ三次會ヲ省略シテ確定シタルヲ以テ同月十九日議決ノ趣市參事會ヘ報告ナレハ器ス

右市會ノ報告ニ基キ市參事會ハ同月二十八日市公告第二十九號ヲ以テ公告セリ
同月十二日京都市報告第三號ヲ以テ明治二十五年年度歳出臨時費決算左ノ通市會ヘ報告ス

明治二十五年年度京都市歳出臨時費決算

科	目	豫算額	決算額	差	引
鴨川新運河工費		三,四六一,〇〇〇	二,九八六,〇四一	四六四,九五九	〇

臨水要誌附録

〇市會

工 事 費	一六、二九四、八三二	一三、五七四、七一八	三、七二〇、一一四	〇
土地建家買收費	一五、二四八、〇四四	一五、二四八、〇四四	〇	〇
測 量 費	二九七、五一一	三、四〇、二九四	〇	四、二七、八
雇 給	四三、五〇三	四三、五〇三	〇	〇
旅 費	五、五七七、七〇〇	五、五七七、七〇〇	〇	〇
雜 費	六、二七六、四〇〇	七、〇四、五九〇	〇	〇
井 泉 手 當				

明治二十五年年度京都市歳入出實額比較表

歳	入	歳	出	差引 殘高
科 目	實 收 額	科 目	實 費 額	
		鴨川筋新運河工費	二九、八六〇、四一五	

第二十七年
第三十七回
回市會

市會 第三十七回

同月二十一日開會出席議員三十名缺席議員十一名缺員一名議長中村榮助ハ臨時
土木委員滿期ニ付改撰セシメタルニ山本清助玉水新太郎中村平右衛門栗山敬親

ノ四名當撰セシヲ以テ同日市參事會へ報告ス

同月二十六日市參事會府知事ハ右報告ニヨリ市參事會員中ヨリ撰出スヘキ委員
ヲ前任者穴戸龜三郎ニ再任シ左ノ通公告セリ

京都市公告第四十號

臨時土木委員左ノ通交任ス

京都市參事會

明治二十七年四月二十六日

京都府知事 中 井 弘

臨時土木委員長

退職 穴戸龜三郎

臨時土木委員

退職 堀田康人

同 田中督次郎

同 伊藤喜三郎

同 中川長平

臨時土木委員長

就職 穴戸龜三郎

臨時土木委員

市會 第三十八回

同年六月二日開會出席議員二十八名缺席議員十三名缺員一名議長雨森菊太郎ハ左ノ議案ヲ審議セシメタルニ異議ナク一次會及二次會ハ原案ニ可決シ三次會ヲ省略シテ確定シタルヲ以テ同日市參事會ヘ報告 原案ノ通ナレハ畧ス

京都市第五十四號議案

本案中鴨川新運河ニ關スル經費及之レニ對スル歳入額ヲ算出シ茲ニ揭ケ他ハ之レヲ畧ス

京都市明治二十七年年度歳入出追加豫算

歳入

一金四萬六千六百九拾六圓參拾五錢八厘

歳出

一金四萬六千六百九拾六圓參拾五錢八厘

參考書

一金拾四萬五千八百七拾參圓參拾六錢九厘

臨時費豫算高

就職 山本清助
同 玉水新太郎
同 中村平右衛門
同 栗山敬親

内
金拾貳萬千參百貳拾八圓拾六錢參厘
金五千四百四拾五圓
金壹萬八千九百貳拾九圓四拾錢六厘
金百七拾圓八拾錢
寄付金
廿五年八月六日決議
廿六年九月廿九日決議
同年十二月廿五日決議

科 目	廿五年度精算	廿六年度精算	廿七年度へ繰越	合 計
鴨川新運河工費	二九、八六〇、四一五	六九、三六、五九六	四六、六六、三五八	一四五、八七三、三六九
工 事 費	一三、五七四、七一八	四五、四三三、四七六	二五、六九八、二六五	八三、七三六、四五九
△内寄付金	二〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	一七〇,〇〇〇
土地建家買收費	一五、四八〇、〇〇〇	二〇、二九、四三三	八八七、八九一	三六、二六五、三二〇
測 量 費	三、四〇、二九二	五〇三、一五二	一一〇、七七〇	八四五、三二四
雇 給	四三〇、三三二	九一、七三三	六三三、二二六	一、〇六〇、〇〇〇
旅 費	五五七、七三四	八二九、一一〇	三二五、八六〇	一、七一二、七〇四
雜 費	七〇五、五九〇	一、三二、一五〇	二五八、九三〇	一、二九六、六七〇

井泉手當	0	0	100,000	100,000
インクライン工費	0	338,000	1,860,180	1,892,480

第二十七年

第三十九回

市會

同月十四日右報告ニ基キ市參事會ハ市公告第五十四號ヲ以テ公告セリ

同年九月十三日開會出席議員三十二名缺席議員九名缺員一名議長雨森菊太郎ハ左ノ議案ヲ審議セシメタルニ異議ナク一次會及二次會ハ原案ニ可決シ三次會ニ移リタルニ十五番中野忠八ハ疏通式ヲ舉行スヘキ時機尙早シト認ムルヲ以テ他日全線路竣功ノ後ニスルモ敢テ遲キニアラサレハ此場合ハ廢棄シ置クヘシト論シ四十二番原田與七五番能勢儀兵衛二十二番確井小三郎三番鈴鹿辨三郎等ノ贊成アリテ議題トナリタルモ起立ノ際八名ノ少數ニテ消滅シ原案ハ過半数ノ同意ヲ以テ確定セリ

京都市第七十四號議案

京都伏見間新運河疏通式舉行該費用トシテ同工事費ヨリ金五百圓ヲ支出スルモノトス

次ニ議長雨森菊太郎ハ左ノ議案ヲ審議セシメタルニ一次會及二次會並ニ三次會トモ異議ナク原案ニ確定セリ

京都市第七十五號議案

鴨川新運河疏通式舉行ニ際シ該工事ニ關係セシ京都府廳吏員ニ慰勞金ヲ給セシメテ該工事費中ヨリ金百三十拾圓ヲ支出スルモノトス

同月十九日右議決ノ趣市參事會ヘ報告原案ノ通ス

同月二十五日市參事會ハ右報告ニヨリ市公告第七十號及第七十一號ヲ以テ公告セリ

第二十七年

第四十回

市會

市會 第四十回

同年十月三日開會出席議員二十八名缺席議員十三名缺員一名議長雨森菊太郎ハ左ノ議案ノ一次會ヲ開キタルニ三十二番松下新助ハ委員ヲ置キ調査ヲ托セント論シ十五番中野忠八ノ贊成アリテ成立シタルハ二十一番濱岡光哲二十六番久世通章八番中村善右衛門三十八番河北武兵衛四十一番西村彌五郎ノ五名ヲ指名シテ之ヲ托シ同月十二日調査委員ヨリ意見ヲ報告シ同月十八日審議ノ末第一條中修正ノ外總テ原案ニ確定シ同日直ニ市參事會ヘ報告ス

京都市第八十二號議案

京都市公債募集ニ關スル規定

本案ハ疏水々力使用事業ノ擴張費ト鴨川新運河築造工費ト混シ居ルヲ以テ全文掲載ナク省略ス

明治二十八年一月十日右報告ニ基キ市參事會ハ市公告第四號ヲ以テ公告セリ

第二十八年

第四十一回

市會

市會 第四十一回

疏水要誌附録 ○市會

同月二十八日開會出席議員三十名缺席議員十一名議長雨森菊太郎ハ左案ヲ審議セシメタルニ一次會及二次會共異議ナク原案ニ可決シ三次會ヲ省畧シテ確定セシヲ以テ即日市參事會ヘ報告原案ノ通ス

京都市第七號議案

紀伊郡柳原町字西畑第二十四番地ノ六外一筆

一水路用地反別十步(以下省略)

以上ノ地所ハ土地收用法ニ基キ舊持主ヘ原價買戻希望有無ヲ問ヒ其希望無

キモノハ競争入札ヲ以テ賣却セントス

紀伊郡深艸村字大福稻 小四ノ坪第六番地ノ五三十筆

一水路用地反別一反八畝七步(以下省略)

以上ノ地所ハ京都大谷間鐵道復線用地ニ係ルヲ以テ其買收ニ應セントス

京都市第八號議案(△印ハ朱書)

紀伊郡堀内村字大堀内 小丹下第八番地ノ三

一畑反別十七步(以下省略)

持主 田中源次郎

前記墨書ノ地所ハ京都伏見間水路用地トシテ買收スヘキノ處持主ハ所有地

寡少ナルヲ以テ本市所有ニ係ル朱書ノ地所ト交換スヘキ旨ヲ請求セリ依テ

之ヲ調査スルニ該地ハ土砂捨場ニ供用シタル不用地ナルニヨリ右ノ請求ヲ

許容セントス

同年二月十二日右議決報告ニ基キ市參事會ハ市公告第十號ヲ以テ公告セリ

第二十八年
第四十二
回市會

市會 第四十二回

同月二十三日開會出席議員三十二名缺席議員九名缺員一名議長雨森菊太郎ハ左

ノ議案ノ一次會ヲ開キタルニ異議ナク原案ニ可決シタルヲ以テ引繼キ二次會ニ

移リタルニ三十番野原新造ハ市參事會ニ希望ヲ述ヘ原案ニ賛成シ之ニ決シ三次

會ハ同月二十五日二次會決議ノ通確定シタルヲ以テ翌二十六日市參事會ヘ報告

原案ノ通ス

京都市第十七號議案

鴨川新運河工事ニ付疏水要誌編纂及會計主務ニ關セシ京都府廳吏員ヘ慰勞金

ヲ給セン爲メ該工事費中ヨリ金百貳拾圓ヲ支出スルモノトス

同年三月二十六日右議決報告ニ基キ市參事會ハ市公告第十九號ヲ以テ之ヲ公

告セリ

同年三月二日京都市報告第一號ヲ以テ明治二十六年年度歲出臨時費決算左ノ通市

會ヘ報告セリ

明治二十六年年度京都市歲出臨時費決算

科	目	豫算額	決算額	差	不	足

歳	科目	入		出		差引残高
		實收額	歳	實費額	出	
明治二十六年	鴨川新運河工費	一、二、四、一、三、六、九	六、九、三、一、六、五、九	四、三、〇、九、五、七、三	二、四、二、一、一、九、六	四、三、〇、九、五、七、三
	工專費	七、一、五、三、六、六、八	四、五、四、六、三、四、七、六	二、六、〇、七、三、一、五、二	一、五、三、三、六、六、八	二、六、〇、七、三、一、五、二
	土地建家買收費	一、六、九、三、三、三、六	二、〇、一、二、九、四、三、五	一、五、三、三、五、四、九	一、五、三、三、五、四、九	三、二、〇、七、一、〇、九
	測量費	五、五、六、八、〇、〇	四、〇、三、三、五、二	一、五、三、三、五、四、九	一、五、三、三、五、四、九	一、五、三、三、五、四、九
	雇給	一、五、四、四、九、六、九	九、一、七、三、三	六、三、三、三、六	六、三、三、三、六	三、一、一、一、六、三
	旅費	七、九、四、九、八、〇	八、二、九、一、一、〇	三、一、一、一、六、三	三、一、一、一、六、三	三、一、一、一、六、三
	雜費	六、二、七、二、六、〇	一、二、五、一、五、八、〇	六、三、三、三、六	六、三、三、三、六	六、三、三、三、六
	井泉手當	一、五、〇、〇、〇、〇	〇	一、五、〇、〇、〇、〇	一、五、〇、〇、〇、〇	一、五、〇、〇、〇、〇
	インクライン工費	一、八、九、九、九、六	三、二、八、〇、〇、〇	一、八、九、九、九、六	一、八、九、九、九、六	一、八、九、九、九、六

明治二十六年京都市歳入出實額比較表

明治廿九年三月十六日京都市報告第四號ヲ以テ明治廿七年度歳入出臨時費決

算左ノ通市會へ報告セリ

明治二十七年京都市歳出臨時費決算書

科目	目	決算額		實費ヲ豫算ニ比シ	
		豫算額	決算額	増	減
鴨川新運河工費		四、六、六、九、六、三、五、八	四、六、二、三、三、六、三、九	四、六、二、三、三、六、三、九	四、六、二、三、三、六、三、九
工事費		二、五、六、九、八、二、六、五	一、六、二、五、〇、四、六、三	九、四、四、七、八、二、〇	九、四、四、七、八、二、〇
土地建家買收費		八、八、七、八、九、一	八、七、一、六、八、七	一、六、二、〇、四	一、六、二、〇、四
測量費		一、一、〇、七、三、〇	五、一、〇、四、一、五	三、九、九、六、四、五	三、九、九、六、四、五
雇給		六、三、三、二、三、六	五、四、二、〇、〇、〇	九、一、一、三、六	九、一、一、三、六
旅費		三、一、五、八、六、〇	六、四、三、二、六、〇	三、二、七、四、〇、〇	三、二、七、四、〇、〇
慰勞			三、六、五、〇、〇、〇	三、六、五、〇、〇、〇	三、六、五、〇、〇、〇
雜費		二、四、八、七、三、〇	一、一、六、四、八、五、六	九、一、五、九、二、六	九、一、五、九、二、六
井泉手當		二、〇、〇、〇、〇		二、〇、〇、〇、〇	二、〇、〇、〇、〇
インクライン工費		一、八、〇、〇、一、四、六、〇	二、五、八、八、五、九、五、八	七、二、八、四、五、五、三	七、二、八、四、五、五、三

明治二十七年京都市歳入出實額比較表

第二十八年
第四十三回
市會

歳入		歳出	
科	目	科	目
	實收額	鴨川新運河工費	實費額
			四六三三、六三九

市會 第四十三回

明治二十八年五月十七日開會出席議員三十三名缺席議員十一名缺員一名議長雨森菊太郎ハ左ノ五十二號及五十四號議案ヲ議サシメタルニ兩議案共異議ナク原案ニ確定セシテ以テ同日其旨市參事會ヘ報告ス

京都市第五十二號議案

紀伊郡深艸村字大深艸 小深艸第六番地ノ一

一用惡水路反別四畝九步(以下省略)

右ハ京都伏見間水路堀鑿ノ土砂捨場ノ爲收用シタル地所ニ候處奈良鐵道線路ニ該リ避クヘカラサル位置ナル旨ヲ以テ同會社ヨリ拂下出願ニヨリ相當代價ニテ特賣セントス

京都市第五十四號議案

京都市下京區問屋町通五條下ル四丁目鍵屋町第五百番地元宅地

第二十八年
第四十四回
市會

一用惡水路三十二坪四合七勺(以下省略)

計三百三十一坪八合四勺

右ハ下京區問屋町通五條下ル鍵屋町地内官有水路ヲ京都伏見間運河用地ニ使用セシニヨリ該水路ヲ同所道路中ニ堀鑿シ道路狹隘トナルニヨリ本行ノ市有地ヲ道敷トシテ官有地ニ寄附セントス

同年六月六日右報告ニ基キ市參事會ハ市公告第五十四號ヲ以テ公告セリ

市會 第四十四回

同年八月廿四日開會出席議員三十五名缺席議員九名缺員一名議長雨森菊太郎左案ヲ議サシメタルニ異議ナク原案ニ確定シタルヲ以テ同月廿六日市參事會ヘ報告ス

京都市第六十四號議案

京都伏見間水路ノ内紀伊郡伏見町地内大和街道并同郡深草村地内二ノ橋川沿道路ヲ横斷シ通船ノ都合ヲ計リ從前ノ路面ニ比シ橋梁ヲ高架セシテ以テ隨テ橋臺以外ノ道路ニ笠置ヲ爲スノ必要ヲ生シ爲メニ路脚ヲ取擴ケタル用地別紙ノ通有之右ハ官有道路ノ幅員ヲ取擴ケタルモノナルニヨリ之ヲ官有地トシテ寄付セントス

寄付地細目

- 紀伊郡伏見町字鑑屋第千百十四番地ノ三
- 一 道敷反別二十二步
- 全所第千百十四番地ノ二
- 一 全反別十一歩
- 全所第千百十三番地ノ一
- 一 全反別十二歩
- 全所第千百十二番地ノ一
- 一 全反別六歩
- 全郡全町字堀ノ上第千二百二十五番地ノ二
- 一 道敷反別四歩
- 紀伊郡伏見町字堀ノ上第千二百二十二番地ノ三
- 一 全反別五歩
- 全所第千二百二十一番地ノ二
- 一 全反別三歩
- 全所第千二百二十番地ノ二
- 一 全反別二歩
- 全郡深草村字大福稲第一番地ノ四

- 一 全反別一畝二十四歩
- 全郡全村字大福稲第十九番地ノ二
- 一 全反別四歩
- 全所第十九番地ノ三
- 一 全反別四合
- 全所第十九番地ノ四
- 一 全反別七歩
- 全所第十九番地ノ一
- 一 全反別十一歩
- 全所第十七番地ノ十二
- 一 全反別三歩
- 全所第二十番地ノ三
- 一 道敷反別十六歩
- 紀伊郡深草村字大福稲第六番地
- 一 全反別二十七歩
- 全所第七番地ノ一
- 一 全反別十六歩

土地

全所第七番地ノ二
 一全反別二十四歩
 全郡全村字大福稻田第十番地ノ一
 一全反別十八歩
 全所第十一番地ノ一
 一全反別三歩
 全所第十二番地ノ一
 一全反別四歩
 全所第十三番地ノ一
 一全反別一歩
 計反別八畝十三歩四合
 同年九月六日右報告ニ基キ市參事會ハ市公告第六十八號ヲ以テ公告セリ

土地
 本工事中土地使用上ニ關シ各官衙へ照會往復セシ事件尠ナカラスト雖トモ委ク之ヲ掲載スルハ却テ繁雜ノ嫌アルヲ以テ就中重要ナル事件ヲ撰ミ左ニ之ヲ掲載シ以テ後日ノ參考ニ供ス

市往第二六號

京都伏見間水路開鑿之内紀伊郡深艸村字福稻地内稻荷神社前ニ於テ船溜ヲ設ケ伏見街道へ連絡スル道路取設ケ候積就テハ別紙圖面朱色ノ場所御應鐵道敷テ道路ニ流用使用候様致度別紙圖相添此段及御照會候也

京都市參事會

京都府知事千田貞曉

明治二十六年五月二十四日

鐵道廳長官松本莊一郎殿

鐵道四三七號

京都伏見間水路開鑿ノ内紀伊郡深艸村字福稻地内稻荷神社前ニ於テ船溜ヲ設ケ伏見街道へ連絡スル道路取設ケ爲メ鐵道線路敷地ヲ道路ニ流用御使用相成度旨御照會ノ趣了承右ハ追テ複線布設等ノ場合ニ於テハ必要ニ付道路敷ニ編入ノ義ハ差支候得共當廳ニ於テ入用ノ節ハ何時ニテモ返地相成候義ニ候得ハ御使用相成差支無之候尤彌御使用之義ナレハ尙一應御通報相成度此段及御回答候也

明治二十六年六月二十六日

鐵道廳長官松本莊一郎

京都市參事會

京都府知事千田貞曉殿

市往第四一號

京都伏見間水路開鑿ノ内紀伊郡深艸村字福稻地内稻荷神社前船溜ヨリ伏見街道へ連絡スル爲メ鐵道敷地ヲ道路ニ流用致度ニ付使用ノ義及御照會候所去六月二十六日付鐵道第四三七號ヲ以追テ複線布設等ノ場合御應ニ於テ御入用ノ節何時ニテモ返地候得ハ使用候トモ差支無之旨御答之趣了承右ハ御應ニ於テ御入用ノ節何時ニテモ返地可致ニ付使用ノ儀御承知置相成度此段申進候也

京都市參事會

明治二十六年七月四日

京都府知事千田貞曉

鐵道廳長官松本莊一郎殿

追テ工事着手候節ハ京都七條停車場御廳御出張員へ打合候積申添候也

市往第七二號

府下京都伏見間水路開鑿ノ内紀伊郡深艸村字福稻地内稻荷停車場北水路開鑿ノ爲メ別紙圖面(零)ノ通堀割切附ヲ要シ候所御廳鐵道用地ニ接近ノ場所ニ付御差支有無及御問合候御答相成度此段及御照會候也

京都市參事會

明治二十六年九月八日

京都府知事千田貞曉

鐵道廳長官松本莊一郎殿

鐵道第六三五號

京都伏見間水路開鑿ノ内稻荷停車場近傍ニ於テ鐵道線路接近ノ箇處堀鑿ノ義ニ付市第七二號ヲ以テ御照會ノ趣了承同所ハ將來當所ニ於テ複線布設ノ計畫有之候ニ付鐵道線路ノ傍へ堅牢ナル土留石垣築造相成候カ否レハ當所用地境界ヨリ十尺以上ヲ隔テ、開鑿相成候様致度此段及御回答候也

明治二十六年九月二十五日

鐵道廳長官松本莊一郎

京都市參事會

京都府知事千田貞曉殿

市往第八四號

府下京都伏見間水路開鑿ノ内稻荷停車場近傍ニ於テ鐵道線路接近ノ箇所堀鑿ノ儀ニ付及御照會候所同所ハ將來御應ニ於テ複線布設ノ計畫有之旨ヲ以テ堅牢ナル土留石垣築造スルカ否レハ御應用地境界ヨリ十尺以上ヲ隔テ開鑿スヘキ旨御回答ノ趣了承右ハ目今複線布設ノ御計畫アルモ未ダ御確定相成候ニ無之相考候就テハ最前御照會ニ添行セシ圖面ノ如クスルトキハ同所ヨリ北ノ方鐵道線路ト同ク切付テ候儀ニシテ目今ノ所御差支無之様相信候得共接近候ニ付爲念御照會候次第ニ有之候殊ニ既ニ敷地モ買收済且石垣築造候事ハ費用ノ都合ニ有之施行困難ニ候條複線布設御確定ノ上ハ免モ角即今ノ場合別紙圖面(零)ノ通施工可致候條宜敷御了知相成度爲念此段更ニ申進候也

明治二十六年十月十八日

京都市參事會

京都府知事千田貞曉

鐵道廳長官松本莊一郎殿

又官有地借入ニ就テハ明治二十六年三月以來京都府知事へ上申シ許可ヲ得テ契約セシモノヲ掲載スレハ左ノ如シ

市庶第一三號

京都市下京區宮川筋四條下ル八丁目

一川緣地百六十五坪一合二勺

同上問屋町通上人町

一同二百四十七坪七勺

同上同町通橋町西側

一同八百八十八坪七合二勺

同上宮川筋二丁目

一同百一坪六合四勺

同上同筋三丁目

一同五十四坪九合八勺

同上同筋四丁目

一同百七坪九合二勺

同上同筋五丁目

一同百四十一坪二合三勺

同上同筋六丁目

一同九十七坪九合三勺

紀伊郡伏見町字堀詰新

一川緣地三百七十九坪三合八勺

計二千百八十三坪九合九勺

借用年季三十箇年

右ハ京都伏見間水路線ニ係リ到底避クヘカラサル位置ニ候條去ル二十三年中御許可之通無料御貸渡相成度候果シテ御差支無之候得ハ借用契約書ノ義ハ追テ取調可指出候仍テ別紙繪圖(畧)相添此段及請求候也

京都市參事會

京都府知事千田貞曉

明治二十六年三月十四日

京都府知事千田貞曉殿

尙以テ請求地所ノ内借用ニ係ル分數箇所有之趣ニ付右ハ本年四月十日限返地ノ御處分相成候様致度副申候也

京都府指令内二第四九號

京都市參事會

明治二十六年三月十四日市庶第一三號付請求加茂川縁官有地貸渡ノ件開届シ
但明治二十四年七月告示第四十八號ニ準據シ契約書差出スヘシ最本地ハ素
地ノ儘使用スヘキ義ト心得ヘシ

明治二十七年九月五日

京都府知事 中井弘

官地借用契約書

細目ハ請求書ト同一ナレバ
之ヲ省キ総坪數ノミヲ記ス

一 計坪數 二千八百八十三坪九合九勺

借用期限 從明治二十七年九月
至同二十七年八月三十箇年季

前記ノ通京都伏見間水路用ノ爲借用候ニ付契約スル條々左ノ如シ

- 一 借用目的以外ニ使用不致候自然不得止事故ニヨリ使用相改候節ハ前以テ
出願ノ上何分ノ御指揮ヲ受クヘシ候
- 一 借用地ハ何等ノ場合ト雖モ他人ニ轉貸致サス候
- 一 府郡市町村ニ於テ賦課其他借地上要スル費用ハ都テ負擔可致候
- 一 借用滿期ノ節ハ借用上許サレタル構造ハ渾テ市費ヲ以テ取拂ヒ又ハ舊狀
ニ復シ期內ニ返還可致候
- 但借用中ト雖モ御廳ニ於テ必要アルトキハ御達ノ期限內本項ノ如ク可

致候

一 各項中違反ノ廉有之爲ニ生スル損害ハ借用主ニ於テ其費用ヲ賠償シ地所
ハ原形ニ復スヘシ且借用地引上相成候共異儀無之候
右條件契約致候也

京都市參事會

明治二十七年十月十日

京都府知事 中井弘

京都府知事 中井弘殿

市庶第四七號

京都ヨリ伏見ニ通スル水路用地ノ内官有地ニ係ル分ハ無料使用ノ義豫テ御聽
許相成居候處上京區夷川以南下京區宮川筋一丁目團栗橋マテノ間鴨川中ハ既
ニ工事落成ノ場合ニ相成候條別紙ノ通使用契約書差出候此段上申候也

京都市參事會

明治二十六年七月二十一日

京都府知事 千田貞曉

京都府知事 千田貞曉殿

市埔第六號

書面上申ノ趣聞置候事

明治二十六年七月二十九日

京都府知事 千田貞曉

官地借用契約書

京都市上京區新生洲町

一 鴨川敷坪數九百三十二坪七勺

內 三百九十三坪八合九勺
五百三十八坪一合八勺

同上孫橋町

一同千四百四十二坪六合

內 六百十九坪九合七勺
八百二十二坪六合三勺

同清林寺門前町

一同二百七十二坪

內 百十六坪四合
百五十五坪六合

京都市下京區三條大橋町

一同三百二十六坪二合二勺

內 百六十三坪二勺
百六十三坪二勺

同上五軒町

一同五百二坪六合三勺

內 三百四坪九合八勺
百九十七坪六合五勺

同上新五軒町

水路敷使用

同同 同上

同同 同上

同同 同上

同同 同上

一同四百七十坪三合

內 二百二坪五合五勺
二百六十七坪七合五勺

同上辨財天町

一同八百六坪一合五勺

內 三百五十三坪三勺
四百五十三坪一合二勺

同上常盤町

一同三百二十六坪六合四勺

內 百六十五坪一合五勺
百六十一坪四合九勺

京都市下京區川端町

一 鴨川敷坪數四百九十八坪四合六勺

內 三百六十八坪五合一勺
百二十九坪九合五勺

同上宮川筋一丁目

一同六百八十六坪一合一勺

內 三百四坪四合七勺
三百八十一坪六合四勺

總計坪數六千二百六十三坪一合八勺

內譯

二千九百九十一坪九合七勺

水路敷

同同 同上

同同 同上

同同 同上

同同 同上

同同 同上

三千二百七十一坪二合二勺

使用期限 自明治二十六年七月 至同 五十六年六月 三十箇年季無料

其他ノ條件ハ二十七年十月十日ノ契約中第二項ヲ除クノ外同一ナレハ省署以下之ニ依リ

京都市參事會

京都府知事千田貞曉

明治二十六年七月二十一日

京都府知事千田貞曉殿

市庶第七一號

細目ハ契約書ニ同シケレハ省署ス

下京區大和大路三條下ル大橋町五軒町地内鴨川緣官有地ノ儀京都伏見間水路開鑿上必要地ニ候條豫テ伺定メ置候通無料ニテ御貸渡相成度此段上申候也

京都市參事會

京都府知事千田貞曉

明治二十六年十月十六日

京都府知事千田貞曉殿

京都府指令内二第五六號

京都市參事會

明治二十六年十月十六日市第七一號付上申加茂川緣官有地貸渡之件開届ク

但使用期限取究明治二十四年七月告示第四十八號ニ準據シ契約書差出スハ

シ最本地ハ素地ノ儘使用スヘキ義ト心得ヘシ

明治二十七年二月十三日

官地借用契約書

京都府知事 中井弘

京都市下京區大和大路三條下ル大橋町川緣官有地

一川緣地十八坪七合三勺

但別紙圖面之器ノ通

同所

一同七坪二合八勺

同所

一同六坪七合五勺

同所

一同八坪九合

同所

一同七坪六合

京都市下京區大和大路三條下ル五軒町鴨川緣官有地

一川緣地六坪一合二勺

同所

一同九坪二勺

同所
 一同九坪九合
 同所
 一同二十六坪六合
 同所
 一同十七坪四合九勺
 同所
 一同三十四坪四合二勺
 同所
 一同八坪九合七勺
 同所
 一同二十九坪四合四勺
 同所
 一同二十三坪一合
 同所
 一同十坪七合七勺
 計坪數二百二十四坪五合五勺

借用期限 自明治二十七年九月 至同五十七年八月 三十箇年季

明治二十七年十月十日

京都府知事 中井弘殿

市庶第二九號

京都ヨリ伏見ニ通スル水路用地ノ内官有地ニ係ル部分ハ無料使用ノ儀豫テ御
 聽許相成居候處京都市下京區宮川筋二丁目以南紀伊郡柳原町地内ニ至ル鴨川
 敷ニ係ル官有地別紙ノ通使用致候條契約書相添此段上申候也

京都市參事會

京都府知事 中井弘

京都市參事會

京都府知事代理

京都府書記官 一坂俊太郎

明治二十七年十月二十四日

京都府知事代理

京都府書記官 一坂俊太郎殿

官有地使用契約書

京都市下京區宮川筋二丁目

一鴨川敷坪數四百二十坪

内 百六十坪
 二百六十坪

水路敷使用
 坪數使用

但別紙繪圖面之畧ノ通

同上宮川筋三丁目

一同二百八十七坪五合

内 百十五坪五合
百七十二坪

同上四丁目

一同四百四十二坪六合六勺

内 百六十坪三合二勺
百八十二坪三合四勺

同上五丁目

一同七十八坪一合三勺

内 十六坪
六十二坪一合三勺

同上六丁目

一同三百一十一坪二合五勺

内 六十九坪四合九勺
二百四十一坪七合六勺

同上七丁目

一同三百六十三坪三合三勺

内 百五十七坪八合
二百五坪五合三勺

同上八丁目

同同	同同	同同	同同	同同
上上	上上	上上	上上	上上

一同四百七十二坪九勺

内 二百二十四坪二勺
二百四十八坪七勺

同上朱雀町

一同三百二十七坪九合三勺

内 百六十七坪四合三勺
百六十坪五合

同上上人町

一同百二十三坪八合九勺

内 六坪三合
百十七坪五合九勺

同上西橋町

一同七百十三坪二合六勺

内 二百六十坪一合一勺
四百五十三坪一合五勺

同上鍵屋町

一同二百十六坪五合八勺

内 四十三坪二合三勺
百七十三坪三合五勺

同上堀詰町

一同六百二十八坪四合六勺

内 二百八十九坪五合八勺
三百三十八坪八合八勺

同同	同同	同同	同同	同同	同同
上上	上上	上上	上上	上上	上上

同上下堀詰町

一同五百四十二坪九勺

内 三百四十一坪六合九勺

同上白吉町

一同三百五十三坪一合七勺

内 百六十九坪八合九勺

内 百八十三坪二合八勺

紀伊郡柳原町字宮ノ内

一同七百九十九坪七合七勺

内 三百九十四坪七合四勺

内 四百五坪三勺

同上字野本

一同二百九十五坪六勺

内 百二十四坪八合六勺

内 百七十四坪二合

總計坪數六千三百七十五坪一合七勺

内 二千六百坪九合六勺

内 三千七百七十四坪二合一勺

使用期限 自明治二十七年十月三十箇年季無料

至同 五十七年九月

同 同 同 同 同

同 同 同 同 同

同 同 同 同 同

同 同 同 同 同

同 同 同 同 同

同 同 同 同 同

同 同 同 同 同

同 同 同 同 同

同 同 同 同 同

同 同 同 同 同

同 同 同 同 同

同 同 同 同 同

同 同 同 同 同

同 同 同 同 同

同 同 同 同 同

同 同 同 同 同

同 同 同 同 同

同 同 同 同 同

同 同 同 同 同

同 同 同 同 同

同 同 同 同 同

同 同 同 同 同

同 同 同 同 同

同 同 同 同 同

京都府書記官一坂俊太郎

京都府知事代理

京都府書記官一坂俊太郎

市庶第一〇〇號

官有地借用願

京都市下京區正面通上ル鍵屋町川綠官有地

一川綠地反別四畝十八步七合六勺

但三十箇年季

右ハ京都伏見間水路開鑿ニ付必要ニ候條豫テ伺定置候通無料ニテ御貸渡相成

候様致度此段相願候也

京都市參事會

京都府知事代理

京都府書記官一坂俊太郎

明治二十七年十月二十九日

京都府知事代理

京都府書記官一坂俊太郎

京都府指令内二第五五號

京都市參事會

明治二十七年十月二十九日願官有地借用ノ件開屆候條明治二十四年七月告示第四十八號ニ準據シ契約書差出スヘシ

京都府知事代理

京都府書記官一坂俊太郎

明治二十七年十一月八日

官有地借用契約書

京都府下京區正面通上ル鍵屋町鴨川縁官有地

一川縁地反別四畝十八步七合六勺

但別紙繪圖面ノ通

借用期限 自明治二十七年十一月三十箇年季無料
至同五十七年十一月三十箇年季無料

市庶第二一號

官有地借用願

京都市下京區日吉町

官有川岸地反別四畝十九步六厘七毛ノ内

一川岸地反別一畝五步

但三十箇年季

右地所ハ京都伏見間水路線ニ係リ避シヘカラサル位置ニ候條豫テ願濟ノ通り無料ニテ前記ノ期間借地御許可被下度別紙繪圖之相添此段相願候也

京都市參事會

京都府知事渡邊千秋

明治二十七年二月八日

京都府指令内第二三號

京都市參事會

明治二十八年二月八日付願官有地借用之件開屆候條明治二十四年七月當廳告示第四十八號ニ據リ來ル二十五日限契約書差出スヘシ尤本地ハ素地ノ儘使用スヘキ義ト心得ヘシ

京都府知事渡邊千秋

明治二十八年二月十八日

官有地借用契約書

京都市下京區日吉町

官有川岸地反別四畝十九步六厘七毛ノ内

一川岸地反別一畝五步

但別紙繪圖面ノ通

借用期限 自明治二十八年三月一日三十箇年無料
至同五十八年二月二十八日

土第四二六號

紀伊郡伏見町字新町十四丁目所屬疏水運河ニ於テ鐵道設計上架橋ヲ要候旨奈良鐵道會社長今村勤三ヨリ別紙願書差出候處認可相成候モ差支無之哉何分ノ

義御回答相成度及照會候也

追テ御回答ノ節願書圖面共御返戻相成度候也

明治二十七年七月三日

内務部

水路事務所御中

水往第二百六十七號

紀伊郡伏見町字新町十四丁目所屬疏水運河ニ於テ鐵道橋架設ノ義奈良鐵道會社長今村勤三ヨリ別紙願出ニ依リ認可相成ルモ差支無之哉御問合之趣了承取調候處橋臺之距離四十尺ノ設計ニ付綱曳道ヲ塞クヲ以少ナクトモ四十八尺以上ニ無之テハ目今ノ處ニテモ差支候該所ハ船舶輻湊スルノ見込ニ付將來川幅取擴シルノ舉アルモ其際川幅ニ伴ヒ橋臺築替ノ義同社ニ於テ豫テ了知シ置クコトニ候ハ、運河上架橋候共差支無之候條左様御承知相成度此段及御答候也
二十七年七月十九日
京都市水路事務所

京都府内務部御中

逐テ別紙願書及御返戻候也

土第一四〇號

紀伊郡伏見町字新町十四丁目運河ニ係ル奈良鐵道橫斷ノ場所架橋ノ義奈良鐵道株式會社々長今村勤三ヨリ客年中願ニ因リ水路事務所へ協議及候處橋臺ノ

距離四十八尺以上ニ修正尙將來河幅ヲ擴クル舉アルキハ橋臺築換之義同社ニ於テ豫メ了知爲致候ハ、差支無之段回答有之仍テ右之趣旨ヲ指示願書却下候處尙亦別紙ノ通設計書圖面ヲ屬シ願出〇印開伸書差出候ニ付該社長ニ付キ取糺候處右架橋使用材料既ニ準備候ニヨリ願出ノ通特ニ聽許相成度段申出候ニ付今一應及御協議候條何分ノ御回答相成度此段及照會候也
明治二十八年二月六日
内務部

市參事會御中

追テ御回答ノ節願書圖面御返戻相成度爲念申添候也

市往第三七號

紀伊郡伏見町字新町十四丁目新運河ニ係ル奈良鐵道橫斷ノ場所架橋ノ義ニ付差支有無御問合ニ依リ客年七月十九日付ヲ以テ舊水路事務所ヨリ及御回答置候處橋臺ノ距離最前ノ如ク四十尺ニシテ架設ノ義該鐵道會社長ヨリ別紙願出ニ依リ尙又本月六日付ヲ以テ御照會ノ趣了承右ハ川幅ヲ三十尺トシ左右ニテ幅五尺ノ(東線ニテ二尺、西線ニテ三尺)綱曳道ヲ致シ架設尙將來川幅ヲ取擴クルノ舉アルトキハ川幅ニ伴ヒ同會社ニ於テ橋梁延長スルコトヲ豫テ了知シ置クコトニ候ハ、運河上架橋相成モ差支無之此段及御答候也

明治二十八年二月二十八日

京都市參事會

京都府内務部御中

逐テ別紙願書圖面及御返戻候也
 土第二二二號
 紀伊郡伏見町字新町十四丁目新運河ニ係ル奈良鐵道横斷ノ場所へ架橋ノ義ニ付及御照會候處客月二十八日付ヲ以テ御答ノ趣了承然ルニ將來川幅取擴ケルノ舉アルトキハ川幅ニ伴ヒ同會社ニ於テ橋梁延長スルコトヲ豫テ了知置云々ノ趣モ有之候へ共右ハ豫メ會社へ示命難相成筋ニ有之若シ他日川幅取擴ニ際シ橋梁延長ヲ要スルトキハ會社下協議シ起工者ニ於テ其費用ヲ負擔スヘキ筋ト存候條此段更ニ及照會候也

明治二十八年三月四日

京都府内務部

京都市參事會御中

市往第四七號
 紀伊郡伏見町字新町十四丁目新運河ニ係ル奈良鐵道横斷場所へ架橋ノ義ニ付爰ニ及御回答候處尙又本月四日付土第二二二號ヲ以テ御照會ノ趣承知致候此段及御回答候處
 明治二十八年三月十三日
 京都市參事會

工費精算

運河工費精算

新運河工費收入豫算比較表

科目	精算	豫算	差引	比較
市公債	一四八、三五〇、〇〇〇	一四八、三五〇、〇〇〇	〇	〇
公債募集益金	一〇四、〇九三	一〇四、〇九三	〇	〇
不用品拂代	四五、〇〇〇	四五、〇〇〇	〇	〇
寄附金	一七〇、八〇〇	一七〇、八〇〇	〇	〇
合計	一四八、六六九、八九三	一四八、六六九、八九三	〇	〇

新運河工費支出精算豫算比較表

科目	精算	豫算	差引	比較
測量費	三、二二一、七七七	一、七二一、六三三	三九九、六四五	〇
土地建家買收費	三六、三四九、一六六	三六、二六五、三七〇	〇	一六、二〇四
運河工費	七五、九〇三、三七七	八四、六〇〇、一七九	〇	八、六九七、八〇二
インクライン工費	二六、二二三、九五八	一八、九二九、四〇六	七、二八四、五五二	〇

明治二十五年七月再ヒ市會ノ決議ヲ以テ起工スルコト、ナリヌレハ更ニ經始測量ニ着手シ鴨川中ニ係ル線路ハ前ノ設計ノ位置ヲ用ヒ七條以南ノ線路ハ四千分一ノ勾配トナシ掘詰ニ達スル間ハ四十餘尺ノ落差アレハ開門ニ換ユルニ伏見ニ於テ傾斜鐵道ヲ設ケ水力ヲ利用スル目的ヲ以テ線路ヲ定メ敷回各地ノ高低ヲ測量スルソ工事ヲ起スニハ地位方向地質ノ組成工費ノ増減ハ線路撰定ニ胚胎スルモノナレハ工事ノ一部毎ニ尙ホ實測ヲ加ヘ中心線ノ如キハ十間毎ニ一材ヲ建テ掘割築立等ノ土積ハ委ク精査ヲ遂ケ同年十一月經始測量ヲ了ヘ同月工事ニ着手スルヲ得マリ運河船溜堤防道路傾斜鐵道開門工事其他線路敷地土取捨場買上及借入地等平面圖縱橫斷實測或ハ製圖凡ソ工事及土地買收ニ附帶スル測量ノ事業ハ枚舉ニ違アラス今左ニ測量ヲ了ヘ製圖セシモノ、成績ヲ掲ク左表ノ如シ

圖目	年	度	合	計
平面原圖	三	卷	三	卷
縱斷原圖	四	卷	三	卷
橫斷原圖	二	卷	三	卷
平面騰寫圖	〇	〇	三百十三枚	千七百十四枚
縱斷騰寫圖	〇	〇	十九卷	〇
				十九卷

又、ペンチャマークヲ沿道各所ニ設置ス蓋シ一部分ノ工事成ルニ隨ヒ當初布設スル所ノ測量杭ハ撤棄スルモノナレハ重キテ高低ヲ測リ成績ヲ檢スルニ此「ペンチャマー」クヲ以テ最緊要トナス起工以來線路ニ沿ヒ設置スルコト即チ左表ノ如シ

番	號	位	置
一	號	川端仁王門北東角敷石	五尺九寸八分五厘
二	號	川端通孫橋西南角石	八尺三寸二分三厘
三	號	三條大橋東詰北東角橋臺	六尺〇四分六厘
四	號	三條大橋一町南美ノ吉裏石	十四尺五寸七分九厘
五	號	川端車道南入二軒目敷石	十八尺七寸六分
六	號	松原橋東詰水車人家敷石	二十八尺七寸六分四厘
七	號	五條大橋東詰北東角橋臺石	二十九尺〇三分五厘
八	號	正面橋東詰南東角橋臺石	三十九尺四寸八分三厘

九	號	七條橋東詰北東角橋臺石	四十一尺〇二分三厘
十	號	七條南水車前敷石	四十二尺七寸九分六厘
十一	號	鐵道橋下東ヨリ第一ヒヤ石	五十二尺四寸五分六厘
十二	號	二ノ橋川筋道路西側	五十二尺〇〇八厘
十三	號	三ノ橋川筋運河西側畔	五十五尺〇五分一厘
十四	號	鳴川高瀬釜淵樋門東角石	五十七尺八寸五分一厘
十五	號	大字福稻ノ内陶器會社南地際	四十五尺四寸三分一厘
十六	號	稻荷停車場西船溜西畔	四十七尺九寸四分一厘
十七	號	寶塔寺前通運河東詰	四十七尺三寸九分七厘
十八	號	長欣寺川堤防上	四十二尺七寸七分
十九	號	藤森一町北道路	四十九尺八寸九分七厘
二十	號	墨染通運河西南詰	四十五尺四寸一分二厘
廿一	號	インクライン上船溜中	四十尺五寸六分二厘
廿二	號	インクライン下北東ニ	七十九尺三寸〇六厘
廿三	號	伏見堀詰	九十四尺七寸七分四厘

測量費

金貳千百拾壹圓貳拾七錢七厘
合計金貳千百拾壹圓貳拾七錢七厘

測量費

收用地

收用地

本線路ノ爲民有地收用ニ就テハ關係者頗ル多クシテ容易ニ纏ラサルヲ察知シ豫
メ關係町村ニ於テ總代人ヲ撰舉セシメタルニ本町通五條下ル九丁目松村小三郎
青山貞輔同十丁目伊藤庄兵衛今村忠右衛門藤井利右衛門同十九丁目井久兵衛
同二十二丁目中谷與兵衛尾崎潔次紀伊郡柳原町多田長兵衛深草村大字福稻大石
長兵衛同筋達橋十丁目今村範這同大字深草小西七左衛門大久保治良市同伏見町
字鐘屋町城戸近三郎同上板橋木村伊兵衛同堀詰鐸本治郎助等ト萬事協議シ大ニ
好結果ヲ得タリ

本線路ニ要セシ民有地ノ收用及官有地ノ借入寄附地收納等明治二十五年以降同
二十八年ニ至ル間ニ取扱タル事件ヲ總計セハ左ノ如シ

- 一 反別二十町二反六畝二十九步七合三勺
- 内

- 官有地 五町九畝二十步八合五勺
- 收用地 十五町八畝二十五步五合四勺

寄附地 四畝十八步七合八勺
交換地 三畝二十四步五合六勺

收用反別代價		科目反別代價	
種目	反別代價	科目	反別代價
田	六六七一・九二	原野	三〇〇・八二
畑	五四六・六六	溜池	一一五・〇〇
宅	一一三・七八	補償費并	〇
山林	一五六一・三九	合計	一五〇・八二
			三六二・四九

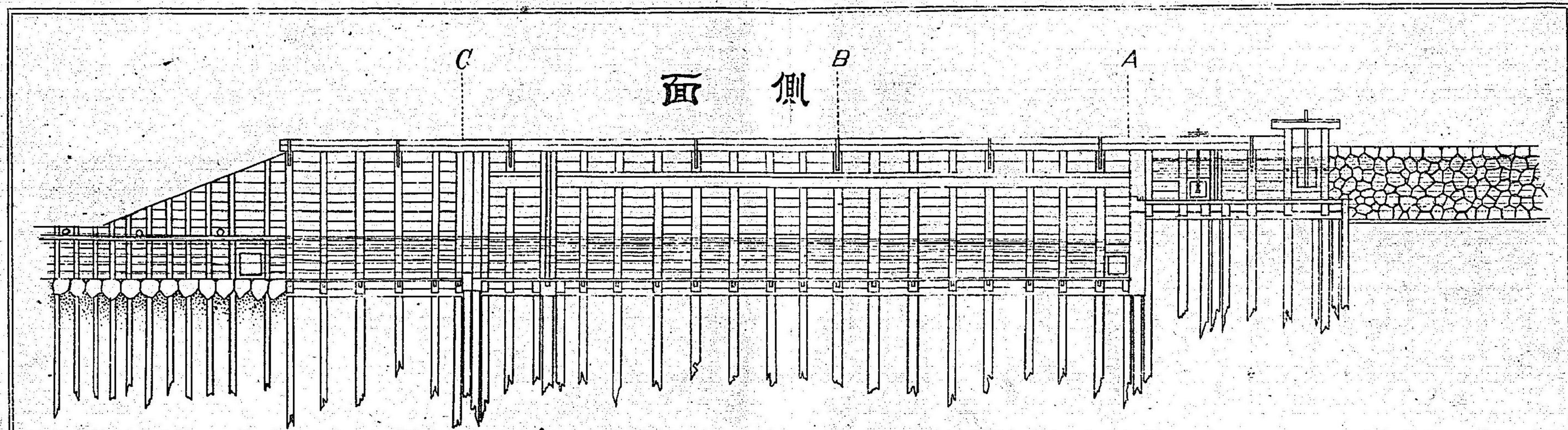
本表ハ收用地ノ代金ヲ示ス爲メ掲ケシモノサレハ此外一時使用料ヲ以テ借入タルモノ及寄附地交換地等ハ之ヲ略シ專ラ工専用ノ爲メ收用セシモノニシテレハ土捨場等ヲ如キ不用ニ屬セシモノハ漸次賣却セシヲ以テ現今ノ運河敷地總反別ハ多少減少スルニシ

土地收用費

金 參萬六千貳百四拾九圓拾六錢六厘
 合計金 參萬六千貳百四拾九圓拾六錢六厘

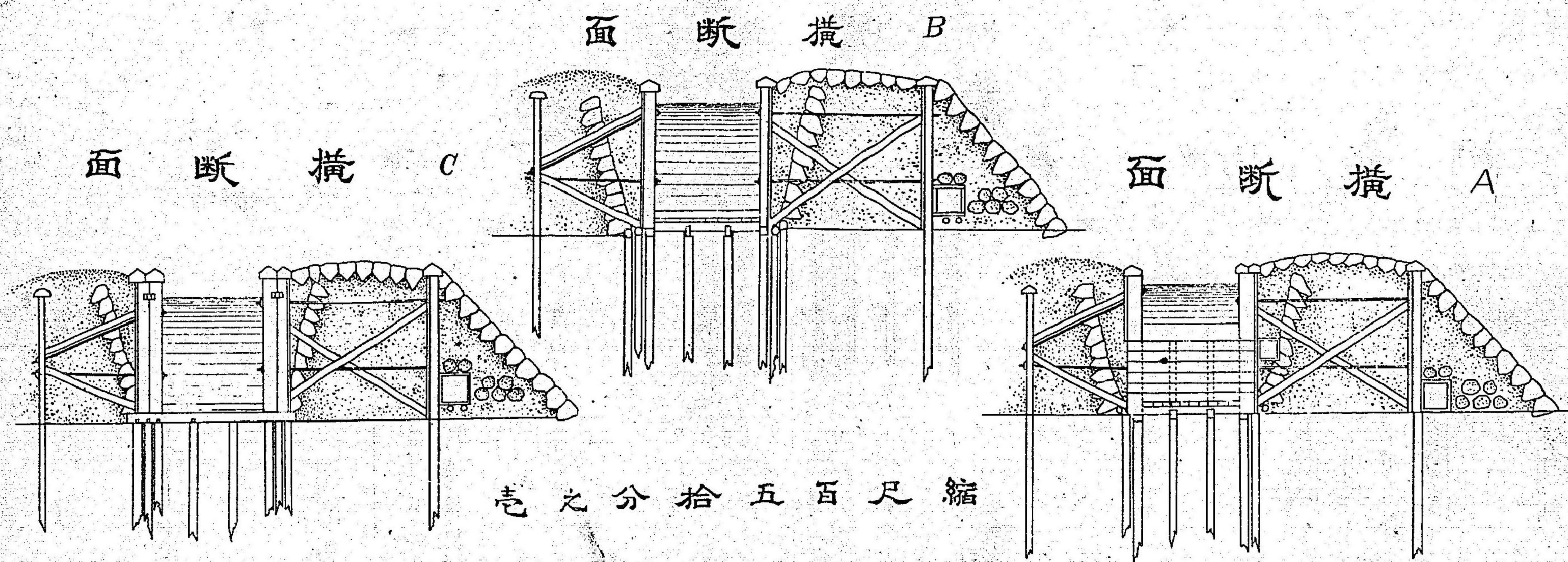
關門

關門



側面

縮尺五百拾分之壹



橫斷面 B

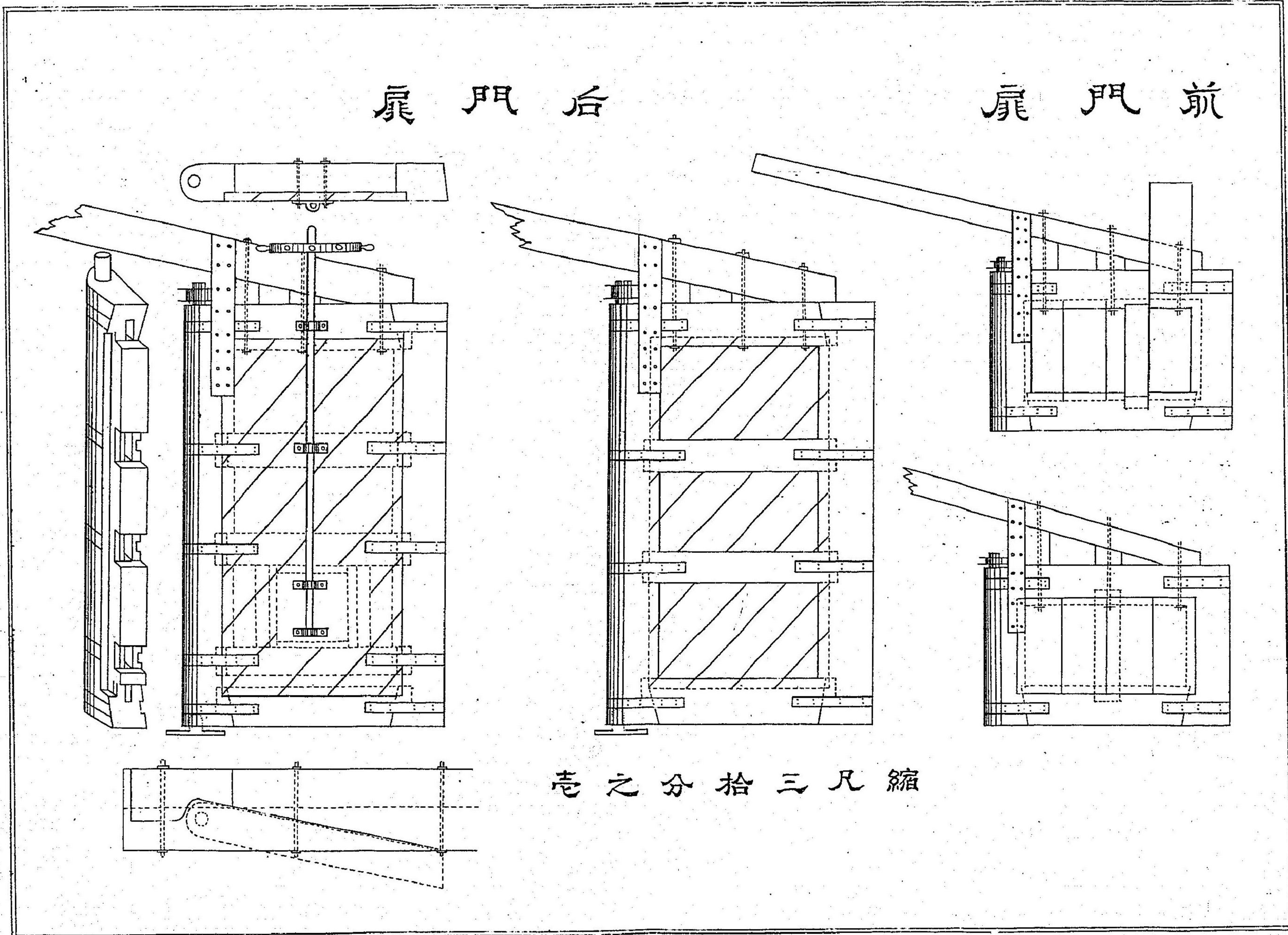
橫斷面 C

橫斷面 A

縮尺五百拾分之壹

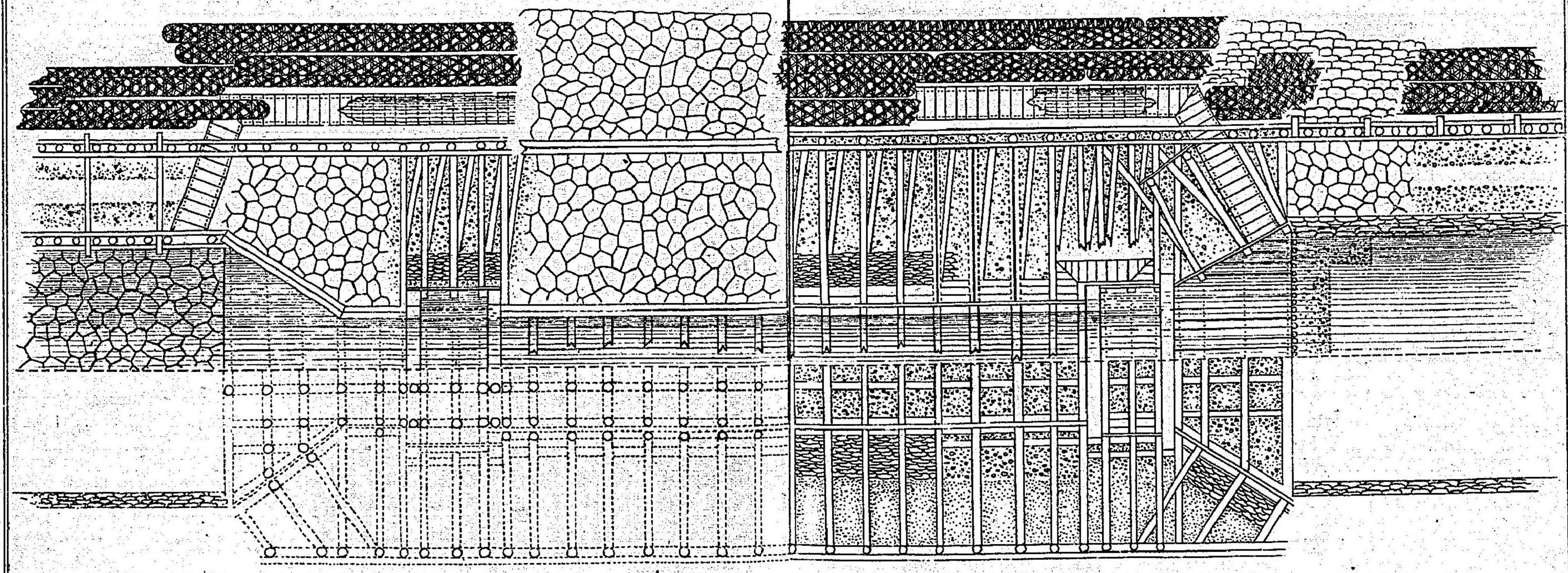
后 門 扉

前 門 扉



縮 凡 三 拾 分 之 毫

鴨川四條聞見平面



縮凡五百拾分之處

閘門ハ何レモ木製ニシテ船ヲ上下セシムルヲ目的トシ傍ラ水車ニ分水ス總計八個アリ鴨川仁王門ニ設クルモノヲ仁王門閘門ト名ク以下皆ナ之レニ做フ即チ左表ノ如シ

位	置	高	幅	閘室	分水	堰高	幅	落差	起	工	成	功
仁	王門	八尺	八尺	八尺	四尺	二尺	二尺	六尺	四尺	尺	廿五年十一月廿五日	廿六年一月二十日
孫	橋	同	同	同	三	尺	四尺	二尺	同	尺	廿六年一月十日	同 年三月十日
三	條	十尺	同	同	二	尺	五尺	二尺	六尺	尺	同 年三月十日	同 年五月十五日
四	條	同	同	同	二	尺	六尺	二尺	同	尺	同 年四月二十日	同 年七月十日
松	原	同	同	同	一	尺	六尺	二尺	同	尺	同 年六月十五日	同 年八月十日
五	條	同	同	同	二	尺	三	尺	同	尺	同 年六月五日	同 年八月十五日
正	面	尺十一	同	同	二	尺	八	尺	七	尺	同 年八月一日	同 年十月十日
七	條	二尺	同	同	二	尺	二	尺	四	尺	同 年十一月十日	二十七年二月十日

閘門工費

閘門工費

金千八百參拾貳圓四拾六錢貳厘

仁王門閘門費

疏水要誌附錄 ○閘門

二百六十三

運河

金千八百七拾九圓六拾八錢七厘
 金貳千貳百四拾四圓八拾貳錢七厘
 金貳千參百八拾四圓七拾八錢五厘
 金貳千貳百拾六圓參拾六錢壹厘
 金貳千百九拾八圓參厘
 金貳千四百九拾六圓壹錢貳厘
 金貳千百九拾八圓五拾錢六厘
 合計金壹萬七千四百五拾圓六拾四錢參厘

孫橋開門費
 三條開門費
 四條開門費
 松原開門費
 五條開門費
 正面開門費
 七條開門費

運河

本運河四千九百二十間ノ内三千八百七十間ノ掘鑿ト千五十間ノ築立トヲ以テ成
 リ其間ヲ數區ニ分テ先ツ鴨川仁王門ヨリ着手シ開門八箇所橋梁四十個所暗溝五
 個所算三個所堰留三個所傾斜鐵道一個所船溜三個所ヲ設ク堤防ハ杭ト板ヲ以テ
 シ堤防心ニハ粘土ヲ嵌藏シ漏水ヲ防キ築立ニ係ル鴨川中ノ上部ハ石ヲ張り水越
 場等ノ如キ緊要ノ部分ハ石ヲ以テ疊ム開門ハ総テ木製トス橋梁中重ナルハ伏見
 街道鎗屋町ト墨染ニ架スル橋梁ナリ暗溝寬堰留船溜等ハ多ク石垣ヲ用ヒタリ
 本工事ニ附帶シテ起工セシモノハ五條船溜ヨリ問屋町ニ通スル物貨運搬ニ係ル
 新道長間二十幅間七等ナリ今掘割築立ノ景況ヲ示セハ左ノ如シ

運河掘割 三千二十間

明治二十五年十二月十日起工同二十八年三月三十日成功

同 築立 八百五十間

明治二十五年十二月十日着手同二十八年三月三十日成功

京都伏見間水路掘割及築立表

築立	距離	掘割	距離	合計
自二零號	二十間	自一二號	百三十間	
自二五號	十間	自二三號	二十間	
自三三號	十間	自三十四號	百六十間	
自三十四號	九間	自三十八號	四十間	
自五十八號	八十間	自六十二號	百七十間	
自六十二號	三十間	自六十五號	二百五十間	
自六十五號	十間	自八十四號	二百五十間	
自八十四號	二十間	自八十九號	四百間	
自百九號	百間	自百九十九號	二百四十間	
自百九十九號	二百四十間	自百八十三號	二十間	
自百八十三號	二百四十間	自百八十五號	百間	
自百八十五號	二百四十間	自二百十六號	百間	
自二百十六號	二百四十間			

自二百十六號	四十間	自二百二十號	千四十間
自二百二十四號	四十間	自二百二十八號	六百二十間
自三百九十二號	二十間	自三百九十二號	百二十間
自四百九號	五十間	自四百九號	三百八十間
自四百四十七號	三十間	自四百四十七號	四百二十間
自四百五十七號	計	自四百五十七號	三千八百七十間
計	千五十間	計	四千九百二十間

運河工費

運河工費

金四萬千七百拾參圓拾參錢六厘
合計金四萬千七百拾參圓拾參錢六厘

傾斜鐵道

傾斜鐵道

傾斜鐵道ハ紀伊郡堀内村運河西端船溜ヨリ起リ伏見町ニ至ル延長百六十間敷地幅五間勾配十分ノ一ニシテ一ヤード四封度ノ鐵軌四條ヲ敷設ス此地盤素ト伏見桃山城ノ外濠ニシテ船溜ヲ掘鑿セシ土砂ヲ以テ築造シ上部ニ砂礫ヲ撒布ス工事ハ明治二十七年一月十日ヲ以テ漸次着手シ同二十八年三月十日全ク竣成ス

捲揚機械

捲揚機械ハ伏見町傾斜鐵道ノ西正面下ニ設置シ米國ペルトン水車ヲ運轉セシメ

以テ船匡ヲ昇降セシム此水車ヲ運轉セシムルニハ上部船溜ノ北部ヨリ内至三呎ノ鐵管延長百二十間ヲ布設シ此所ニ又管ヲ設置シ一ハ他日電氣力ヲ起スヘク一ハ捲揚機械場ニ達スルモノニシテ内至二十六呎及二十四呎ノ鐵管ヲ布設ス本工事ハ明治二十七年五月十日ヲ以テ着手シ二十八年三月十日竣成ス又此傾斜鐵道線路ハ伏見町宇鎗屋町及ヒ撞木町ヲ橫斷スルヲ以テ鎗屋町ニハ木製ノ釣橋ヲ架設ス本工事ハ明治二十七年三月二十日ヲ以テ着手シ同年六月五日竣成ス撞木町ノ木製橋ハ明治二十七年五月十日ヲ以テ着手シ同年七月二十五日竣成セリ

傾斜鐵道費

- 傾斜鐵道費
- 金千六百六拾七圓參拾五錢四厘
- 金千貳百九拾四圓八拾六錢
- 金百八拾五圓貳拾錢四厘
- 金壹萬七千參拾九圓九拾六錢八厘
- 金五千百貳拾四圓七拾四錢貳厘

- 放水場費
- 橋梁費
- 新道費
- 機械費
- 土工及石垣費

金千參百壹圓八拾參錢

ドラム工場費

合計金貳萬六千貳百拾參圓九拾五錢八厘

右傾斜鐵道ノ設計ニ對スル田邊工學博士ノ説明書ハ左ノ如シ

伏見インクライン設計説明書(圖面ハ後ニ變更モアレハス)

伏見インクライン設計ハ左ニ記載スル圖面ト伴フモノニシテ其設計ノ説明下ニ述ブル如シ

伏見インクライン設計圖

第一號 平面 尺度二百分ノ高低線記入

第二號 平面 尺度六百分ノ一

第三號 縱斷面

第四號 橫斷面

第五號 捲揚器械場

第六號 捲揚器械

第七號 水車据附

第八號 甲舟受梓

第九號 舟受梓諸部

第十號 舟受梓制動器

第十一號 諸滑車

此インクラインハ鴨川新水路筋四百四十三號四百四十四號間ニアル0號ニ始マリ四百五十八號四百六十三號間ニアル1號ニ終ル水平距離百五十三間五合ノ一直線ニシテ馬踏二十五尺上ニ軌間八呎四吋八分ノ一復線鐵軌道ヲ敷キ船梓ヲ上下セシムルコト第一號第二號圖ニ示ス如シ圖中赤色太線ハ中心線ヲ示

シ黒線ハ軌條青色線ハ曳繩青色太線ハ水管ヲ顯ハスモノナリ

上段ニハ幅十三間長三十八間略長方形ヲナス船溜アリテ通行船ノ溜ニ供シ併セテ水力ヲ使用スル分水口ヲ作ル可キ場所ニ備フ下段ハ直ニ淀川ニ連絡スル處ノ堀留ニ接続スルカ故ニ別ニ船溜ヲ設ケス唯少シク川幅ノ大ニシタインクラインニ出入スル船ノ便ニ供スルノミ

上段下段運河水面高低ノ差ハ淀川ノ水面ニ接続スル下段ノ水位ニ依テ差アリト雖モ常水ノトキニ於テハ四十九尺五寸アリ下段川底ハ常水面以下六尺明治九年九月最干水位線ヨリ下ルコト三尺ニシテ同年ノ干水位ニ際シテモ船足少ナキ船ヲ通行セシメ得ルヲ目的トス上段水深ヲ五尺トセシハ船受梓ノ形ニ準シタル故ニ運河ノ他部分ヨリ少シク深クシ上下段川底高低ノ差ハ五十尺五寸トナレリ

此線路ハ中途ニ於テ伏見街道ト撞木町通トノ二筋ヲ橫斷スルヲ以テ線路ノ地形及橫斷道路ノ都合ヲ考ヘ四百四十六號ヨリ西三間ノ點ヲ最高處ト定メ双方ハ十分一勾配ヲ以テ下ルヲ最モ適當トス然ルニ現今伏見街道地面ヲ下ル凡ソ六尺ノ處ハインクライン地盤線トナルカ故ニ路面ヲ四五尺揚ケ街道ヲ出來可キ丈ケ西へ移シ其下ニ船受梓通行ヲ自由ニセシメ爰ニ長三十餘尺ノ橋ヲ掛ケ街道ヲ通ス可シ撞木町ハ通行多カラサル處ナルカ故ニ路面ヲ適當ニ切り下ケ

インクラインノ上ニ架橋スルヲ好トス
 勾配ハ大部分ヲ十分一トナセトモ上下両端ニ近ツキ水平線ニ達スル迄ノ間ニ
 於テ水中ニアル處ハ勾配ヲ緩ニシテ二十分一トナセシハ船荷ノ都合ニヨツテ
 水ヲ掬フコトナカラシメシカ爲ナリ
 下段ノ運河ハ水深通常六尺ニシテ深キ足ノ船ニ適當トナセトモ上段ニ於テハ
 水深三尺五寸ニシテ船受棒ノ船底ヲ受ケル處ハ鐵軌條上一尺七寸五分即二十
 一時其上ニ餘ス處ノ水深ハ深キ船足ノモノニ適當セサル故ニ上段船溜ノ一部
 ナ水深五尺トナシ川底ニ二尺ノ段ヲ附ケ此深キ處ニ水平軌條及水平轆車ヲ据
 ヘ附クルモノトシ船溜ノ他ノ部分ハ水深ヲ三尺トナセリ第一號第二號圖ノ船
 溜中ニ赤線ヲ以テ示スハ此水深差アル境界ナリ第四號橫斷圖ト照セハ明ナリ
 上段船溜及下段運河ノ周圍ハ通常野面石垣控一尺五寸乃至三尺勾配四分乃至
 五分ヲ適當トス
 切り取り兩側法ハ一割五分トナセトモ地質堅牢ナルトキハ實施ニ臨ミ一割二
 分ニ變スルモ妨ナシ築立法ハ一割五分第四號橫斷圖ニ明ナリ
 運河ヲ流ル、水ハ上段船溜ニ入り其側ヨリ分水シテ水力ヲ使用セント欲スル
 モノニ分配スルモノニテ其餘水又ハ分水セサルトキニ於テハ船溜西南部ニ示
 ス水越ヨリ流過セシメインクライン南側ニアル溝ニ流入セシメ下段運河ニ入

ラシム水越ハ幅二十尺底ハ水面以下二尺トシ之ニ堰板ヲ入レテ流過水ヲ加減
 セシム其構造ハ疏水線路山科ニアルモノ又ハ若王子扇タムヨリ分水シタル水
 路ト構造ヲ同シクスルモノナルカ故ニ別ニ圖面ヲ附セスインクライン南側ノ
 溝ハ兩側煉瓦又ハ上等ナル石垣合端セメントヲ用ヒタルモノ又ハ木製ニテ造
 リ底ハ厚二寸以上ノ板ヲ敷キ幅八尺深三尺トナスコト第四號圖ノ左側ニアル
 橫斷ニ示ス如シ

インクライン上下サスル爲メニ用ユル原動器ハ疏水事務所ニテ買入タル三
 水口ベルトン水車ニテ其水管ヲ少シク變更シテ之ニ二個ノバルブヲ新調シテ
 在來ノ開閉器ヲ取除クテ適當トス第七號水車据付圖ニ示スモノ、如シ水車ノ
 位置ハ第四百五十二號ノ南ニテ水車ヲ地下深キ處ニ置クトキハ水壓多クシテ
 力ヲ増セトモ淀川洪水ノトキニ當ツテ水中ニ沈ムノ患アルカ故ニ常水以上四
 尺ヲ以テ水車据附場ノ敷トナシ其上ニ木材ヲ置キ水車ヲ据附クル故ニ水吐口
 ハ此底ヨリ三尺五寸上ニアリ即チ常水面上合計七尺五寸ノ處ヲ水吐口トシテ
 洪水ノ害ヲ受ケサラシム依テ上般船溜ト水吐口トノ高低ノ差ハ四十二尺トナ
 ルヘシ此水車ヲ運轉サスルニ必要ナル水量ハ一分間七百九十六立方尺即一秒
 間十三個三分ニ相當シ此水量ヲ通過セシムル爲メニハ直徑二十二吋水管ヲ用
 ヲ可シ水管ノ長凡ソ三百尺ニシテ摩擦ノ爲メニ失フ高低ハ一尺六寸餘ナルカ

故ニ正味ノ水壓四十尺ハベルトン水車ニ掛ル水頭ナリ捲揚器械場ハ木製家屋
間口三十尺奥行二十八尺ニシテ第五號圖右側ニ示スモノノコトシ
上段船溜ノ西南隅ヨリ幅六尺水深三尺長凡ソ十二間ノ小溝ヲ作り其端ニ幅四
尺高四尺水深三尺長凡ソ二十間ノ木製掛樋ヲ附ケ八尺角ノ水榭ニ導キ爰ニ芥
除ケ等ヲ備ヘテ内徑二十二吋ノ水管ニ水ヲ送ルコト第一號第二號圖ニ明ナリ
右水車馬力ヲ計算スルニ回轉數一分間八十二ニシテ五十馬力八分ヲ得水車ニ掛
リタル水ハ幅四尺高四尺ノ暗渠ヲ以テ捲揚器械場ノ下ヲ過キテ先ニ述ヘタル
オンクライオン南側ニアル餘水吐ニ通スルコト第一二號圖中點線ヲ以テ示スモ
ノ、如シ水管ハ内國製ナレハ厚サ十六分三吋鍊鐵板ヲ以テ二重紙アスホルト
塗ノモノヲ用ユ外國製ナレハベルトン水車會社製二十四吋及二十二吋厚十番
乃至十一番ノモノヲ用ユルヲ好トス外國製ヲ購入スルトキハ此大小兩徑ノモ
ノヲ用ユルトキハ反ツテ運賃ヲ減少スルノ利益アリ
右水車ト同軸ニ第一新齒車徑二十三吋八分ノ七ベツチ三吋四分三幅八吋齒數
二十ノモノヲ附ス第二新調齒車ハ徑六十九吋四分ノ一幅七吋半齒數五十八軸
新調徑五吋トシ第二齒車ト同軸ニ第三新調齒車ヲ附ス徑二十三吋四分三ピツ
チ五吋四分三幅十吋齒數十三トナス捲揚器械ドラムニ付スル齒車ハ徑百九吋
八分三幅九吋齒數六十ノモノヲ以テス捲揚器械ドラム徑百十吋内巾六十五吋

兩側ノ鐵輪間ニ厚五吋ノ棒四十三本ニテ繼キ曳繩ヲ卷カシム第六號圖ニ明ナ
リ其回轉數ハ一分間水車八十第一齒車八十第二齒車二十七五八第三齒車之ニ
同シク捲揚器械五九二ナリ依テドラム周圍ノ速度一秒間二呎八五トナル是レ
即チオンクライオン船受枰ノ上下スル速度ニシテ第一第二號圖ニ示ス如ク船受
枰ノ通過スル距離百三十九間ヲ四分四十七秒ニテ過キ得可ク之ニ前後ニ於テ
船ヲ枰ニ乗入レ相圖ヲナシ水車ヲ動かス等ノ時ヲ加フレハ凡ソ此オンクライ
オンヲ通過スルニ六七分間ヲ費ス可シ
船受枰ハ檣製長三十六呎幅九呎九吋船ヲ受ケ得ル底幅七呎三吋アリテ第八號
圖ニ示スモノ、如シ其重量ハ水中ニアツテ充分濕リタルモノ水上ニ出タルト
キ凡ソ一基一万五千磅之ニ五十石積船ハ風袋共二万磅ニシテ船受枰上ニ船ノ
乗リタルトキハ合計三万五千磅ノ重量アルヘシ船受枰水中ニアツテ未ダ船荷
ノ懸ラサルトキハ凡ソ七千磅ノ重量トス
原動器ノ最モ大ナル力ヲ要スル場合ハ下リ船受枰ハ最高處ニ至ラントシ上リ
船受枰ハ二十分一勾配ノ處ニ居ル場合ニシテ其軌道摩擦ハ重量一噸ニ付二十
二磅即チ百分一ト見積リ繩ノ摩擦ハ同ク五分一トシ右勾配ヲ曳上ル力及摩
擦ノ爲メニ要スル力合計シテ四千四百磅トナル之ニ附屬應力ヲ合シテ最大曳
力ヲ六千磅ト見做ス之ニ相當ス可キ繩ハ周圍三吋半ガルバナイズトクルウシ

ブルスチールワイヤロウプ切斷張力三十二噸以上アルモノヲ用ユ可シ然ルト
 キハ曳繩ハ安全率十二ニ相當ス右ハ少シク安全ニ失スルヤノ患アレトモ屢々
 繩ヲ變更スルコト困難ナル可キカ故ニ少シク摩滅シタル後ニ於テモ尙相當ノ
 力アルヲ目的トセシナリ

右張力アル曳繩ヲ一秒時間二呎八五ノ速度ヲ以テ曳揚クル爲メニ要スル力ハ
 必要ナル最大馬力ニシテ即三十一馬力トナル他ノ場合ニ於テハ或ハ一ノ船受
 棒十分一勾配ヲ上ルトキ又ハ一ハ上リ一ハ下リニアルカ故ニ所用ノ馬力大ニ
 減少スルモノナリ

水車馬力ハ五十馬力八分ニシテ之ヨリ二組ノ齒車ヲ以テ捲揚器械ヲ運轉サス
 ルカ故ニ其摩擦ノ爲メニ費ス處ヲ減シテ正味馬力ヲ計算スルニ凡ソ八割五分
 ニ相當シテ四十三馬力ヲ得

右必要馬力ニ比例シテ十二馬力ヲ餘スモノハ制定シタル重量ヨリ大ナルモノ
 ナ載セ來リタル船或ハ此速力ヲ増シテ水車ヲ運轉サセ速ニ船ノ上下ヲナサシ
 メント欲スルモ爲シ得可キ爲メノ餘裕トシテ存シタルモノナリ器械ノ諸部ハ
 五十馬力相當ノ強サアラシムルノ計畫ナリ

船受棒ハ重量船共凡三萬五千磅ニシテ徑二呎六吋ノ車輪四個ノ上ニアルカ故
 ニ車輪一個ハ凡八千七百餘磅ノ重量ヲ傳ブルモノトス車輪ハチルドヲ用ユ可

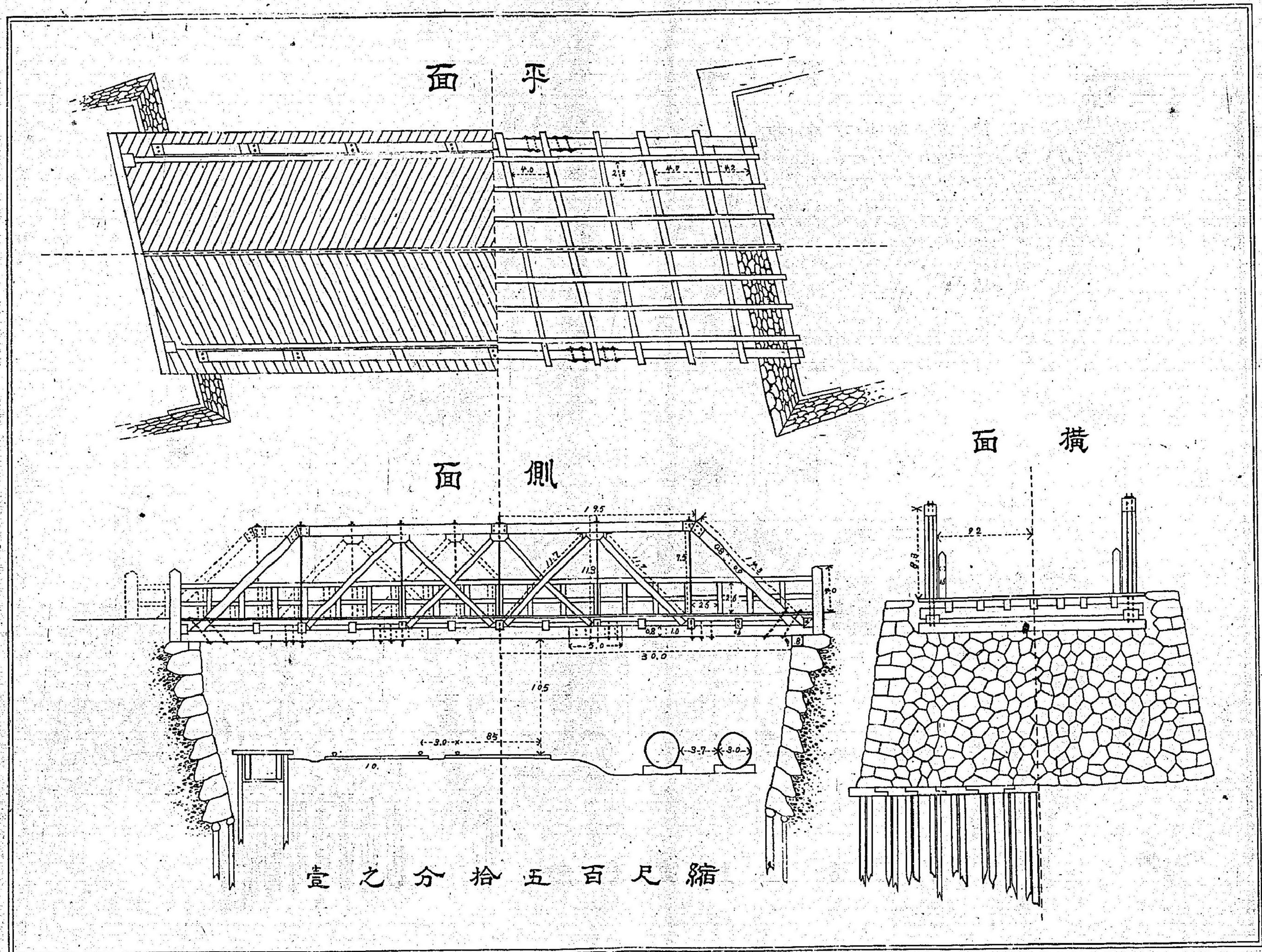
シ右ヲ支フルニハ沈木幅九吋高五吋ノモノ距離凡ソ三吋ニ置キタルモノニ四
 十磅鋼軌條ヲ用ユルヲ適當トス第九號圖ニ示スモノ、如シ

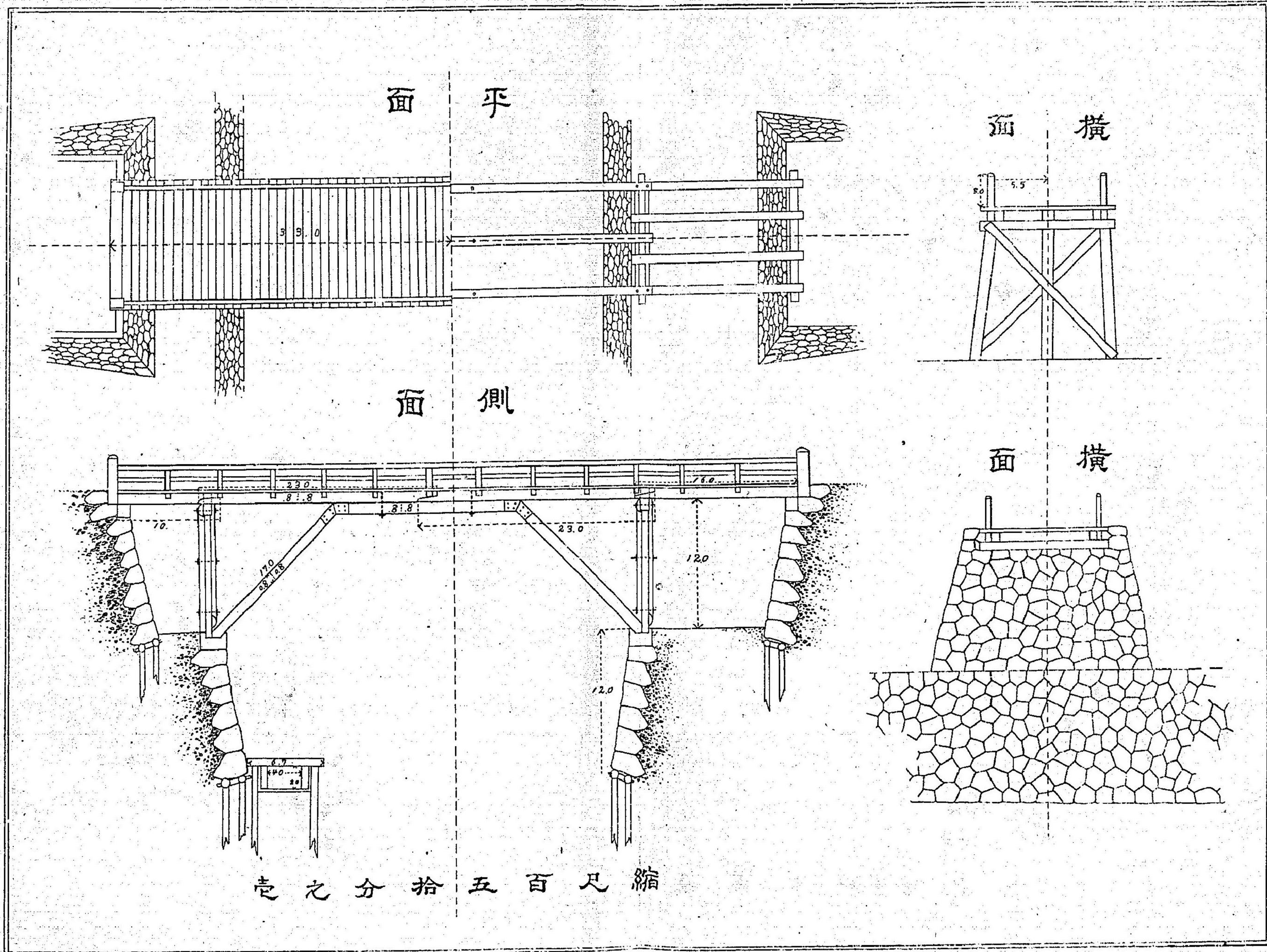
船受棒ニ左右制動器ヲ附シ異變アリシトキニ臨ミ二人之ヲ抑ユルモノナレト
 モ其内一個丈ケ働クトキハ棒ノ軌條外ニ外ル、患アルヲ以テ兩個ヲ接續スル
 ニ徑二吋半ノ鍊鐵シヤフトヲ以テシ一人ニテモ差支ナク使用シ得ルコト、ヒ
 リ制動器ノ鐵軌條ノ頭部ヲ摺ムコト第八號及第十號ニ示スモノ、如シ

第十一號圖ニ示ス諸轉車ハ大一個ヲ下段水中ニ用ヒ中三個(内一個ハ水利事務所
 ニアルモノヲ用ユ)ヲ上
 段水中ニ用ヒ小ハ合計五十個ニシテ距離八間乃至十間ニ一個ツ、曳繩受ニ用
 ユインクライン最高處ニ用ユルモノ二個及戻繩最高處ニ用ユルモノ二個ハチ
 ルト轉車ヲ用ユ可シ

船除ケノ柵ハ五寸角以上ノモノニテ作り其形ハ牙形ニテ水面上ニ出ルコト一
 尺乃至一尺五寸トナス疏水線路蹴上インクラインニ用ユルモノト同一ナルカ
 故ニ圖ヲ附セス第一第二號圖ニ平面ノ位置ヲ示スモノニテ足レリトス

此インクラインハ明治二十三年ノ概測ニ比スレハ堀留ニアリシ間門ヲ除キイ
 ンクラインヲ長クスルヲ利益ナリト爲スカ故ニ變更ヲ施シ又道路橫斷ハ勾配
 ノ都合宜シキヲ得タル爲メニ家屋軒ヲ移轉スルニ及ハサリシ故ニ費用ヲ減少
 セリ然レトモインクラインヲ延長セシ爲メニ軌條曳繩切取等ノ費用ヲ増加セ





同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	深 草	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
町 通	綿 森 町 通	綿 森	寶 塔 寺	メ ナ サ 煤 掃	煤 掃 御 前	稻 荷 川 坪	一 ノ 下 坪	一 ノ 上 坪	下 坪	上 坪	四 坪	相 坪	相 坪	同 坪
						稻 荷								
同	同	同	同	同	木	土	同	同	同	同	同	木	同	同
同	同	同	同	四 尺	二 十 四 尺	三 十 九 尺	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	四 尺	九 尺	四 尺	九 尺	十 四 尺	同	同	同	四 尺	六 尺	九 尺	同	同

稻荷同上費
伏見同上費

放水場及水越場

金千五百六拾貳圓拾五錢
金貳千參百參拾參圓參拾參錢九厘
合計金五千七百貳圓九拾錢四厘
放水場及水越場
放水場ハ河線修繕ノ豫備ト臨時水量ヲ整フル爲メ流水ヲ線路外ニ放流セシムル爲メニ之ヲ設ク又水越場ハ運河線路中霖雨ノ爲メ一時増水シテ一定ノ水量常水點ヨリ上騰スルトキ自然之ヲ減殺セシムル爲メニ設置セリ

放水場

位置	幅	長	起工	落成
七條下ル	五尺	五間	明治廿七年四月十日	明治廿七年五月廿日
一ノ橋下ル	同	三間	六月十日	七月十日
三ノ橋	同	十間	十月十日	十一月十五日
七瀬川	八尺	十八間	十一月十五日	十二月二十日

水越場

位置	幅	長	起工	落成
仁王門	五尺	十間	明治廿六年一月十日	明治廿六年二月十三日
孫橋	同	同	二月十日	三月十日
三條	同	同	三月十五日	四月二十日
四條	同	同	三月十五日	四月二十日
松原	同	同	六月十日	七月十五日
五條	同	同	十月十日	十二月十五日
正面	同	同	三月十日	五月十五日
七條	同	同	四月十五日	五月二十日

放水場及水越場費

放水場及水越場費
金千九百八拾五圓四拾貳錢壹厘
金千六百圓

放水場費
水越場費

合計金參千五百八拾五圓四拾貳錢壹厘

暗溝

運河線ニ係ル從前ノ小溪又ハ川流下水道ハ暗溝ヲ構造シ本線水路ノ下ニ潛流セシム

疏水要諦附録

○放水場及水越場

○暗溝

箇	所	構	造	高	幅	長
孫	橋	木		三	八	三
團	栗	窠		同	十	十
音	羽	川		三	尺六寸	十
一	ノ	橋	上	三	尺	十
同			手	四	尺二寸	十
二	ノ	橋	石	三	尺	十
三	ノ	橋	木	四	尺	十
七	瀬	川	窠	三	尺六寸	九

暗溝費

金千七百拾參圓九錢六厘

合計金千七百拾參圓九錢六厘

雜給及雜費

一金貳千四拾九圓九拾五錢七厘

一金貳千參拾圓拾貳錢

旅 雇 費 給

疏通式

一金四百貳拾壹圓五拾錢
 一金參千貳百貳拾八圓八拾壹錢九厘
 合計金七千七百參拾圓參拾九錢六厘
 總計金拾四萬八千貳百七圓拾七錢四厘
 疏水工費通計
 通計金百四拾萬七百八拾六圓貳拾錢六厘

疏通式

明治二十七年九月二十五日ヲ以テ疏通式ヲ舉行セリ今其大畧ヲ左ニ掲載ス
 是ヨリ先キ市參事會ニ於テハ北海道廳大阪府滋賀縣等ノ高等官及其他ノ關係者へ臨席招待狀ヲ發シ又問屋町五條下ル所ニ假事務所ヲ設ケ水路事務所員并ニ臨時土木委員茲ニ出張シ諸般ノ事務ヲ辦理セリ
 當日午前市參事會中井府知事ハ疏通式ヲ舉行セシ爲メ一坂書記官及甲斐參事官ヲ伴ヒ伏見鐘屋町ニ新設セル水路事務所出張所ニ至リ來賓ヲ待受ケ午後一時イソクライオン上船溜ヨリ乘船シ各船客ノ先導ヲナシ鴨川五條ノ船溜ニ上陸シ同四時三十分豫テ設ケノ式場ニ着席ス此時樂隊樂ヲ奏ス各座定テ樂隊樂ヲ撤スルヤ川原ニ裝置スル所ノ爆發聲中ニ三原技手ハ長官ノ前ニ進ミ左ノ工事成蹟ヲ報告ス

慰 勞 費

茲ニ明治二十七年九月二十五日京都伏見間新運河開穿通水ノ式ヲ舉テラル不
 尙範治技手ノ職ニ在リ專ラ此事ニ與リシヲ以テ今其梗概ヲ陳センニ抑モ此新
 運河タル東琵琶湖ヨリ西鴨川ニ通スル本線ニ繼續シ去ル明治二十五年十一月
 工ヲ起シ之ヲ六區トナシ其第一區ハ鴨川本線落合以南七條迄鴨川中ヲ區劃シ
 閘門八箇所ヲ設ク其第二區七條以南鐵道橋迄第三區鐵道橋以南三ノ橋迄第四
 區三ノ橋以南伏見インクライン迄伏見街道ニ接近シ川路ヲ設ク其第五區ハ伏
 見インクライン第六區ハ伏見掘詰ニ連ル線路以上延長四千九百二十間ニテ起
 工ヨリ今日ニ經ル一箇年十箇月ナリ使用セシ物料等其細目區別ニ至リテハ別
 ニ要誌印刷ノ期ニ讓リ始ク工事ノ大要ヲ撮シ謹テ申告ス

技手 三原範治

工事成績

起工ヨリ今日ニ至ル操業日數 一年 十 箇 月
 線路長 四千九百二十間
 インクライン一箇所長 百 六 十 間
 堀割土積 二萬四千九百六十四坪
 築立土積 一萬千五百十五坪
 閘門 八 箇 所

暗溝	五 箇 所
算梁	三 箇 所
橋梁	四 十 箇 所
堰留	三 箇 所
使用物料	
職工	一萬二千四百八十三人
人夫	十一萬五千七百八十九人
木材	十四萬四千五百四十本
割石	四千七百十八坪
切石	二百五 十 切
鐵管	九 十 本
煉瓦	八萬三千六百枚
セメント	五 百 一 樽
石灰	六百二十二俵
收用土地	十五町八畝廿五步五合四勺
收用建家	三 十 三 軒

次ニ中井府知事ハ左ノ式辭ヲ朗讀ス

京都市新運河功竣ルヲ告グ茲ニ本日ヲ以テ通水ノ式ヲ舉グ曩ニ我カ京都市ハ琵琶湖ヨリ鴨川ニ達スル東西疏水ノ一大事業ヲ計畫シ其効成ルト共ニ續テ又鴨川以南新運河ヲ開鑿セント欲シ設計最モ審詳改作數次其間種々ノ困難ヲ免レスト雖モ益々當初ノ企圖ヲ忘ラス明治二十五年十一月再ヒ工ヲ起シ協心戮力爾後僅々二十有餘月ニシテ北鴨川ヨリ南伏見ニ至ル延長四千九百二十餘間ノ運河ヲ新開シ以テ淀川ニ通ス是ニ於テ乎絶大ノ二工東南相聯絡シ始テ疏水ノ全効ヲ收ムルヲ得タリ是レ本市カ多年百折ノ難ヲ排シ鉅萬ノ資ヲ惜マズ其公共ノ事業ニ盡ス所ノ厚クシテ土地ノ爲ニ慮ルノ深キニアラサレハ焉ソ能ク此ニ至ラン洵ニ嘉賞ニ堪ヘサルナリ委員前後諸子ノ勤勞亦偉ナリト云ヘシ而シテ本日工既ニ成ル將來船楫ノ便電力ノ用其水利ニ藉テ以テ富源ヲ開クモノ一ニシテ足ラス本市ノ益々繁盛ヲ來スヤ復タ疑ヲ容レヌ唯其運用方法ノ如何ハ漸ク將ニ之ヲ謀ル所アラントス

明治二十七年九月二十五日

京都府知事從三位勳三等中井弘

次ニ北垣北海道廳長官ハ左ノ祝詞ヲ朗讀ス

疏水ノ用タル利害得失ノ關スル所口甚廣シ其小ナルモノハ即チ人々生産ノ末ヨリシテ大ナルモノハ以テ國家經濟ノ本ニ至ルマテ皆ナ焉ニ由リテ以テ功ヲ

成サ、ルモノナシ其利害得失ノ判ル、所口唯運轉利用ノ如何ニアリ

京都市ノ地形タル萬變連轡街衢井然四方ノ往來一ツトシテ不便アル莫シ憾ム所ノモノハ船舶ノ運輸ヲ缺クノ一事是レナリ故ニ從來物産ノ貿易關西商賈ノ中心タル浪華ノ如キモ北方ノ運輸ハ大概迂回シテ海路ヲ馬關ニ取リ漸ク其交通ヲ得タリ京都ノ如キハ大小運輸唯ニ陸路鐵道ノ力ヲ賴ムノ一方アルノミ豈ニ國家經濟ノ一大缺點ニアラサランヤ吾カ親友ナル京都全市諸君深ク之ヲ憂ヒ曩キニ琵琶湖疏水ノ一大工事ヲ起シテ之レヲ鴨川ニ通ス工竣リテ聖上親シク其式ニ臨マセラレ辱ク勅語ヲ賜テ以テ將來京都市美術工藝ノ精良ヲ期セシメ至ヘリ全市ノ人々大ニ感奮シテ爰ニ明治二十五年十一月又疏水ノ功ヲ繼キ地勢ヲ量リ水理ヲ考ヘ川ヲ界シ居ヲ移シ以テ通船ノ路ヲ設ケ北鴨川ニ並ヒ南桃山ニ沿ヒ透遶トシテ漢川ニ至ル是歲九月功ヲ奏ス是ニ於テ始メテ船舶運輸ノ便ヲ得タリ昔者北海物産ヲ浪華ニ致サント欲スルモノ數十日ヲ費サ、ルヲ得ス今ヨリ以後ハ物産ヲ齎ラスモノ越ヨリ鐵道江ニ入り湖ヲ航シ京ニ浮ヒ漢川ヲ下リ即チ浪華ニ達ス水陸數日ノ行程ヲ經ルノミ蓋シ復タ迂回馬關ニ向フモノ莫シ此ニ至リテ船舶鐵道水陸對峙以テ兩全無窮ノ便利ヲ致セリ且ツ沿河市街村落ノ水利ニ由ラント欲スルモノ引テ以テ田ニ溉ク可ク激シテ

以テ米ヲ舂ツク可ク發シテ電光トナリ又々流カトナリ其運轉利用實ニ得テ測ルヘカヲサルモノアリ京都市皆ナ之レヲ利用セントス是レ誠ニ國家ノ一大富源ヲ興ス者ト謂ハサル可ケンヤ惟フニ吾親友ナル京都全市諸君已テニ鉅萬ノ資財ヲ惜マラス克ク歲月ノ力ヲ盡シ以テ國家經濟ノ本源ヲ培養シ又益々之レヲ擴張シテ永遠全市ノ殷富ヲ圖リ以テ聖旨ニ酬ヒ奉ラント欲ス能ク其利用方法ヲ得タリト謂フヘシ將來ノ昌盛倭指シテ俟ツ可キナリ國道嘗テ此事業ニ關スルアルヲ以テ特ニ招レテ本式ノ席末ニ列スルノ榮ヲ辱フス何ノ幸ヒカ之レニ加ヘン因テ聊カ燕辭ヲ陳ヘテ以テ之レヲ祝スト云

明治二十七年九月二十五日

從三位勳三等北垣國道敬白

次ニ雨森市會議長ハ左ノ祝辭ヲ朗讀ス

運輸ノ便ヲ開クハ殖産ノ基ニシテ水利ノ用ヲ擴ムルハ興業ノ源ナリ前ニ我京都市カ琵琶湖疏水ノ工ヲ起セシヤ其事業タル北垣前知事ノ赴任以來創設計畫スル所ニ係リ其目的ハ大津伏見間ニ新運河ヲ開キ物貨運輸ノ便ヲ増シ此間ニ於テ水力ヲ利用シ製造機關ノ需ニ供シ以テ殖産興業ノ基源トナスニ在リ其事ハ明治十八年ニ始メ二十三年ニ至リテ大津京都間ヲ竣功シ一段落ヲ告ケ京都伏見間ノ運河ニ至リ議分レテ輒テ定マラス翌年ニ及ヒ愈々新運河起工スル

ニ決シ爾來着々工程ヲ進メ本日ヲ以テ其竣リヲ告ケタリ是ニ於テ乎疏水工事ノ首尾全キヲ得テ其目的亦始メテ達スルヲ得ヘシ蓋シ水利ノ用ハ運輸ノ便ト相竣テ擴張スヘキニヨリ大津伏見間ノ運河全通シ琵琶湖ト濱華江ノ交通自由ナレハ將ニ水力ノ需要續々登出シ運河ノ通船頗々幅曠シ疏水ノ効大ニ舉ルヤ必然ナラントス是レ豈ニ京都市ノ爲メニ亦國家ノ爲メニ賀セサルヘケンヤ則チ此工事ヲ起シ若クハ之ヲ繼キ其局ニ當リタル京都府知事以下諸吏及ヒ市ノ名譽職員ニ向テ深ク其勤勞ヲ謝セサルヘカラサルナリ茲ニ運河竣功ノ式ニ際シ一言ヲ述ヘテ祝詞トス

明治二十七年九月二十五日

京都市會議長雨森菊太郎

次ニ中村府會議長ハ左ノ祝辭ヲ朗讀ス

京都ノ繁榮ヲ建ルノ策ハ交通ノ便ヲ推開スルニ在ル事歲ヲ追テ急要ヲ告グルモノアリ曩ニハ前古無比ノ大土功ヲ琵琶湖ノ疏水ニ竣成シ今ヤ復之ニ聯帶セラル鴨東運河ノ工事ヲ落成シ本日吉辰疏通ノ典式ヲ行ハル願ミレハ市民諸君ハ幾多ノ障礙群議ヲ排シ多年熱心汗血ヲ注キ當初ノ經畫ヲ達實シ以テ爰ニ一大專業ノ終始ヲ完成セラレタルハ其等ノ深ク稱賛措ク能ハサル所ナリ抑モ京都ハ工業ヲ以テ世ニ冠絶スル地ニシテ即今物貨日ニ月ニ增長シ運輸ノ通路ヲ要スルモノ一ニシテ足ラズ且夫レ明年ハ内國勸業博覽會ノ開設アリテ

百貨輻輳スルニ際シ此新運河ノ土工ヲ大成シタルハ則チ事業時運ト適中シ遠
 シ大阪以西ノ海港ヨリ琵琶湖畔ニ到ル迄船楫相脚ミ船楫相通スルモノニシテ
 其利便亦更ニ鴻大ナリト云フヘシ況ンヤ水力ヲ工業機械ノ運轉ニ利用シ或ハ
 城南萬石ノ田畝ヲ灌溉シ其光澤ノ及フ所口極メテ雄大永久ナルニ於テチヤ某
 等本日此盛式ニ與リ市民諸君カ船楫灌田水力應用ノコトヲ併セテ京都隆昌ノ
 基源ヲ推開セラレタルヲ歡喜シ聊カ鄙辭ヲ陳シテ慶賀ノ意ヲ表ス

明治二十七年九月二十五日

京都府會議長中村榮助

次ニ濱岡商業會議所會頭ハ左ノ祝辭ヲ朗讀ス

琵琶湖疏水ノ業タル前ニ府知事北垣國道君ノ主唱計畫ニ由リ京都市民ノ協誠
 起工ニ成ルモノニシテ實ニ京都今代ノ大事業ナリ然リ而シテ其目的一ナラス
 曰ク物貨ノ運送曰ク水力ノ利用曰ク耕田ノ灌水曰ク火防ノ用水等ハ其著ルシ
 キモノナリ就中水力ノ發電ハ本邦唯一ノ新事業ニシテ電氣燈其他諸種ノ工業
 ニ適用シテ最モ効益アリ亦電氣鐵道ニ使用スルモ將ニ近キニアラントス且夫
 レ疏水沿岸附近ノ地ハ道路開ケ人家増シ其粟田南禪寺岡崎ニ至ル一面ノ地ハ
 規模闊豁ニシテ空氣清ク水中遊船ノ泛ヘルア端艇ノ走ルアリ水力發電場イ
 ンクライン設置ノ所ハ新奇ノ名所ト爲リ加フルニ東山ノ風光相照應シ以テ一
 勝區ヲナシヌレハ茲ニ來遊スルモノ頗ル多ク爲ニ間接ニ京都ヲ利スルヤ亦少

ナカラサルナリ況ンヤ明年奠都祭祀紀念殿并ニ勸業博覽會場ノ完成ナルニ於テ
 チヤ

然リ而シテ疏水運河ノ業ニ至テハ未タ全カラサリシカ中井府知事市會ノ決議
 ニ依リ其餘業ヲ修メ今ヤ運河ハ京都ヨリ伏見ニ達スルノ工事ヲ竣ヘ疏通ノ式
 チ舉ケラル是ニ於テカ疏水ノ業全ク成功セリト謂フヘク自今京都ヲ中心トシ
 伏見大津ニ至ルノ間ハ益々好況ヲ呈スヘシ豈大ニ之ヲ賀セサルヘケンヤ而シ
 テ吾人商工業者ノ任務如何ト云ヘ他ナシ疏水ノ利益ヲ舉グルニアリ故ニ運
 河水力ノ利用ハ言チ俟タズ殊ニ發電機使用ノ業ニ至テハ最モ注意ヲ加ヘ適當
 ノ工業ヲ起サ、ルヘカラサルナリ不肖光哲復タ茲ニ意ヲ用ヒ力ヲ盡サンコト
 チ期ス本日疏通式ニ參列ズルノ光榮ヲ得聊カ蕪辭ヲ述ヘテ祝詞ニ代フ

明治二十七年九月二十五日

京都商業會議所會頭濱岡光哲

次ニ下間水利分掌參事會員ハ左之祝辭ヲ朗讀ス

京都伏見間新運河工事竣ルヲ奏シ茲ニ疏通ノ典ヲ行フ回顧スレハ此工事ヲ起
 スノ際ニ當ツテヤ進路輻輳種々妨遮アリト雖克ク百難ヲ排除シテ雄偉ノ圖ヲ
 立テ萬年ノ長計ヲ畫ス而シテ經營其宜シキニ適ヒ竣功其期ヲ愆ラス遂ニ今日
 アルヲ致セシモノハ偏ニ當路其人ヲ得タルト擔任諸君奮勵ノ力トニ頼ラヌン
 ハアラヌ

今ヤ新舊疏水運河首尾貫通南海ハ北海ト水運ノ捷路殆ント相聯絡シ船楫ノ利漕運ノ便初メテ全キヲ得タリ而シテ此河水ハ資ヲ以テ更ニ四百馬力ノ電力ヲ發セシムルコトヲ得可シ蓋シ空前ノ偉業ニシテ千古ノ美觀ナリ自今斯ノ水運ニ依テ物産輻輳百貨集散頓ニ殷賑ヲ來シ且斯ノ電力ニ藉テ諸般工業振作勃興シ倍々隆盛ヲ視ルハ應ニ數年ヲ出テサル可シ豈祝セサルヲ得ンヤ不肖水利分掌ノ任ニ膺リ此盛事ニ遭遇ス何ノ歡カ之ニ如ン庶幾クハ幸ニ市民諸君ノ贊助ニ賴リ速ニ之カ利用ノ實ヲ舉ケ新舊運河首尾相待テ本市ノ一大富源ヲラシメシコトヲ期シ併セテ其富源ノ萬世無窮ナルヲ祝ス

京都市水利分掌

明治二十七年九月二十五日

市參事會員下間庄右衛門

次ハ北海道廳技師島田道生ノ祝電其他屬北川忠重履飯野元秀同德田菊松同松本常人疏水通船合資會社業務擔當社員吉田願一郎ノ祝辭アリ終ニ穴戸臨時土木委員長ハ左ノ答辭ヲ朗讀ス

答辭

謹テ來賓諸君ニ謝シ併テ高諭ノ諸君ニ答ヘントス諸君ノ高諭其旨ヤ切ナリ荷モ身ヲ市籍ニ揭ケ特ニ公共ノ職ニ任シ責ヲ負フモノ其心ナクシテ可ナラン乎庚寅ノ

勅諭

誰レカ銘セサルモノアラン思フテ茲ニ至レハ本市ノ殷振期シテ待ツヘキナリ一言以テ答辭ト爲ス

明治二十七年九月二十五日

臨事土木委員長穴戸龜三郎

右ニテ式全ク畢ル此間樂隊時々音樂ヲ吹奏ス
當日市參事會ヨリ本府出張吏員并ニ水路事務所雇員ニ勉勵慰勞トシテ金圓各差アリ贈與ス其人各名左ノ如シ

- 三原 範治 森田 玲彦 細田 信道 北川 忠重
- 古畑 重三郎 若松 雅太郎 内藤 朝義
- 林 兼 常 矢部 爲之 飯野 元秀 德田 菊松
- 大石 貞固 高田 辰吉 土岐 七郎 小川 惣兵衛
- 上田 音吉 岡田 政次郎

落成宴會

同日午後五時落成祝賀ノ爲メ鴨川五條船溜ノ傍テ荷揚場北手ニ於テ宴會ヲ開ク當日招待セシ賓客ハ左ノ如シ

- 廳府縣長官知事 四 人 宮内省奏任官 二 人 同上奏任官 十三人
- 博 士 一 人 第四師團武官 二 人 裁判所長 一人

檢事	正一人	貴族院議員	十三人	郵便電信局長	一人
衆議院議員	五人	府會副議長	一人	郡部會正副議長	二人
常置委員	七人	市部府會議員	廿六人	市會議員	四十一人
市參事會員	二人	郡區書記	長五人	區長	二人
縣屬	一人	郡區書記	三人	村長	五人
町長	二人	商業會議所員	廿二人	教育委員	一人
諸學校病院長	九人	警察官	十人	內務部各課長	四人
紀念祭委員	三人	臨時勸業委員	一人	臨時衛生委員	五十七人
新聞社員	三人	市事務掛	二十人	府屬	四人
蓋獄署	一人	水利事務所員	九人	水路事務所員	十人
舊書記官	一人	舊參事官	一人	舊運河關係者	十九人
水力使用者	九人	遊船使用者	七人	電力使用者	十一人
電力申込者	十人	水力申込者	四人	運輸船營業人	廿六人
捕魚營業人	七人	水利委員	十五人	技手	四人
寄附者	廿一人	請負者	廿四人	參事會雇	一人

計四百五十四人

會主	府知事	二人
管待	市會議長	一人
	市參事會員	九人
	市會議員	四十一人
	水路事務所員	十人

會場ハ鴨川五條以南船溜ノ傍ヲ荷揚場ニ設ク此日伏見ニ於ケル概況ヲ記サンニ
 午後一時インクライン上船溜ノ邊ニ於テハ同地人ノ寄附ニ係ル休憩所ノ十間假屋
 ナ設ケ大線門ヨリ來賓ヲ入レ球燈ヲ縱横ニ吊ルシ祇園囃アリ手踊アリ煙火ハ晝
 夜間斷ナク打揚ケ三十餘艘ノ遊船ニハ日本軍艦中名譽アル艦名ヲ記セル旗ヲ掲
 ケ隨意來賓ニ乗船セシメテ北行セリ又稻荷船溜ニハ豫テ犒軍船ニ摸擬スル一艘
 ナ泛ヘ瓶酒ト申着ヲ供シ三ノ橋附近ニハ野營ヲ設ケテ喫茶ヲ進ム鴨川正面會場
 ノ入口ナル音羽川邊ニ杉葉ヲ以テ大冠木門ヲ造リ内ニ入レハ左側ニ受付所ノ設
 ケアリテ來會者ノ招狀ヲ受ケ之ニ代フルニ繡襪造菊花ヲ以テシ京都伏見間新運
 河縮寫圖及宴會券ヲ交付シテ隨意ニ設ケノ休息所ニ着カシム東側問屋町裏ハ悉
 ク段幕ヲ以テ圍ヒ寄附ニ係ル無數ノ球燈ハ縱横ニ吊シ其間ニ國旗ヲ交ニ式場ハ
 中央河岸ノ地ヲトシテ一半ヲ水中ニ架シタル六角形^{十六坪}ノ假屋ヲ設ケ屋上ニハ高

ノ本市ノ徽章ヲ捕ミ國旗ヲ交又シ簷端周圍ニハ紫縮緬御紋附ノ幕ヲ繞ラシ内部ノ式段ニハ一面ニ白砂ヲ散布シ各柱ハ杉葉ヲ以テ之ヲ捲キ中央ニ卓子ヲ備ヘ花瓶ニハ秋草ヲ捕メリ食堂三十四間ハ式場ノ北ニ假屋ヲ設ケ入口ニハ菊花ヲ以テ造レル宴席ノ二文字ヲ現ハセル額ヲ掲ケ周圍ニ幕ヲ繞ラシ簷端ニハ球燈ヲ列テ内部ニハ中央三箇所ニ大花瓶ヲ造リ種々ノ花卉ヲ挿ミ各柱ニハ杉葉ヲ以テ捲キ食卓ニハ白布ヲ敷キ酒饌ヲ排列ス來賓ノ餘興ヲ添フル爲メ陸上ニハ軍樂隊ノ奏樂アリ運河ニハ船ニ掉ス賓客アリ夜ニ入り紅燈ニ火ヲ點ス燈影水ニ映シテ水鄰々々リ此盛況ヲ參觀スル人民ハ五條正面兩橋及川原ニ群集セリ

右疏通式ニ付餘興ヲ寄附セシハ紀伊郡伏見町西島龜右衛門同龜次郎上田徳兵衛杉山儀助清水半四郎木村清兵衛佐々木徳次郎岡本捨次郎松井利兵衛及同郡深草村木村清次郎寺田七郎兵衛河合平三郎林幸次郎並ニ石田半三郎同岩吉三輪卯助櫻井五兵衛河合岩吉織田長右衛門片岡政次郎杉本傳次郎杉本伊之助大西己之介大西音五郎佐々木卯三郎等ナレハ同年十月十八日夫々市參事會ヨリ謝狀ヲ送り又同年十二月二十二日水利事務所技手ニシテ本工事ニ勉勵セシ竹内忠三及ヒ二十八日二月二十八日日本府吏員ニシテ會計事務ニ勉勵セシ久藤爲本木寺近信西村辰夫及疏水要誌附録編纂ニ勉勵セシ木村與三郎等ニ慰勞トシテ金圓各差アリヲ贈與セリ

附記
水路事務所員

附記

水路事務所員

明治二十三年十二月鴨川新運河事業ノ計畫成ルヲ以テ該工費負擔方チ市會ニ附議セシ以來同二十八年三月三十一日工事完了ニ至ル迄本事業ニ從事セシ人員ヲ掲ク

拜命年月	擔當事務	被免及轉任年月	奉職年月	姓
廿三年一月十八日	委員	廿三年八月二十日	八ヶ月	田邊 朔郎
廿三年一月十八日	同	同	同	測量師 島田 道生
廿三年一月十八日	同	同	同	屬 貞廣 太郎
廿三年一月十八日	委員事務	廿三年八月二十日	一年二ヶ月	同 多田 郁夫
廿三年一月十八日	主幹	廿四年二月廿六日	同	同 野村 永保
廿三年一月十八日	土地買收主任	廿三年八月二十日	八ヶ月	同 片山 正中
廿三年一月十八日	委員	廿三年八月二十日	同	同 片山 正中
廿三年八月三十日	庶務	廿四年二月廿六日	一ヶ年	同 伴 時彦
廿五年八月九日	地 理	廿五年三月廿七日	七ヶ月	同 今立 乘信
廿三年八月三十日	地 理	廿四年二月廿六日	同	同 今立 乘信
廿三年一月十八日	工事主任	廿三年八月二十日	三年六ヶ月	同 三原 範治
同 年八月三十日	同	廿四年二月廿六日	同	同 三原 範治
廿五年八月九日	同	廿八年三月廿一日	同	同 三原 範治

疏水要誌附録

○附記

○水路事務所員

下京區
出議員

下京區撰出議員

廿二年四月當撰	廿五年三月抽籤退職	三	三	中立賣通堀川西入 役人町	岸田九兵衛
廿五年三月當撰	○	三	三	新通竹屋町下ル 辨財天町	確井小三郎
廿八年二月現在					
廿二年四月當撰	廿四年一月 辭職	十一	十	烏丸通五條下ル大 阪町	田中督次郎
廿八年二月現在					
廿二年五月補欠	廿五年三月抽籤退職	四	三	三條通高倉西入菱 屋町	川島甚兵衛
廿五年三月當撰		三	一	松原通高倉西入本 燈籠町	松下新助
廿八年二月現在					
廿二年四月當撰		五	十	新門前通大和大路 東入中之町	西村義民
廿八年二月現在					
廿二年四月當撰		五	十	佛光寺通烏丸東入 上柳町	東枝吉兵衛
廿八年二月現在					
廿二年四月當撰		三	三	油小路通花屋町上 ル西若松町	河村清七
廿五年三月當撰		三	三	大和路通五條下 ル五條橋東二町目	高橋正意
廿八年二月現在					
廿二年五月補欠	廿五年三月抽籤退職	十二	十一	室町通六角下ル鯉 山町	中野忠八
廿五年三月當撰		三	三	四條通河原町東入 眞町	荒木重兵衛
廿八年二月現在					

三百二

廿五年三月當撰	廿五年三月抽籤退職	三	三	四條通河原町東入 眞町	玉水新太郎
廿八年二月現在					
廿二年四月當撰		五	十	烏丸通四條下ル水 銀屋町	雨森菊太郎
廿五年三月當撰		三	三	土手町通正面下ル 紺屋町	下間庄右衛門
廿八年二月現在					
廿二年五月補欠		六	一	佛光寺通烏丸東入 上柳町	西村彌五郎
廿五年三月當撰		三	三	四條通寺町東入御 旅町	熊谷市兵衛
廿八年二月現在					
廿二年六月補欠	廿三年四月 死亡	十一	十	正面通鞘町西入上 堀詰町	中村平右衛門
廿五年三月當撰		三	三	寺町通五條上ル西 橋詰町	伊藤喜三郎
廿八年二月現在					
廿二年六月補欠		四	一	岩上通蛸薬師下ル 宮本町	川島岸太郎
廿五年三月當撰		一	四	六角通御幸町東入 八百屋町	林長次郎
廿八年二月現在					
廿二年四月當撰		三	九	烏丸通三條下ル優 頭屋町	原田與七
廿五年三月當撰		五	九	魚棚通新町東入魚 屋町	上野宇八
廿八年二月現在					
廿二年四月當撰	廿五年三月 辭職	三	三	大宮通八條上ル大 黒町	膳平兵衛
廿五年三月當撰		十一	十		堤彌兵衛
廿八年二月現在					

疏水要誌附録 ○市會議員

三百三

廿二年四月當撰	廿五年三月 辭職	三	年	烏丸通六角下ル七	山田定兵衛
廿五年三月當撰	○	三	年	寺町通佛光寺下ル	山本清助
廿八年二月現在		十一	年	惠美須ノ町	高木文平
廿二年四月當撰	廿四年二月失資格	十一	年	新町室町ノ間松原	清水吉右衛門
廿四年二月補欠	廿五年三月抽籤退職	二	年	西高瀬通松原下ル	古川吉兵衛
廿二年四月當撰		五	年	三條通河原町西入	中村榮助
廿八年二月現在		十一	年	石橋町	宍戸龜三郎
廿二年四月當撰		五	年	五條通五條橋東二	辻信次郎
廿八年二月現在		十一	年	町目	木村勝次郎
廿二年五月補欠		五	年	伏見街道本町十六	中村半兵衛
廿八年二月現在		十一	年	丁目	直木榮助
廿二年四月當撰		十二	年	不明門通五條下ル	
廿五年三月補欠		三	年	上平野町	
廿八年二月現在		七	年	油小路通五條上ル	
廿二年四月當撰		七	年	上金佛町	
廿四年二月補欠		二	年	東洞院通六角下ル	
		七	年	御射山町	
		二	年	富小路通四條上ル	
		一	年	大文字町	

臨時土木委員

臨時土木委員

沿革 明治廿三年七月臨時土木委員事務取扱規程ヲ發案シ七名ヲ以テ管理セシメントセシモ市會ハ審議ノ末廢案ニ決シ市參事會員ヲ以テ從事セシムル事ト成リタレハ市參事會ニ於テハ同年九月大澤善助東枝吉兵衛阪本則美ヲ以テ

臨時土木委員交代年月

臨時土木委員交代年月

- 第一期 自廿六年四月至同年九月 宍戸龜三郎 野原新造 木村勝次郎五月辭職
- 第二期 自廿六年十月至廿七年三月 宍戸龜三郎 伊藤喜三郎 堀田康人
- 第三期 自廿七年四月至同年九月 中川長平 山本清助 玉水新太郎
- 中村平右衛門 栗山敬親

雜記

本工事中地所及金品ヲ寄附セシモノハ左表ノ通ニシテ既ニ府知事へ上申シ置キタレハ夫々賞與サレタル筈ナリ

疏水要誌附錄

○臨時土木委員

○雜記

地所寄附 地所寄附ノ部

地種	坪	數	見積金額	住	所	人	名
宅		五〇〇	一、五〇〇	紀伊郡伏見町字上板橋共有惣代		河林伊右衛門	
同		七、七〇	二五〇、〇〇〇	同郡同町字中油掛第二番戸		安本利七	
同		六、九三	一〇九、一三〇	同郡同町字中油掛第二番戸		安本利七	
同		二四、二五	一〇、一四〇	同郡同町字堀詰新第四番戸		國松伊兵衛	
計	畑宅	八三坪 二四坪 二五坪	三六、八三〇			三人	

金員寄附 金員寄附ノ部

金	高	住	所	人	名
五、〇〇〇		紀伊郡深草村大字福稻		小林藤治郎	
一〇、〇〇〇		下京區本町通十町目		伊藤庄兵衛	
一〇、〇〇〇		上京區岡崎町		小林源兵衛	
一〇、〇〇〇		紀伊郡深草村大字福稻		同藤治郎	
一〇、〇〇〇		下京區本町通九町目		下村德治郎	
五、〇〇〇		同區本町通十一町目		多田繁三郎	
〇、二五〇		紀伊郡深草村大字福稻		上田米吉	
〇、五〇〇		同		山田貞次郎	
〇、一〇〇		紀伊郡深草村大字福稻		中川幸次郎	
〇、一〇〇		同		堀萬造	
〇、五〇〇		同		西村榮七	
〇、二五〇		同		中路清吉	
〇、五〇〇		同		中川卯八	
〇、五〇〇		同		利田仁三郎	
二、三〇〇〇		下京區三十三間堂前通七條下		近藤芳介	

疏水要誌附錄 ○金員寄附

十九人

樹木寄附ノ部

品目	員數	見積金額	住	所	人	名
櫻木	五〇株	一〇〇〇〇	同	紀伊郡深草村大字福稻	同	織田長右衛門
同	一〇	三、〇〇〇	同	同	同	同
松木	二	二、〇〇〇	同	郡伏見町京町十丁目	同	佐々木徳三郎
杉丸太	一〇〇	一八、〇〇〇	同	下京區川端正面下上堀詰町	同	伊藤喜三郎
計	一六〇株	三三、〇〇〇			三	人

附言 本工事中豫メ杞憂セシモノハ鴨川ノ一時増水ト運河接近人家ノ飲料水ノ關係ナリシ故ニ鴨川中ノ工事ハ成ル可ク増水ノ期節ヲ避ケサルヘカラス果セル哉明治二十六年五月強雨ノ爲メ常水ヨリ増スコト三尺餘ニ及ヒタルモ格別ノ損害ナク又飲料水ノ關係ニ就テハ下京區大和大路三條下ル辨財天町近傍ニ於テ汚水浸入ノコトアリシモ時々四條開門ヲ開放シテ濁水ヲ放流セシヲ以テ是又多クノ苦情ヲ聽カサリシハ僥倖ナリシ唯々憾ムヘキコトハ二十六年三

運河里程及通船時間

地	名	昇リ時間	降リ時間	每	距離	順	次	里	程
大津	京都築地間	二〇〇	二〇〇	百二間	一町四十二間				
自第一	保ヶ崎	一五、〇〇	九、三〇	三百間四分四厘	六町四十二間四分四厘				
第一	隧道東口	四、〇〇	二、〇〇	千三百四十間	廿九町二間四分四厘				
自第一	隧道西口	五、六〇	三、七〇	二千二百七十三間一分四厘	一里三十町五十五間五分八厘				
第二	隧道東口	二、〇〇	一、〇〇	六十八間五分	一里三十二町四間八厘				
自第二	隧道西口	四、〇〇	三、〇〇	百四十五間二分	一里三十四町廿九間二分八厘				

月二十二日午後二時頃紀伊郡深草村大字福稻地内ノ運河堀鑿中俄然土砂崩壊ノ爲メ下京區本町通五條下ル十八町目人夫湯淺定次郎ナル者不幸ニシテ壓死シ外二人ハ負傷セリ依テ同月二十九日市參事會ヨリ右定次郎遺族ヘ吊祭料及扶助料ヲ給與セリ
琵琶湖疏水工事ハ本運河竣成ヲ以テ全ク竣功ス依テ左ニ滋賀縣下大津三保ヶ崎ナル運河基點ヨリ府下紀伊郡伏見町字堀詰ニ至ル毎距離及通船昇降時間表ヲ附シ以テ觀覽ノ便ニ供ス

琵琶湖疏水運河每距離里程及通船昇降時間表

疏水要誌附錄 ○運河里程及通船時間

關門通船時間

位置	昇り時間	降り時間	位置	昇り時間	降り時間
第三 隧道	一五〇〇	八〇〇	四百六十七間	二里六町十六間二分八厘	
自第三隧道西口	三〇〇	二〇〇	九十二間二分九厘	二里十町八間五分七厘	
至蹴上傾斜鐵道					
蹴上傾斜鐵道	一三〇〇	一三〇〇	三百二十間	二里十三町八間五分七厘	
自南禪寺船溜	三五〇〇	二六三〇	九百九十八間五分	二里廿九町四十七間七厘	
至鵜川東岸落合					
自鵜川東岸落合	一三〇〇	一四〇〇	千八百卅七間七分	三里廿四町廿四間七分七厘	
至紀伊郡柳原町塚	三〇〇〇	三〇〇〇	千二百七十五間	四里九町卅九間七分七厘	
自紀伊郡柳原町塚					
至稻荷船溜	三〇〇〇	三〇〇〇	千三百四十七間	四里卅二町六間七分七厘	
自稻荷船溜					
至紀伊郡堀内船溜	三〇〇〇	三〇〇〇	百三十間	四里卅四町十六間七分七厘	
自紀伊郡堀内船溜					
伏見傾斜鐵道	五〇〇〇	五〇〇〇	三百三十間	五里三町四十六間七分七厘	
自伏見傾斜鐵道					
至伏見町堀詰	九〇〇	九〇〇	一萬千廿六間七分七厘	五里三町四十六間七分七厘	
計	五、四〇〇〇	四、五六〇〇			

此昇降時間ヲ計リシハ小船一人乗ニシテ昇リハ二人ニ曳カセ下リハ艦ヲ以テセシモノナレハ最モ速達ト知ルヘシ

各關門通船時間表

位置	昇り時間	降り時間	位置	昇り時間	降り時間
夷川	五、一〇〇	四、〇〇〇	松原	二、三〇〇	三、三〇〇
仁王門	二、二五〇	三、〇〇〇	條	二、三〇〇	三、三〇〇
孫橋	二、二五〇	三、〇〇〇	面	三、一〇〇	四、〇〇〇
三條	二、三〇〇	三、三〇〇	七條	二、三〇〇	三、三〇〇
計					一〇、〇〇〇

疏水運河使用條例

琵琶湖疏水工事ハ本運河成功ヲ以テ全ク竣功スレハ琵琶湖疏水要誌モ亦本卷ヲ以テ記事ヲ終ル依テ既ニ水力利用ニ係ル諸條例及水力工場ノ現況概略ヲ卷末ニ附ス

疏水運河使用條例

- 第一條 市制第八十九條ニ依リ疏水運河ヲ使用セントスルモノハ此條例ニ遵フヘシ
- 第二條 疏水運河ヲ使用セシムルハ運輸船及遊船ニ限ルモノトス但蒸氣機關ヲ備ヘサル運輸船及遊船ハ當分ノ内使用ヲ許サス
- 第三條 疏水運河ヲ使用セントスルモノハ別紙甲書式ニヨリ京都市水利事務所ニ申出許可ヲ受クヘシ
- 第四條 前條ニヨリ使用申出アルトキハ其順序ニ從フテ之ヲ許可シ追テ船形積

疏水要誌附錄

○疏水運河使用條例

石等検査ノ上鑑札ヲ交付スヘシ

但都合ニヨリ申出ノ船數ヲ減少セシメ又ハ使用ヲ許可セサルコトアルヘシ

第五條 疏水運河ヲ使用セシムル年期ハ本條例施行ノ際ヨリ運輸船ハ十箇年遊船ハ五箇年ヲ以テ一期トス

但満期ニ至リ尙使用繼續セントスルモノハ期限一箇月前第三條ノ手續キニヨリ京都市水利事務所ノ許可ヲ受クヘシ

第六條 運輸船形ハ長サ三十六尺幅六尺(内徑)吃水二尺以内甲乙丙三種トシ豫メ水利事務所ニ備ヘ置ク摸範船ニ據ルヘシ遊船形ハ長サ三十四尺幅五尺五寸(内徑)以内トシ屋形アルモノニ限ル可シ

但遊船ニシテ長サ十五尺幅四尺(内徑)未滿ノモノハ屋形ナキモ使用者ノ便宜ニ任ス

第七條 運輸船ノ積量ハ一艘ニ付五十石ヨリ超過スヘカラス

第八條 運河使用ノ許可ヲ得タル者ハ三箇月以内ニ造船シ検査ヲ受クヘシ

但此期限内ニ造船検査ヲ受ケサル者ハ許可ノ効力ヲ失フモノトス

第九條 運河中定繋場ハ左ノ場所ニ限ル

但使用者ニシテ特ニ定繋場ノ許可ヲ得タルモノハ本條ノ限リニ非ス
一 運輸船

京都第一築地 鴨東船溜 五條船溜

伏見稻荷前船溜 伏見インクライン上船溜

一 遊船

京都第二築地 第三隧道東口船溜 藤尾村船溜 蹴上ヶ船溜

廣道橋東西 鴨東船溜 五條船溜 伏見稻荷前船溜

伏見インクライン上船溜

第十條 第四條ニヨリ使用ヲ許可シタルトキハ交附スヘキ鑑札左ノ如シ
但鑑札ハ其船尾ノ外部ニ貼附スヘシ

番號	何十石	使用者	何 某
運輸船	自何年 至何年	京都市水利事務所	

番號	遊船(屋形)長何十尺 中何尺	使用者	何 某
遊船(屋形)	自何年月 至何年月	京都市水利事務所	

第十一條 運河使用人代替リ又ハ船體ヲ賣買讓與シタルトキハ(買受人讓受人双方連署)鑑札ノ

疏水要請附録 ○疏水運河使用條例

書替ヲ受クヘシ

第十二條 運河使用ノ許可ヲ受ケタルモノノ使用ヲ廢止セントスルトキハ別紙乙書式ニ據リ京都市水利事務所ヘ届書ト共ニ鑑札ヲ返納スヘシ

但船體ハ三週間以内ニ陸上ケスヘシ

第十三條 運河使用人ハ通船中左ノ諸項ヲ遵守スヘシ

一 運河ハ上リ一秒時間ニ五尺以上ノ速力ヲ以テ進航スヘカラス

二 航路ハ河ノ中央ヲ取ルヘシ二船以上並航スヘカラス

三 船ノ行キ違フトキハ都テ其船ノ右ニ避クヘシ

四 後船前航船ニ先立ントスルトキハ其船ノ了諾ヲ得テ乗越スヘシ

五 第一第三隧道ヲ通過又ハ夜航フトキハ船首ニ點燈スヘシ

六 堤防及河底ヘ竹木等ヲ挿入スヘカラス

七 川岸堤防等ヘ物貨ヲ堆積シ運河船曳ノ妨ケチナスヘカラス

第十四條 遊船ニ於テハ物貨ヲ搭載スルヲ許サス

第十五條 運河使用人ハ火藥屍體及尿管等ヲ搭載スルヲ許サス

但軍用ニ係ルモノハ此限リニアラス

第十六條 使用料ハ左ノ區分ニ從ヒ之ヲ徵收ス

一 運輸船

大津京都間上下各一回ニ付

甲船(五十石積)金五拾錢
乙船(三十石積)金拾錢
丙船(十五石積)金拾五錢

但中途荷積荷揚ニ係ルモノト雖トモ本文ニ據リ徵收ス

京都伏見間上下各一回ニ付

甲船(五十石積)金四拾錢
乙船(三十石積)金貳拾四錢
丙船(十五石積)金拾五錢

但前同様

一 遊船

一箇年一艘ニ付

屋形アルモノ 金拾五圓
屋形ナキモノ 金七圓五拾錢

一 遊船ニ係ル開門及インクライン使用料

開門一箇所一度一艘ニ付

大津並鴨東開門 金五圓
鴨川新運河開門 金貳拾錢

インクライン一箇所一度一艘ニ付

鴨川新運河開門 金貳拾錢
伏見インクライン 金拾錢

第十七條 開門及インクライン昇降ハ到着ノ順序ニ從フヘシ

但運輸船遊船同時ニ着シタルトキハ運輸船ヲ先トス

第十八條 開門インクラインニ於テ運輸船ノ輻湊シタルトキニ限リ京都市水利

事務所出張員ハ遊船ノ通過ヲ停止スルコトアルヘシ

第十九條 運輸船ノ使用料ハ其使用切符ヲ以テ發船地(大津、京都、伏見)ノ水利事務所

出張員ヘ差出シ檢閲ヲ受ケ着船地(若船地モ亦同シ)ノ出張員ヘ納付スヘシ

但中途ヨリ歸ルモノアルトキハ發船地ノ出張員ヘ納付スヘシ

第二十條 遊船ノ使用料ハ毎年四月五日限リ京都市水利事務所ヘ納付スヘシ
但年度半ハニ開業スルモノハ船形検査済ノ日ヨリ五日以内ニ其年額ヲ納付スヘシ

第二十一條 遊船ヲ以テ疏水運河ヲ使用スルモノニシテ年度半ハニ使用ヲ廢止スルコトアルモ既納ノ使用料ハ返付セス

第二十二條 遊船ニ係ル閘門及イングライン使用切符ハ各閘門及イングライン番所出張員ヘ納付スヘシ

第二十三條 第十九條第二十二條ノ使用切符ハ京都市水利事務所ニ於テ購求スヘシ

第二十四條 運河堤防其他修補ノ爲メ通船ヲ停止スルコトアルヘシ最モ是カ爲メ通船營業者ニ損害アルモ京都市水利事務所ハ其責ニ任セス

第二十五條 通船中堤防橋梁等ニ損害ヲ與ヘタルモノアルトキハ京都市水利事務所ハ其修補ヲ爲シ該費用ハ損害ヲ與ヘタル使用者ヨリ辨償セシム

第二十六條 運河ニ關スル規定ニ背キタルモノハ京都市水利事務所ハ運河使用ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

(甲乙書式ハ之ヲ略ス)

電動力使用條例

電動力使用條例

第一條 市制第八十九條ニ依リ電動力ヲ使用セントスルモノハ此條例ニ遵フヘシ

第二條 電動力ヲ使用セシムルハ本條例施行ノ際ヨリ十箇年ヲ以テ一期ト定ム但滿期後其繼續ヲ望ムモノハ更ニ申出許可ヲ受クヘシ

第三條 電動力ヲ使用セントスルモノハ使用ノ場所使用馬力數及使用時間等ヲ記載シタル書面ヲ以テ京都市水利事務所ヘ申出許可ヲ受クヘシ使用時間馬力數等ヲ變更セントスルトキ亦同シ
但使用者ノ申出アルトキト雖トモ距離又ハ場所ノ都合ニ依リ直チニ求メニ應セサルコトアルヘシ

第四條 電動力使用者ノ使用場ニ達スル電線電柱及布設工費ハ京都市水利事務所所之ヲ負擔ス
但工場内部ニ係ル發動機及其他布設工費ハ使用者ニ於テ負擔スヘシ

第五條 電動力使用者ニ於テ用フヘキ發動機ハ使用者ニ於テ機械購求前豫メ京都市水利事務所ニ協議スヘシ

第六條 電動力使用料ハ一日十二時間ノ割ヲ以テ左ノ區分ニ從ヒ徵收ス尤モ使用時間八時ニ滿マサル時ト雖トモ八時間分ノ使用料ヲ徵收ス

但使用時間一日八時以上十七時未滿ハ時間割ヲ以テ十七時以上十八時未滿ハ十二時間ノ使用料ニ三割ヲ増シ十八時以上ハ同ク五割増ノ使用料ヲ徵收ス

一馬力未滿	一箇年	一馬力ニ付	金 百 圓
一五馬力未滿	同	同	金 六 拾 六 圓
一十馬力未滿	同	同	金 五 拾 四 圓
一三十馬力未滿	同	同	金 四 拾 六 圓
一五十馬力未滿	同	同	金 四 拾 壹 圓
一百馬力未滿	同	同	金 參 拾 七 圓
一百馬力以上	同	同	金 參 拾 參 圓

第七條 使用料ハ發電機若クハ發電機總馬力ト使用時間トニ依リ一箇年ノ使用料ヲ定ム

但發電機總馬力ニヨリ使用料ヲ定ムルハ八十馬力以上毎日十二時間以上使用スルモノニ限ル

第八條 京都市水利事務所ハ時々吏員ヲ派出シ電動力使用ノ實況ヲ點檢スヘシ若シ使用許可外ノ時間ニ涉リタルトキハ更ニ其使用時間ニ對スル使用料ヲ徵收ス

第九條 使用者ニ於テ六十日以上引繼キ電動力ヲ使用セサルトキハ其日數ニ對スル使用料ハ徵收セス

但本條ノ場合ニ於テハ其都度京都市水利事務所ヘ届出ツヘン

第十條 使用料ハ其年額ヲ四分^(一月四月)シ^(七月十月)其月五日限り京都市水利事務所ヘ納ムヘシ

但納期內新ニ使用スルモノアルトキハ其使用ニ對スル使用料ヲ次期ノ納期ニ於テ納ムヘシ

第十一條 使用料ヲ納期ニ至リ納メサルトキハ京都市水利事務所ハ送電ヲ停止スルコトアルヘシ

第十二條 電動力使用者ニ於テ期限內ニ使用ヲ廢止セントスルトキハ前以テ京都市水利事務所ヘ届出ツヘシ

第十三條 前條ノ場合ニ於テハ既納ノ使用料ハ返附セス

第十四條 電動力使用人代替リノトキ及工場其他賣買讓與シタルトキハ

(買受人讓受人双方)

第十五條 運河堤防及發電機等修繕ノ爲メ送電セサルコトアルヘシ是レカ爲メ使用者ニ損害アルモ京都市水利事務所ハ其實ニ任セス尤モ送電セサルコト引繼キ四日以上ニ亘ルコトアラハ其日數ニ對スル使用料ハ徵收セス

疏水水力
使用條例

但運河堤防及發電機等修繕ノトキハ緊急ノ場合ヲ除クノ外施行一週日以前ニ告示スヘシ

第十六條 電動力使用者ニ於テ發動機布設等ノ爲メ京都市水利事務所ノ技師及其他ノ出張ヲ乞フモノハ當所ノ指定ニ從ヒ其費用ヲ支辨スヘシ

第十七條 電動力使用者ニシテ電燈ヲ點火セントスルモノハ本條例ニ遵ヒ京都市水利事務所ノ發電機ニ適合スル點燈式ニ據リ使用申出ルモノニ限り許可ス但シ使用料ハ十六燭光十個ヲ以テ一馬力ト定メ總テ電動力使用料ノ割合ニ據リ徵收ス

疏水水力使用條例

第一條 市制第八十九條ニ依リ水力ヲ使用セントスルモノハ此條例ニ遵フヘシ

第二條 諸製造ノ爲メ水力ノ使用ヲ許スハ左ノ場所ニ限ル其他ノ爲メニ使用ヲ許スハ市參事會ニ於テ臨時之ヲ定ム

一 第四隧道北分水口 一 光雲寺裏 一 第六隧道南口 一 鴨東船溜

一 第六隧道北口 一 小川筋 一 伏見インクライン上船溜

第三條 水力ヲ使用セシムルハ本條例施行ノ際ヨリ十箇年ヲ以テ一期ト定ム但滿期後其繼續ヲ望ムモノハ更ニ申出許可ヲ受クヘシ

第四條 水力ヲ使用セントスルモノハ使用ノ場所及其水量等ヲ記載シタル書面

ヲ以テ京都市水利事務所へ申出許可ヲ受クヘシ

第五條 水力使用ノ爲メ設クル分水口土功及工費ハ京都市水利事務所ニ於テ負擔シ工場ニ達スル水管其他工費ハ使用者ニ於テ負擔スヘシ

第六條 水力使用ノ許可ヲ受ケタル後三箇月以内ニ工場其他ノ準備ニ着手セサルモノハ使用許可ノ効力ヲ失スルモノトス

第七條 水力使用料ハ左ノ通徵收ス

一 水量一個ニ付(落差八十尺以上) 一箇年 金百六拾圓

但八十尺未滿ノ落差アル箇所ニハ本條ノ比例ニヨリ之レカ使用料ヲ定ム

第八條 水量一個トハ一秒時間一立方尺ノ流量ト定ム

第九條 使用者ニ於テ六十日以上引續キ水力ヲ使用セサルトキハ其日數ニ對スル使用料ハ徵收セズ

但本條ノ場合ニ於テハ其都度京都市水利事務所へ届出ツヘシ

第十條 使用料ハ其年額ヲ四分シ(一月四月)其月五日限リ京都市水利事務所へ納ムヘシ

但納期內新ニ使用スルモノハ使用ノ日數ニ對スル使用料ヲ次期ノ納期ニ於テ納ムヘシ

第十一條 使用料ヲ納期ニ至リ納メサルトキハ京都市水利事務所ハ分水ヲ停止

スルコトアルヘシ

第十二條 使用者ニ於テ期限内水力使用ヲ廢止セントスルトキハ前以テ京都市水利事務所へ届出ツヘシ

第十三條 前條ノ場合ニ於テハ既納ノ使用料ヲ返附セズ

第十四條 水力使用人代替リノトキ及工場其他賣買譲與シタルトキハ(買受人譲受人双方運賃)

京都市水利事務所へ届出ツヘシ

第十五條 疏水運河及分線路修補ノ爲メ分水セサルコトアルヘシ是レカ爲メ使用者ニ損害アルモ京都市水利事務所ハ其責ニ任セス尤モ分水セサルコト引續キ四日以上ニ亘ルコトアラハ其日數ニ對スル使用料ハ徵收セズ

但疏水運河及分線路修補ノトキハ緊急ノ場合ヲ除クノ外施行一週間前ニ告示スヘシ

水力工場

水力工場

目下水力工場ノ現況大略ハ左ノ如シ

發電所ハ明治二十九年ニ至リ全ク總馬力二千馬力ヲ起スヘキ計畫既ニ成リ内目下凡ソ百二十馬力ベルトン水車十三臺凡ソ百馬力發電機十三臺ヲ据付千三百馬力ノ電動力ヲ發起ス架線ノ延長ハ既ニ三萬六千八百餘間ニ及ヘリ

電動力ハ千馬力ヲ使用ス其種類ハドラム、電氣鐵道黃銅延板金、紡績鍛冶組紐用、時

計炭團、油、ラム子、氷等ノ製造ニ供ス而シテ猶申込高七百馬力餘アリ

水力ハ三百個餘ヲ使用ス多クハ精米水車用ナルモ燃糸鍛冶及電線製造等ニモ供セリ

運河ハ京都大津間ヲ往復スル運輸船ハ三十石積一日平均五十艘客船ハ百餘艘ニシテ乗客ハ三百五十六人等ナリ

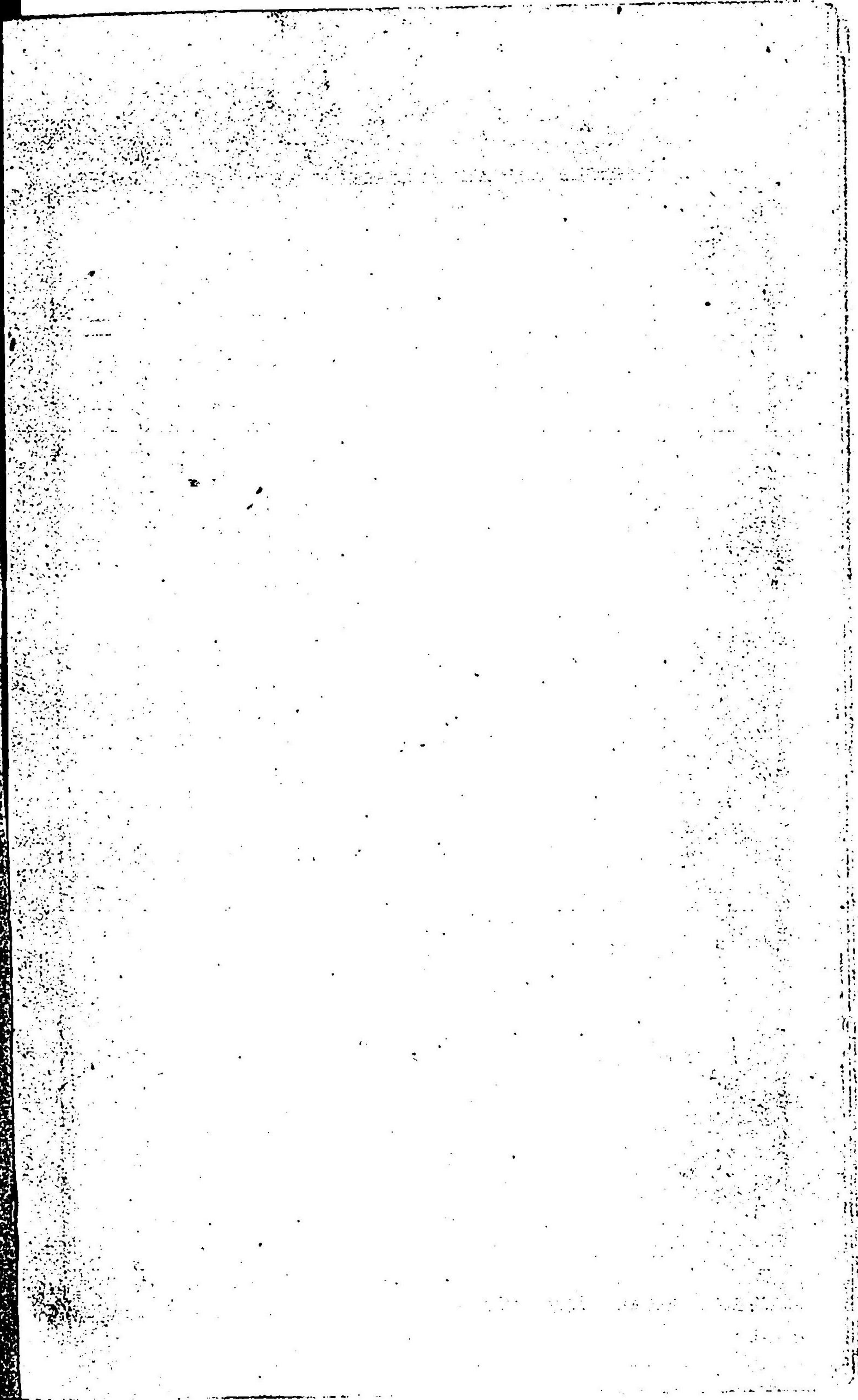
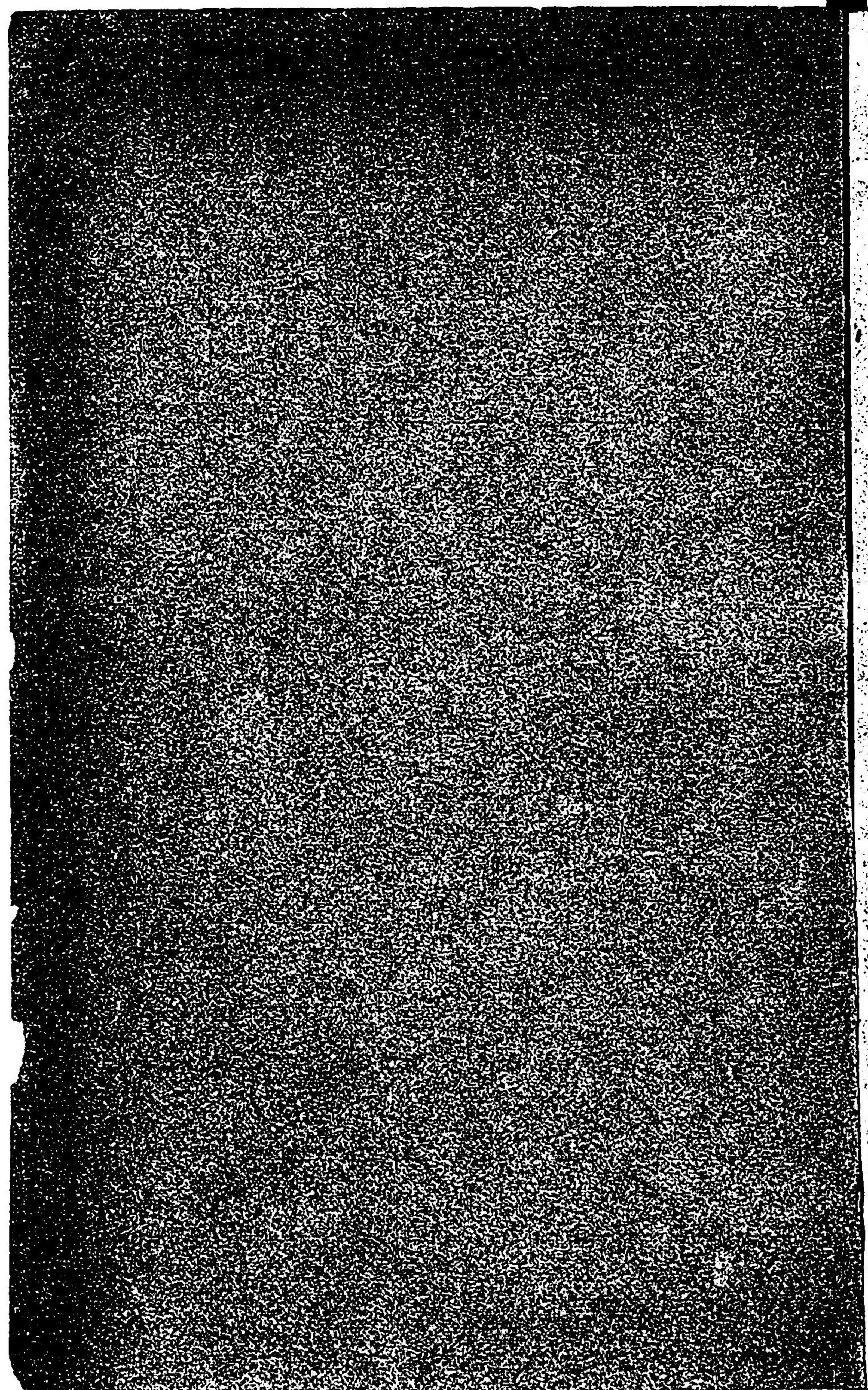
訂琵琶湖疏水要誌終

7/2/38

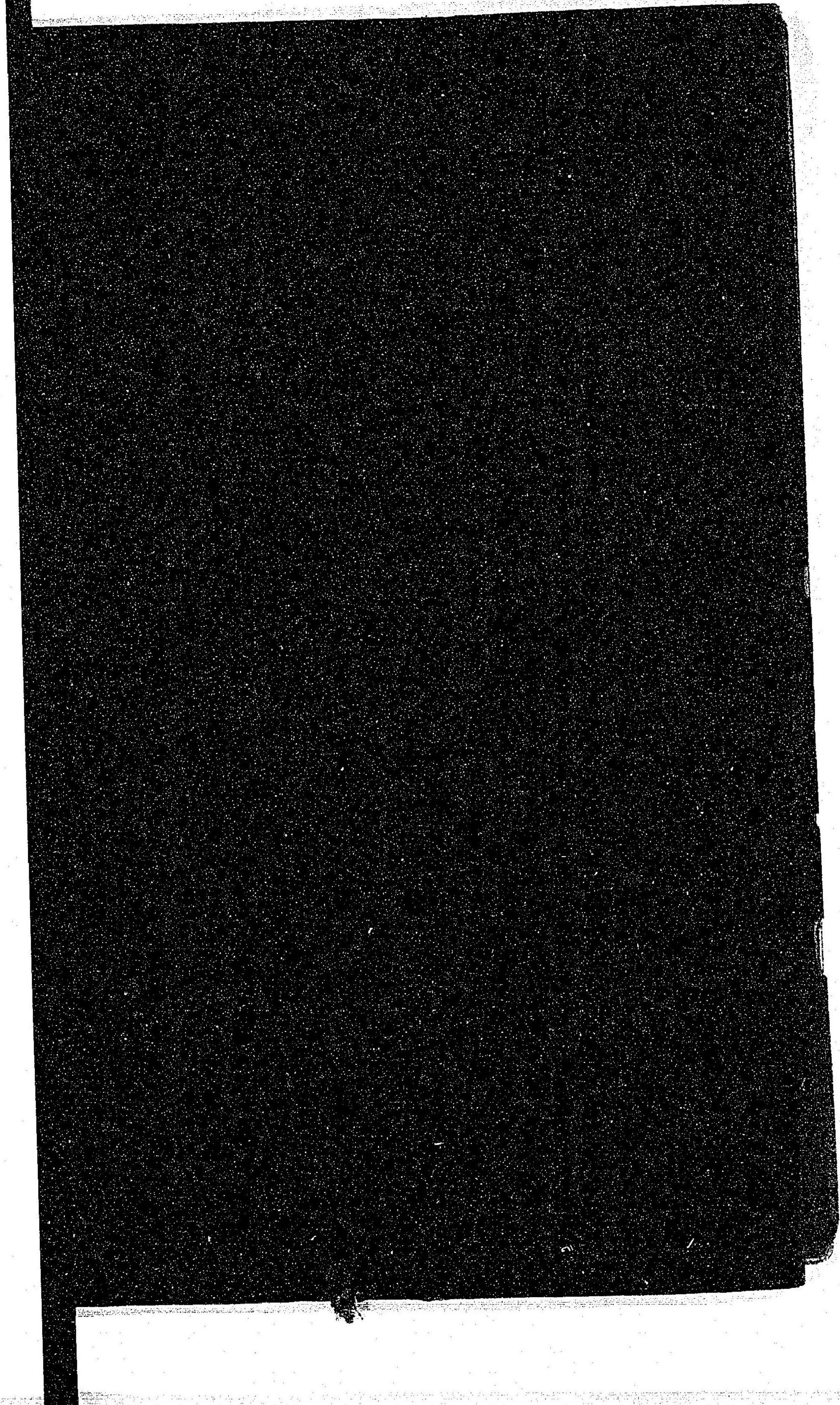
明治二十三年四月一日 卷一出版
 同 二十五年十二月二十六日 卷二出版
 同 二十六年六月十日 卷三出版
 同 二十八年六月十五日 附錄出版
 同 二十九年七月二日 訂正合卷印刷
 同 二十九年七月五日 出版

京都市參事會

印刷者 村上勘兵衛
京都市上京區東洞院三條上ノ榮華院前之町十番戶



37
55



27

55口

066382-000-9

27-55口

琵琶湖疏水要誌 (訂2版)

若松 雅太郎/編

M29.7

CDB-0425



